

三芳町住民意識調査報告書

平成27年3月

三 芳 町

目 次

I. 調査の概要	3
1. 調査実施の目的	3
2. 調査項目	3
3. 調査設計	3
4. 回収結果	3
5. 調査結果を見る上での注意事項	3
6. 調査回答者の特性	4
II. 調査結果の概要	9
1. まちの住みやすさについて	9
2. 地域内の様子について	9
3. 町の現状についての満足度	10
4. 町政運営について	10
5. 町の将来イメージ	11
III. 調査結果の詳細	15
1. まちの住みやすさについて	15
(1) 居住理由	15
(2) 住みやすさ	18
(3) 住みやすいと感じる理由	20
(4) 住みにくいと感じる理由	23
(5) 以前と比べた三芳町の住みやすさ	26
(6) 定住意向	30
(7) 住み続けたくない理由	32
(8) 友人・知人への推薦意向	35
(9) 町に対する愛着	38

(10) 相談相手	40
2. 地域内の様子について	41
(1) よりよい地域をつくっていく雰囲気や土壌	41
(2) 地域活動や交流への関心度	43
(3) 自治会や町内会についての考え方	45
(4) 参加したい地域活動	47
3. 町の現状についての満足度	50
(1) 「環境」について	50
(2) 「都市整備」について	52
(3) 「安全対策」について	54
(4) 「子育て支援」について	56
(5) 「保健福祉」について	58
(6) 「産業経済」について	60
(7) 「教育・文化」について	62
(8) 「コミュニティ・行財政」について	64
4. 町政運営について	71
(1) 第4次総合振興計画（基本構想・基本計画）に対する認知度	71
(2) 町政への関心度	72
(3) 町政に関心がある理由	74
(4) 町政に関心がない理由	75
(5) 町政や町の行事の情報収集方法	76
(6) 町政に意向を伝える方法	78
(7) 行政運営に対する要望	79
(8) 力を入れるべき施策	81
5. 町の将来イメージ	102

(1) 現在の三芳町のイメージとこれからの三芳町のイメージ.....	102
(2) 三芳町の理想の将来像	104
(3) 三芳町の誇りや宝・シンボルなど	105
(4) 三芳町の特徴に対する認知度.....	115
(5) 三芳町の将来の人口規模に対する考え方	119
(6) 三芳町のまちづくりの方向性に対する考え方	121
(7) 三芳町の少子高齢化対策に対する考え方	123
(8) 三芳町の土地利用に対する考え方.....	126
(9) 災害対策について行政に期待すること	132
(10) 三芳町の今後の町政全般に対する意見・提案.....	134

IV. 参考資料

三芳町住民意識調査調査票

I 調査の概要

I. 調査の概要

1. 調査実施の目的

「三芳町住民意識調査」は、まちづくりの基本的な指針である『三芳町第5次総合計画』の策定に向けた基礎資料として、施策への住民満足度や地域課題の現況を把握するために実施するものである。

2. 調査項目

- (1) まちの住みやすさについて
- (2) 地域内の様子について
- (3) 町の現状についての満足度
- (4) 町政運営について
- (5) 町の将来イメージ

3. 調査設計

- (1) 調査地域 三芳町全域
- (2) 調査対象 三芳町に居住する16歳以上の男女
- (3) 標本数 2,000人
- (4) 抽出方法 住民基本台帳から無作為に抽出
- (5) 調査方法 郵送法（郵送配布—郵送回収）
- (6) 調査時期 平成26年10月8日（水）～10月31日（金）

4. 回収結果

項目	内容
配布票数	2,000票
有効回収数	886票
有効回収率	43.3%

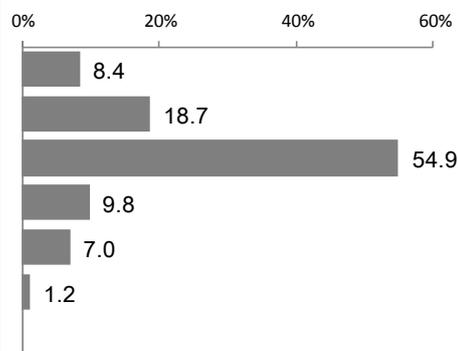
5. 調査結果を見る上での注意事項

- ・ 表、グラフ中の「n」は、各設問に対する回答者数を示している。
- ・ 百分率（%）の計算は、「n」を分母とし、小数点第2位を四捨五入して表示している。したがって、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合がある。
- ・ 複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、%の合計が100%を超える場合がある。
- ・ 本文、表、グラフ中は、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・ 回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。

6. 調査回答者の特性

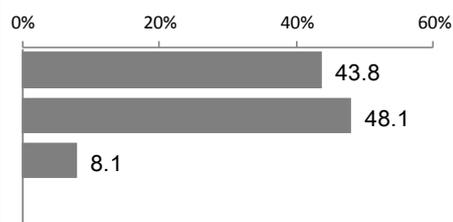
◆居住地区

	基数	構成比
上富地区	74	8.4%
北永井地区	166	18.7%
藤久保地区	486	54.9%
竹間沢地区	87	9.8%
みよし台地区	62	7.0%
無回答	11	1.2%
全 体	886	100.0%



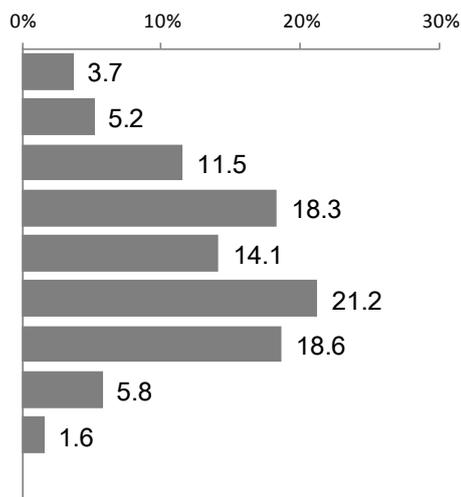
◆性別

	基数	構成比
男 性	388	43.8%
女 性	426	48.1%
無回答	72	8.1%
全 体	886	100.0%

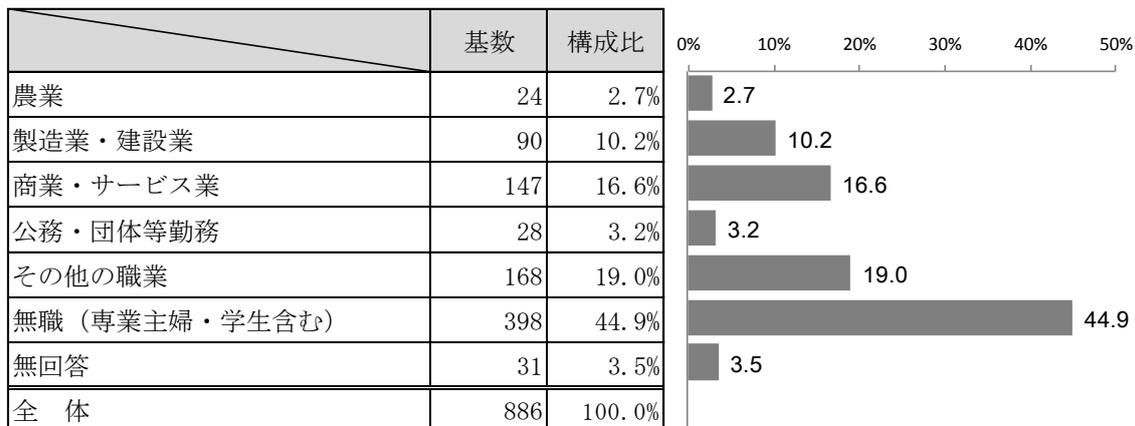


◆年齢

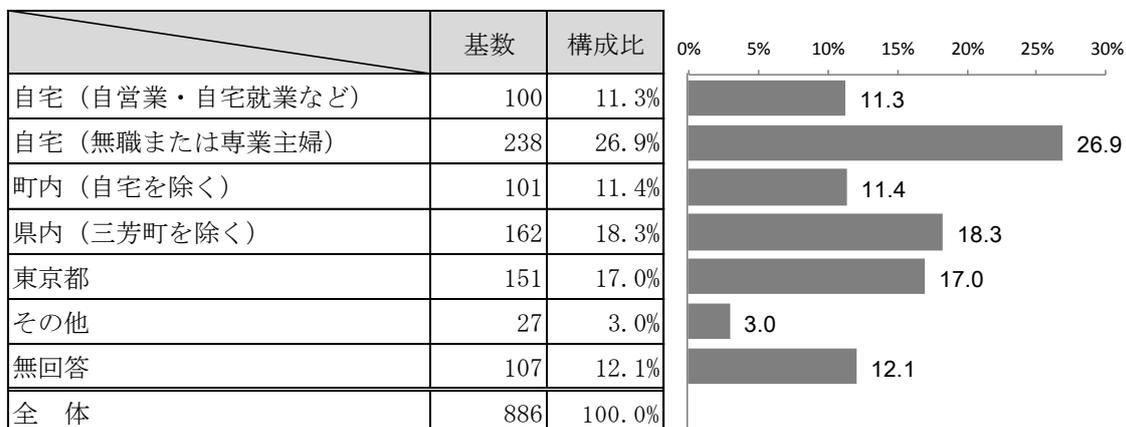
	基数	構成比
16～19歳	33	3.7%
20～29歳	46	5.2%
30～39歳	102	11.5%
40～49歳	162	18.3%
50～59歳	125	14.1%
60～69歳	188	21.2%
70～79歳	165	18.6%
80歳以上	51	5.8%
無回答	14	1.6%
全 体	886	100.0%



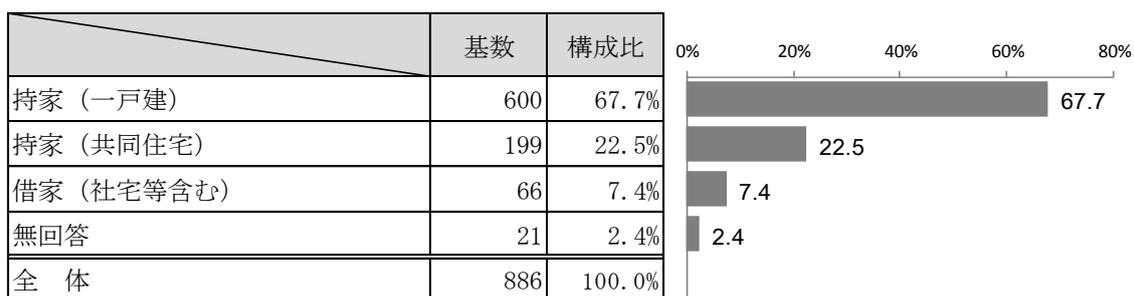
◆職業



◆就業地・通学地

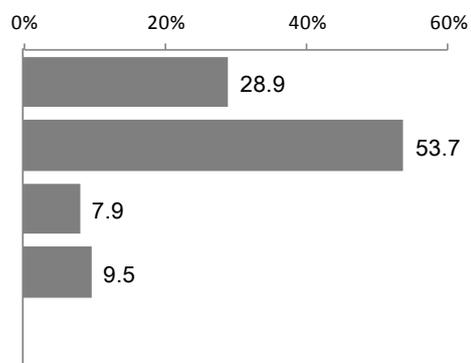


◆住宅



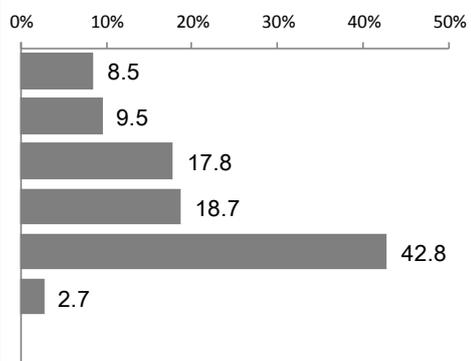
◆土地所有

	基数	構成比
土地は所有していない	256	28.9%
自宅用の土地のみ所有している (店舗等兼用含む)	476	53.7%
自宅以外に土地を所有している (農地・林・事業所・倉庫など)	70	7.9%
無回答	84	9.5%
全 体	886	100.0%



◆三芳町での居住年数

	基数	構成比
5 年未満	75	8.5%
5～9年	84	9.5%
10～19年	158	17.8%
20～29年	166	18.7%
30年以上	379	42.8%
無回答	24	2.7%
全 体	886	100.0%



Ⅱ. 調査結果の概要

Ⅱ. 調査結果の概要

1. まちの住みやすさについて

三芳町の住みやすさについては、《住みやすい》という人が 82.9%を占めており、前回調査（平成 22 年度）とほぼ同様の評価となっている。住みやすいと感じる理由は、「生活が便利」が約 5 割で最も多い。以前と比べて住みやすくなったと感じる点は、「道路が整備された」ことや、「店舗が増えた、買い物が便利になった」という回答が多く、生活環境の改善がうかがえる結果となっている。しかし、その一方で、「交通量が増し、渋滞発生や事故等も多い」、「道路の整備が行き届いていない」、「交通機関が不便」、「緑（自然）が少なくなった」と感じるという意見も多く挙げられている。

地区別にみると、「マイホームを求めて」三芳町に住むようになった人が多いみよし台地区では、「生活が便利」という理由で《住みやすい》と答える人が多い。一方で、「生まれた時から住んでいる」という人が多い上富地区では、「長年住み慣れている」「家族や親類、友人などがいる」「周辺の自然環境が良い」という理由が多い一方で、「生活が便利」と答える人が他の地区に比べて極めて少なく、地域によって《住みやすい》と感じる理由が異なっている。

三芳町への定住意向については、「住み続けたい」が 8 割を超え、前回調査（平成 22 年度）と同様に多くなっている。ただし、年代別で見ると 20 代の定住意向は 54.3%と他の年代に比べて極端に少ない。町に対する愛着については、《愛着を感じる》という人が 62.0%と前回調査（平成 22 年度）から約 10 ポイント減少している。

2. 地域内の様子について

より良い地域をつくっていく雰囲気や土壌は、《あると思う》は全体の 4 割以上を占めている。いずれの地区でも《あると思う》は多いが、みよし台は 7 割超と特に多くなっている。地域活動や交流への《関心がある》と回答した人は 35.0%と前回調査（平成 22 年度）から 5 ポイント減少している。

自治会や町内会についての考え方については、「地域の防災や防犯には欠かせない」（28.2%）が最も多く、前回調査（平成 22 年度）から 9 ポイント増加している。参加したい地域活動については、「趣味や学習・文化などのサークル活動」（30.2%）が最も多く、次いで「スポーツ・レクリエーション活動」（24.2%）が続いている。

3. 町の現状についての満足度

満足度は各分野の各施策項目で、前回の調査と同様にプラスの評価が多くなっている。評価平均点で見ると、保健福祉、教育・文化、コミュニティ・行財政の分野ではいずれの項目もプラス評価となっている。

安全対策分野における「放置自転車対策や駐輪場の確保」、保健福祉分野における「高齢者のための施設や制度」「救急医療体制」などでは前回から評価が上昇している。一方で、都市整備分野ではいずれの項目でも前回から評価が低下している。

4. 町政運営について

第4次総合振興計画（基本構想・基本計画）について「知らない」という人が全体の7割以上を占めている。

町政への《関心がある》と答えた人は、50.0%で前回から約9ポイント減少している。町政への《関心がある》理由は、「自分の暮らし向きに直接関係があるから」（73.6%）や「町をもっとよくしたいから」（48.3%）が多い。一方、町政への《関心がない》理由は、「個人の意見は行政に反映されにくいと思うから」（36.4%）や「忙しくて町政のことを考える暇がないから」（36.1%）が多い。

町政や町の行事の情報収集の方法としては、「広報みよし」をあげる人が9割近くと圧倒的に多く、次いで「回覧板や掲示板、自治会を通じて」が45.4%となっている。町政に意向を伝える方法としては、「役場に電話をかける」が45.1%で前回と同様に最も多い。

行政運営に対する要望としては、「無駄の削減などの行政改革や健全な財政運営」が52.9%と圧倒的に多く、次いで「親しみのもてる役場の環境づくり」と「閉庁日や時間外などの行政サービス」がともに28%台となっている。

今後力を入れるべき施策としては、「バスなど公共交通網の整備」（49.4%）、「公園や緑地の整備」（43.2%）、「身近な生活道路の整備」（39.2%）、「高齢者のための施設や制度の充実」（38.4%）、「歩道や信号機など交通安全対策」（35.2%）がトップ5となっている。

各分野別にみると、都市整備分野では「バスなど公共交通網の整備」（49.4%）や「身近な生活道路の整備」（39.2%）が多い。安全対策分野では「歩道や信号機など交通安全対策」（35.2%）や「防犯対策」（32.4%）が多い。子育て支援分野では「安心して妊娠・出産・育児ができる環境の整備」（32.7%）や「共働き世帯の子育て支援」（24.3%）が多い。保健福祉分野では「高齢者のための施設や制度」（38.4%）や「救急医療体制」（31.3%）が多い。産業経済分野では「働く場所の確保や就労支援」（32.2%）や「地元の農産物の流通や後継者対策など農業の振興」（30.7%）が多い。教育・文化分野では「小・中学校

の施設や教育内容」(29.2%)や「図書館・公民館・文化会館等の学習文化施設やサービス」(27.5%)が多い。コミュニティ・行財政分野では、「地域の祭り・イベント・各種行事の充実」(23.1%)や「行財政改革(経費削減等)」(15.3%)が多い。

今後力を入れるべき施策(期待度)と各施策に対する満足度の関係をみると、「バスなど公共交通網の整備」、「身近な生活道の整備」、「働く場所の確保や就労支援」、「公園や緑地の整備」、「歩道や信号機など交通安全対策」に対する期待度が高いにもかかわらず満足度は低く、優先的に取り組むべき施策となっている。

5. 町の将来イメージ

現在の三芳町のイメージについては、「緑豊かな」(47.6%)と「自然環境がよい」(42.8%)が多い。期待するこれからの三芳町のイメージでは、現在のイメージとは異なり「安心・安全な」(48.2%)や「魅力のある」(41.0%)が多くなっている。

三芳町の理想の将来像については、「自然環境に恵まれたまち」や「交通機関が充実したまち」、「公共施設・商業施設・病院等が充実したまち」といった回答が多くあげられている。

三芳町の誇りや宝については、「自然・緑」(19.6%)や「みよしまつり」(18.2%)、「三富新田」(16.1%)が多い。来訪者を案内する場所については、「みよしまつり」(21.1%)、「三芳PA」(18.8%)が多い。三芳町のおみやげとして利用するものとしては、「富の川越いも」(41.9%)が圧倒的に多い。三芳町の象徴(シンボル)については、「自然・緑」(13.7%)、「ケヤキ並木」(13.0%)が多く、「自然・緑」については町の誇り・宝と同様に最も多くなっている。三芳町の色(シンボルカラー)については、「緑」(56.3%)が圧倒的に多い。

「東京に一番近い“町”である」ことを「知っていた」という人は過半数を占めている。「一般会計歳入の6割を町政が占める地方交付税不交付団体である」ことについては、「知らなかった」という人が過半数を占めている。「昼間夜間人口比率が埼玉県で最も高い」ことについては、「知らない」という人が85.1%でほとんどの人が認知していない。

三芳町の将来の人口規模に対する考えについては、「現在の人口規模を維持する」という人が5割と、「人口を拡大していく」(32.1%)を抑えて最も多くなっている。

三芳町のまちづくりの方向性に対する考えについては、「自然を保全し、環境にやさしい「環境と共生したまち」(32.3%)が最も多い。

三芳町の少子高齢化対策に対する考えについては、「高齢者対策と少子高齢化対策にバランスよく対応する」(48.4%)が最も多い。

三芳町の土地利用に対する考えについては、「公園・緑地について」は拡大していくという人が5割以上と多くなっている。また、「住宅地」「工業地域」「農地」「商業地」については現状維持という人が多い。

災害対策について行政に期待することについては、「避難者用の食糧・水・日常生活品等の備蓄」(50.8%)が多い。

三芳町の今後の町政全般に対しての意見・提案を自由回答で伺うと、バス路線等の充実や道路・歩道の整備など「交通インフラの整備」に関する意見が多くあげられている。

Ⅲ. 調査結果の詳細

Ⅲ. 調査結果の詳細

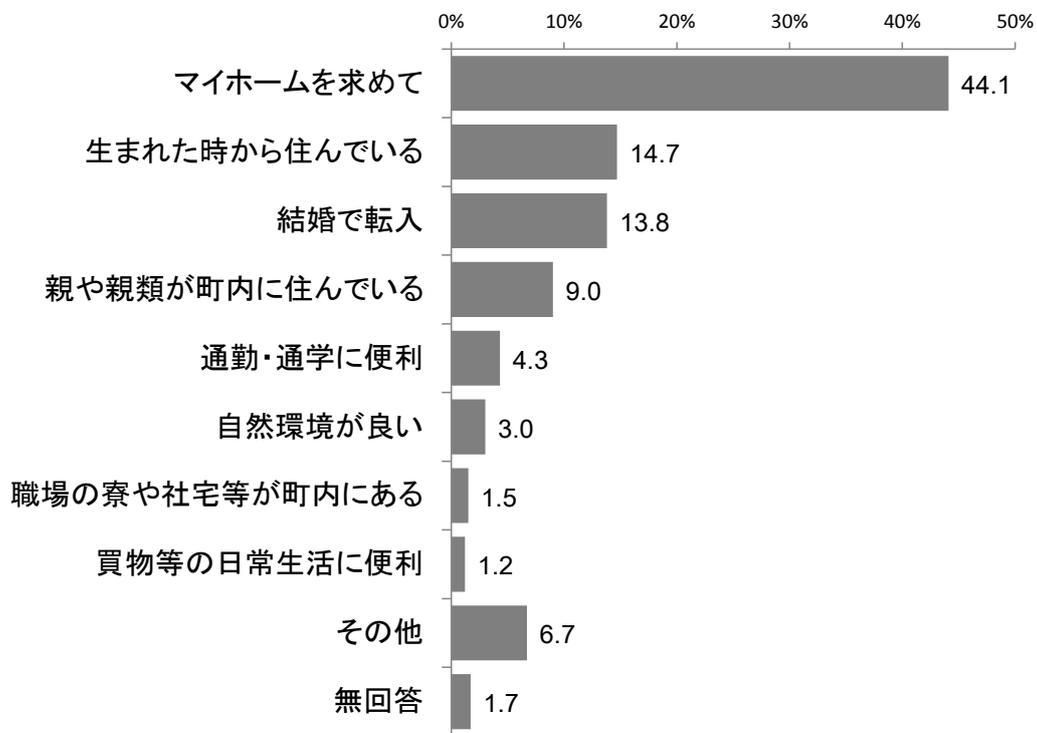
1. まちの住みやすさについて

(1) 居住理由

■ 三芳町に住むようになった理由は、「マイホームを求めて」が 44.1%で最も多い。

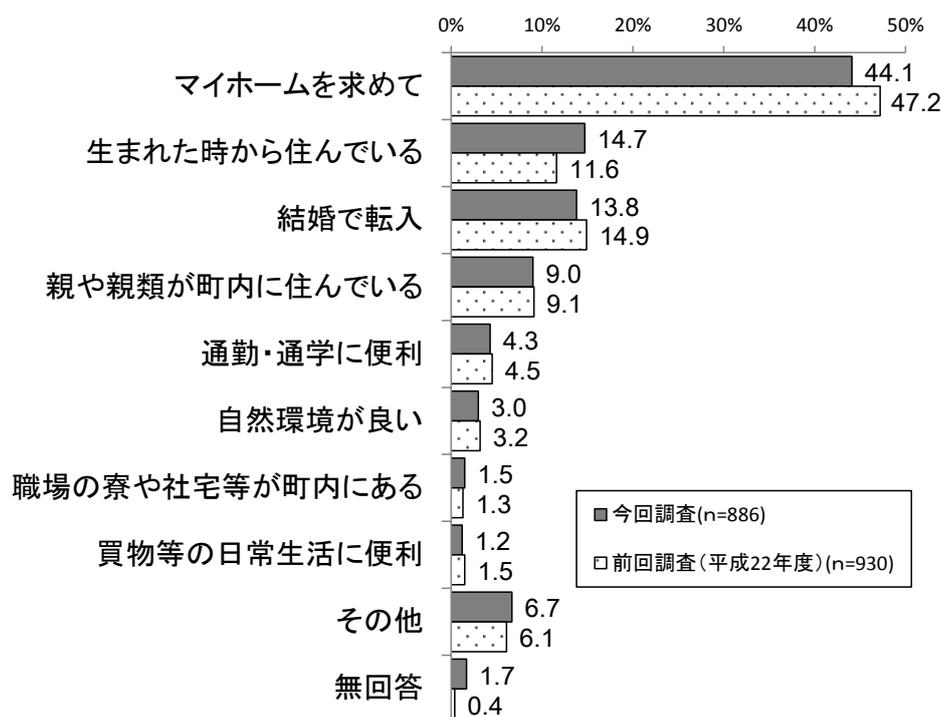
- ・ 三芳町に住むようになった理由は、「マイホームを求めて」が 44.1%で最も多く、次いで「生まれた時から住んでいる」(14.7%)、「結婚で転入」(13.8%)となっている。

図表 1-1. 居住理由 (n=886)



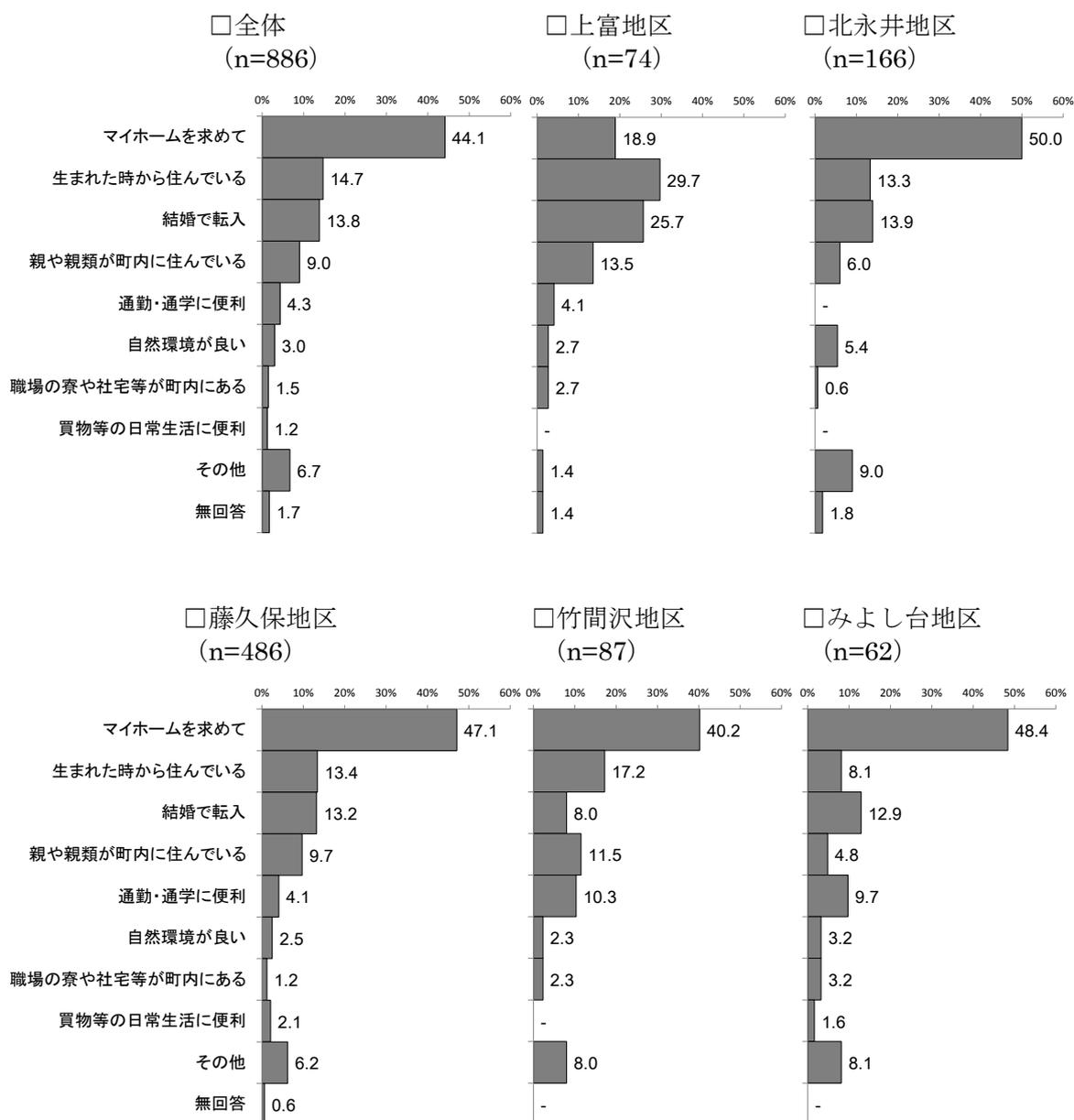
- ・ 前回調査（平成 22 年度）と比較すると、「マイホームを求めて」は前回から引き続き最も多くなっている。
- ・ 「生まれた時から住んでいる」は、前回調査では 3 位であったが 2 位に浮上している。
- ・ 一方で、「結婚で転入」は、前回調査では 2 位であったが、3 位に低下している。

図表 1-2. 経年比較 居住理由



- ・ 地区別にみると、「上富地区」を除くすべての地区で「マイホームを求めて」が最も多くなっている。
- ・ 「上富地区」では、「生まれた時から住んでいる」が最も多く、「結婚で転入」も多い。

図表 1-3. 居住理由（居住地別）

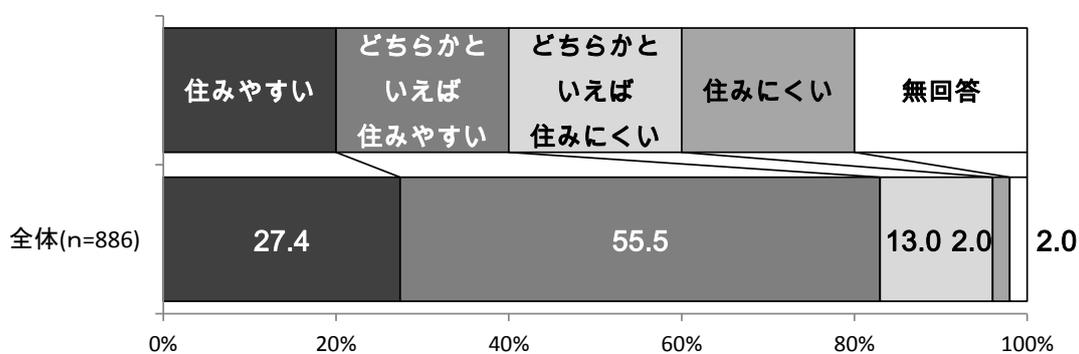


(2) 住みやすさ

- 《住みやすい》という人が 82.9% となっている。
- 16～19 歳は、《住みやすい》が 9 割台。

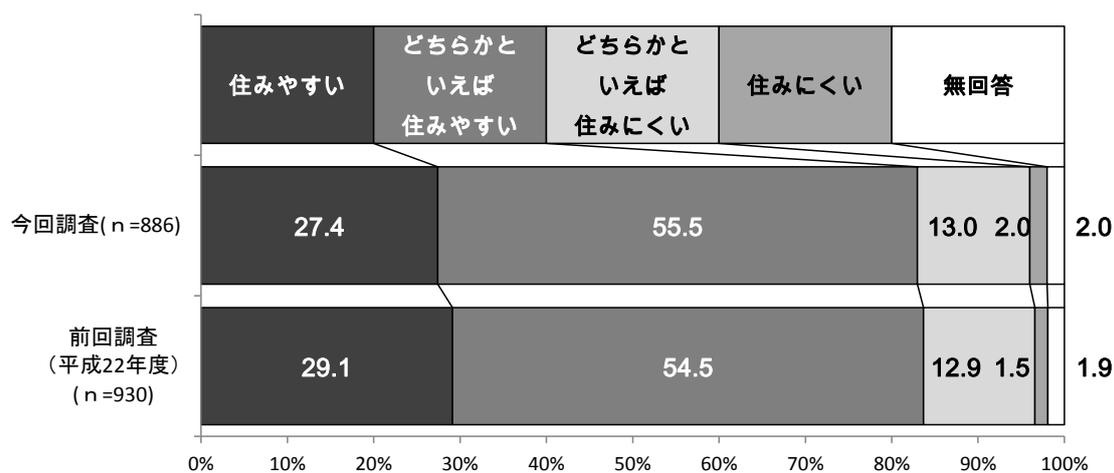
- ・ 現在の三芳町の住みやすさをうかがうと、「住みやすい」(27.4%) と「どちらかといえば住みやすい」(55.5%) を合わせた《住みやすい》が 82.9% となっている。
- ・ 《住みにくい》(「住みにくい」+「どちらかといえば住みにくい」) は、15.0% となっている。

図表 1-4. 住みやすさ



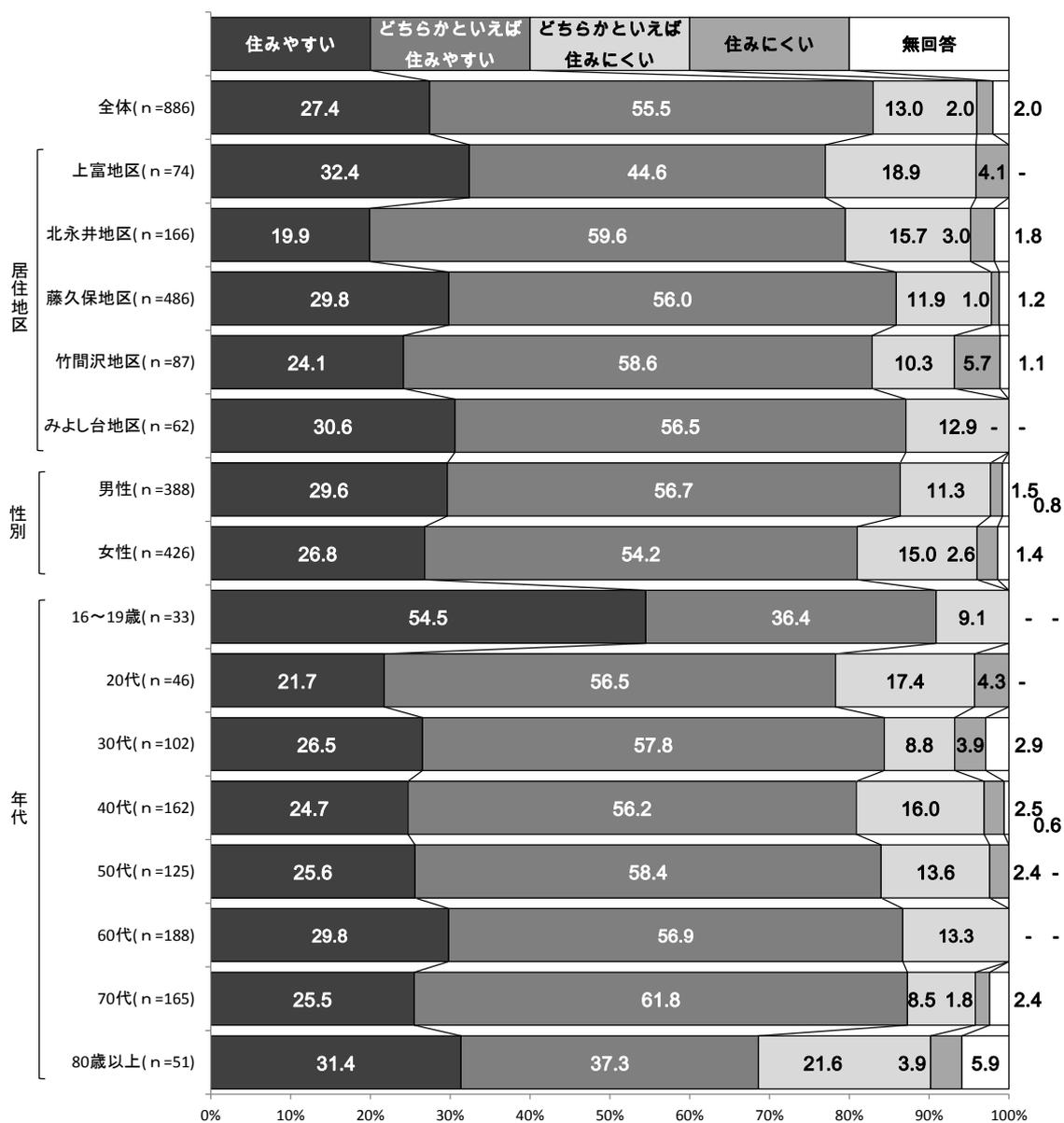
- ・ 前回調査 (平成 22 年度) と比較しても、住みやすさの評価はほとんど変わらない。

図表 1-5. 住みやすさ (前回調査との比較)



- ・ 地区別にみると、《住みやすい》は、藤久保地区、竹間沢地区、みよし台地区で 8 割台、上富地区、北永井地区では 7 割台となっている。
- ・ 性別では、女性よりも男性のほうが《住みやすい》が多くなっている。
- ・ 年代別では、《住みやすい》は 16～19 歳で 9 割以上を占め、30 代～70 代が 8 割台、20 代では 7 割台、80 歳以上では 6 割台となっている。

図表 1-6. 居住地区別、性別、年代別 住みやすさ

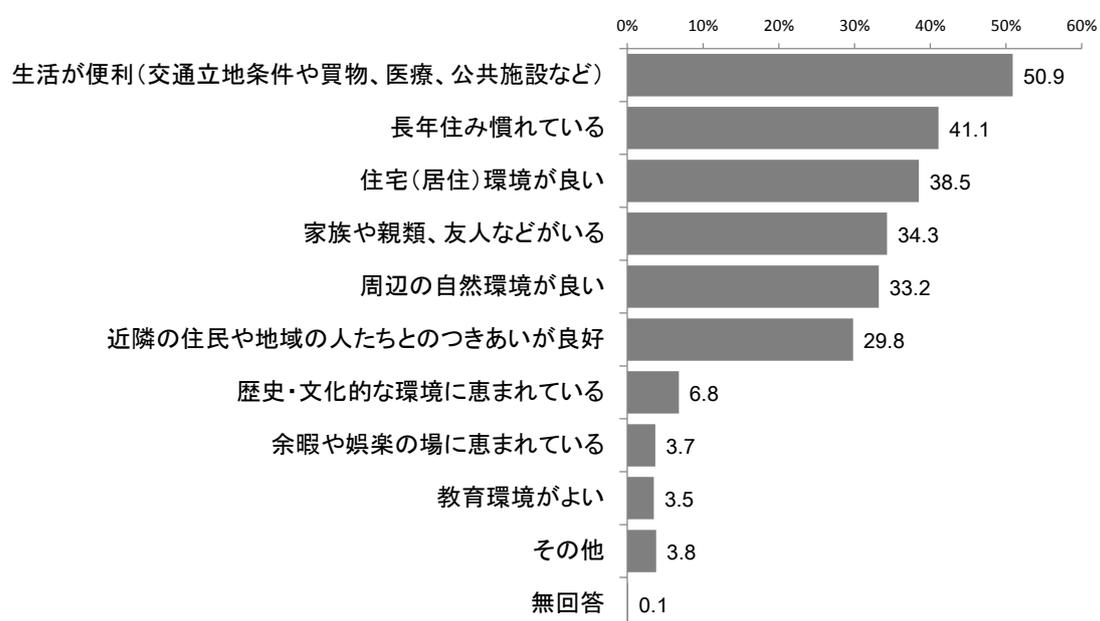


(3) 住みやすいと感じる理由

■ 「生活が便利（交通立地条件や買物、医療、公共施設など）」が 50.9%で最も多い。

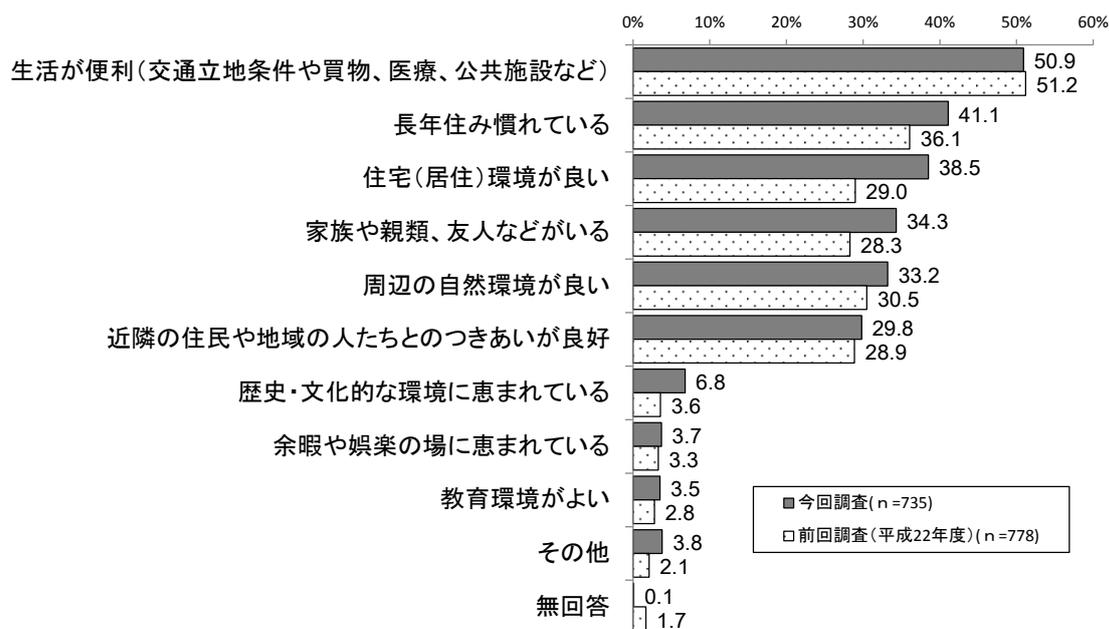
- ・ 問4で「住みやすい」と回答した人の理由は、「生活が便利（交通立地条件や買物、医療、公共施設など）」が 50.9%で最も多い。
- ・ 次いで、「長年住み慣れている」が 41.1%、「住宅（居住）環境が良い」（38.5%）、「家族や親類、友人などがいる」（34.3%）、「周辺の自然環境が良い」（33.2%）、「近隣の住民や地域の人たちとのつきあいが良好」（29.8%）が続いている。

図表 1-7. 住みやすいと感じる理由（n=735）



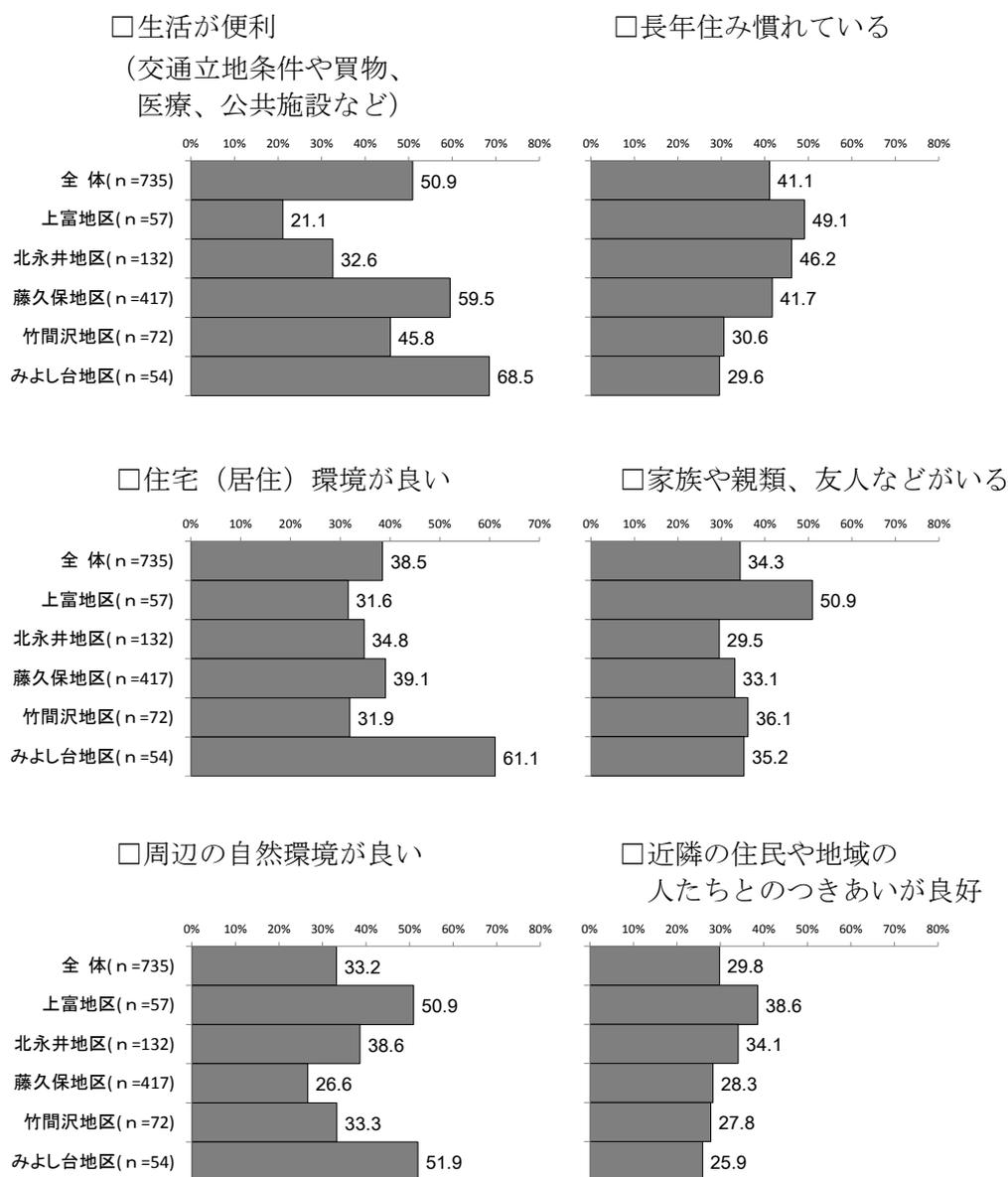
- ・ 前回調査（平成 22 年度）と比較すると、「生活が便利（交通立地条件や買物、医療、公共施設など）」は前回とほぼ同率で第 1 位となっている。
- ・ その他の項目では全て前回より割合が増加している。特に「住宅（居住）環境が良い」（38.5%）は、前回 29.0%から約 9 ポイント増加している。

図表 1-8. 経年変化 住みやすいと感じる理由



- ・ 上位 6 項目について居住地区別にみると、上富地区では、「家族や親類、友人などがいる」(50.9%)、「周辺の自然環境が良い」(50.9%)、「長年住み慣れている」(49.1%)で多くなっている。
- ・ 北永井地区では、「長年住み慣れている」(48.2%)が多い。
- ・ 藤久保地区、竹間沢地区、みよし台地区では、「生活が便利(交通立地条件や買物、医療、公共施設など)」(59.5%、45.8%、68.5%)で多くなっている。
- ・ みよし台地区は、「住宅(居住)環境が良い」(61.1%)、「周辺の自然環境が良い」(51.9%)も多くなっている。

図表 1-9. 居住地区別 住みやすいと感じる理由(上位 6 位)

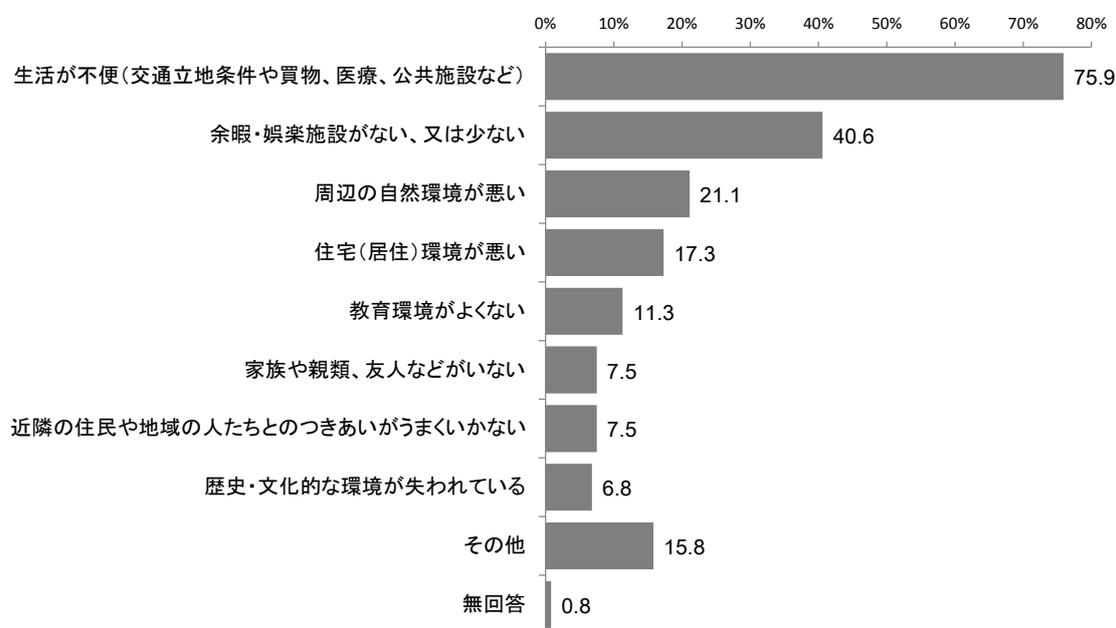


(4) 住みにくいと感ずる理由

■ 《住みにくい》の理由は「生活が不便（交通立地条件や買物、医療、公共施設など）」が75.9%で最も多い。

- ・ 問4で《住みにくい》と回答した人の理由は、「生活が不便（交通立地条件や買物、医療、公共施設など）」が75.9%で最も多い。
- ・ 次いで「余暇・娯楽施設がない、又は少ない」が40.6%、「周辺の自然環境が悪い」（21.1%）、「住宅（居住）環境が悪い」（17.3%）、「教育環境が悪い」（11.3%）となっている。

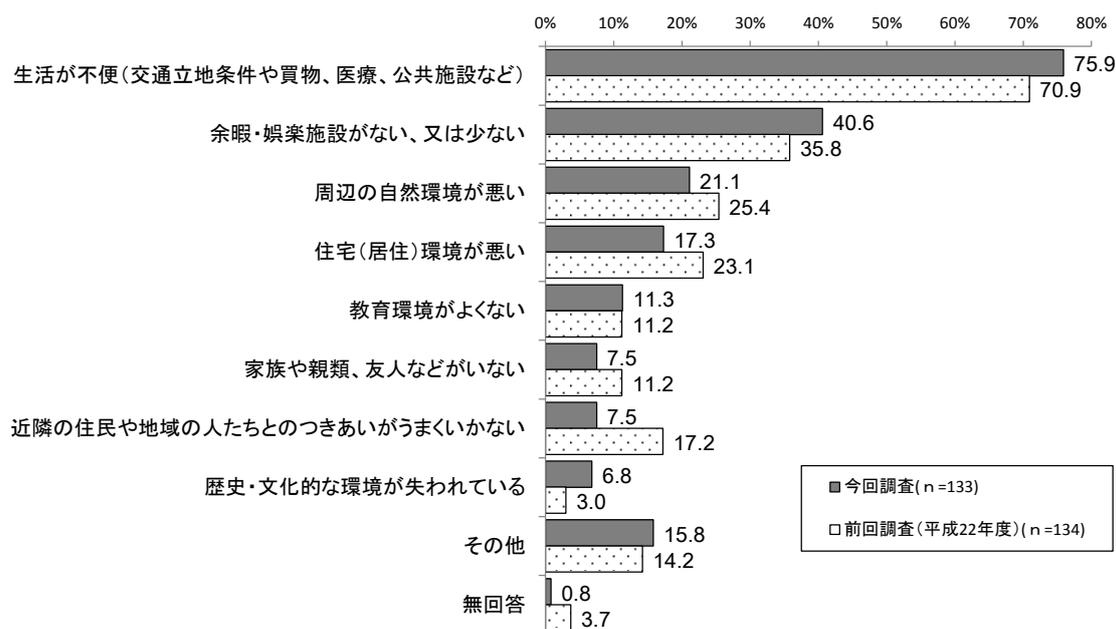
図表1-10. 住みにくいと感ずる理由（n=133）



- ・ その他の意見では、「道路が狭い、道路が整備されていない」（7件）、「交通の便が不便」（4件）、「公園がない」（4件）、「お店がない」（4件）があげられている。

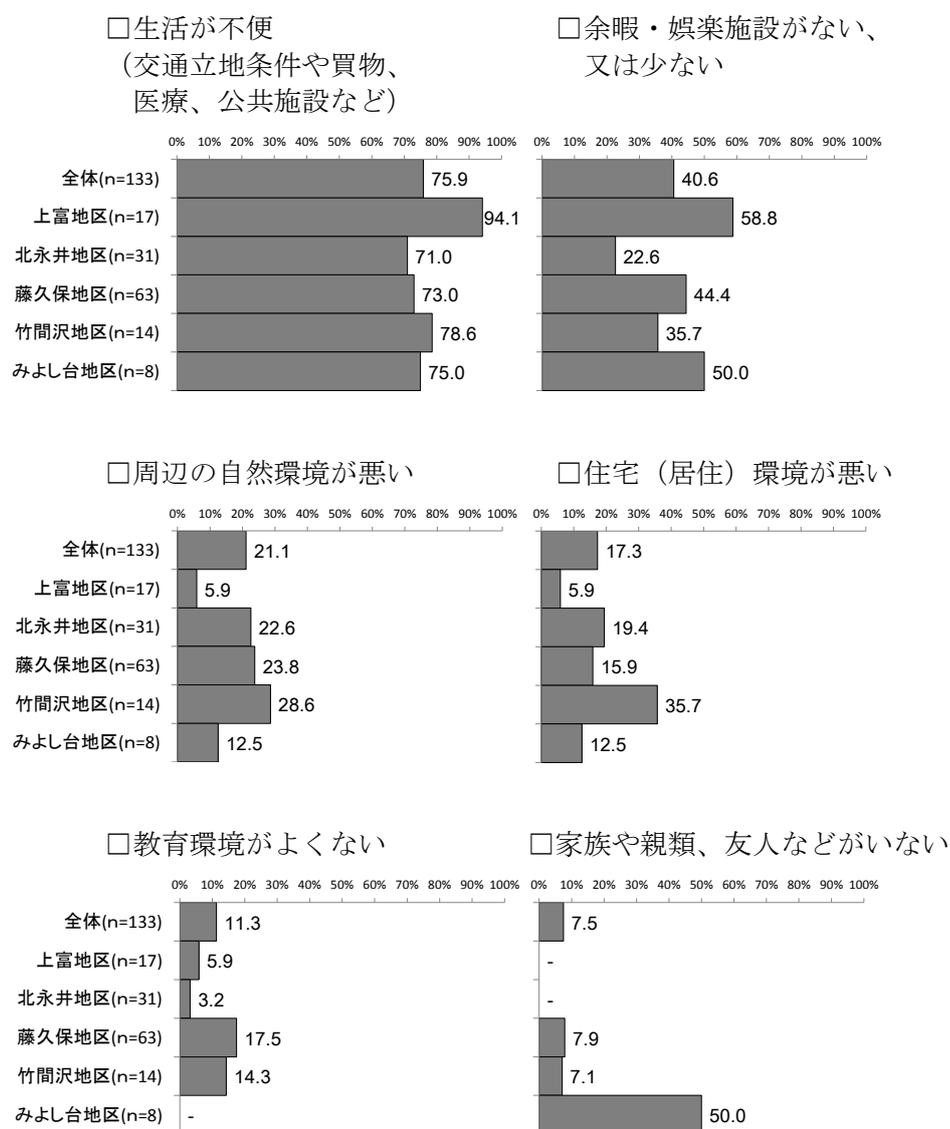
- ・ 前回調査（平成 22 年度）と比較すると、「生活が不便（交通立地条件や買物、医療、公共施設など）」が 75.9%で前回 70.9%から 5 ポイント増加して、第 1 位となっている。
- ・ 上位 4 項目に変動はないが、「周辺の自然環境が悪い」（21.1%）と「住宅（居住）環境が悪い」（17.3%）は、前回調査から 4 ポイント以上減少している。

図表 1-11. 経年変化 住みにくいと感ずる理由



- ・ 上位 6 項目について居住地区別にみると、すべての地区で「生活が不便（交通立地条件や買物、医療、公共施設など）」が 7 割以上となっている。特に上富地区では 94.1% と非常に多い。
- ・ 「余暇・娯楽施設がない、又は少ない」は上富地区、みよし台地区で 5 割台、藤久保地区で 4 割台、竹間沢地区で 3 割台となっている。
- ・ 竹間沢地区では「住宅（居住）環境が悪い」（35.7%）も比較的多くなっている。

図表 1-12. 居住地区別 住みにくいと感ずる理由（上位 6 位）

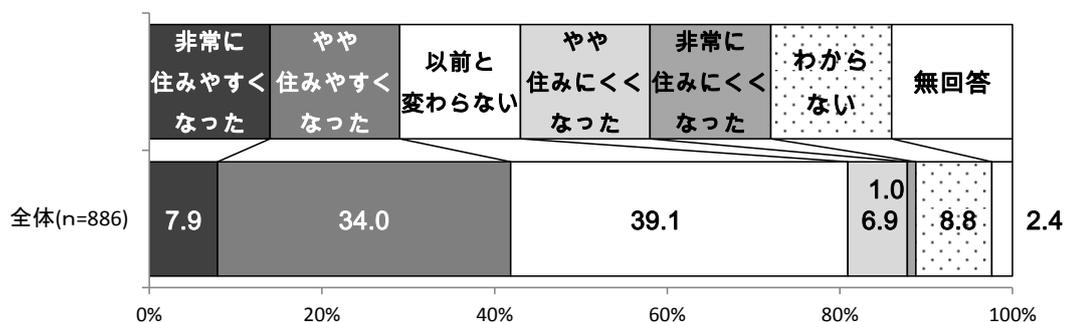


(5) 以前と比べた三芳町の住みやすさ

■ 《住みやすくなった》が 41.9%となっている。

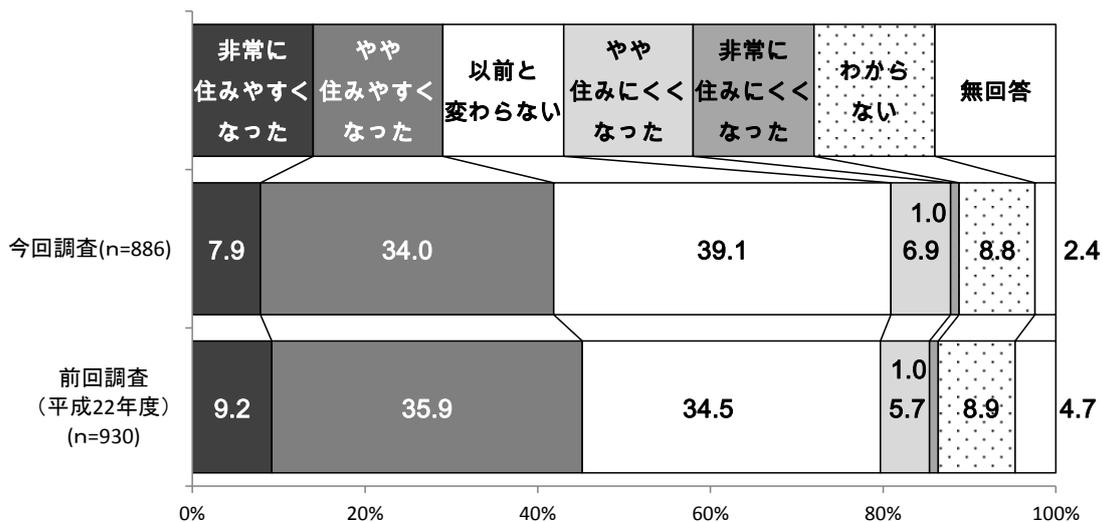
- ・ 以前と比べた三芳町の住みやすさをうかがうと、「非常に住みやすくなった」(7.9%)と「やや住みやすくなった」(34.0%)を合わせた《住みやすくなった》が 41.9%となっている。
- ・ 《住みにくくなった》(「やや住みにくくなった」+「非常に住みにくくなった」)は、7.9%となっている。

図表 1-13. 以前と比べた三芳町の住みやすさ



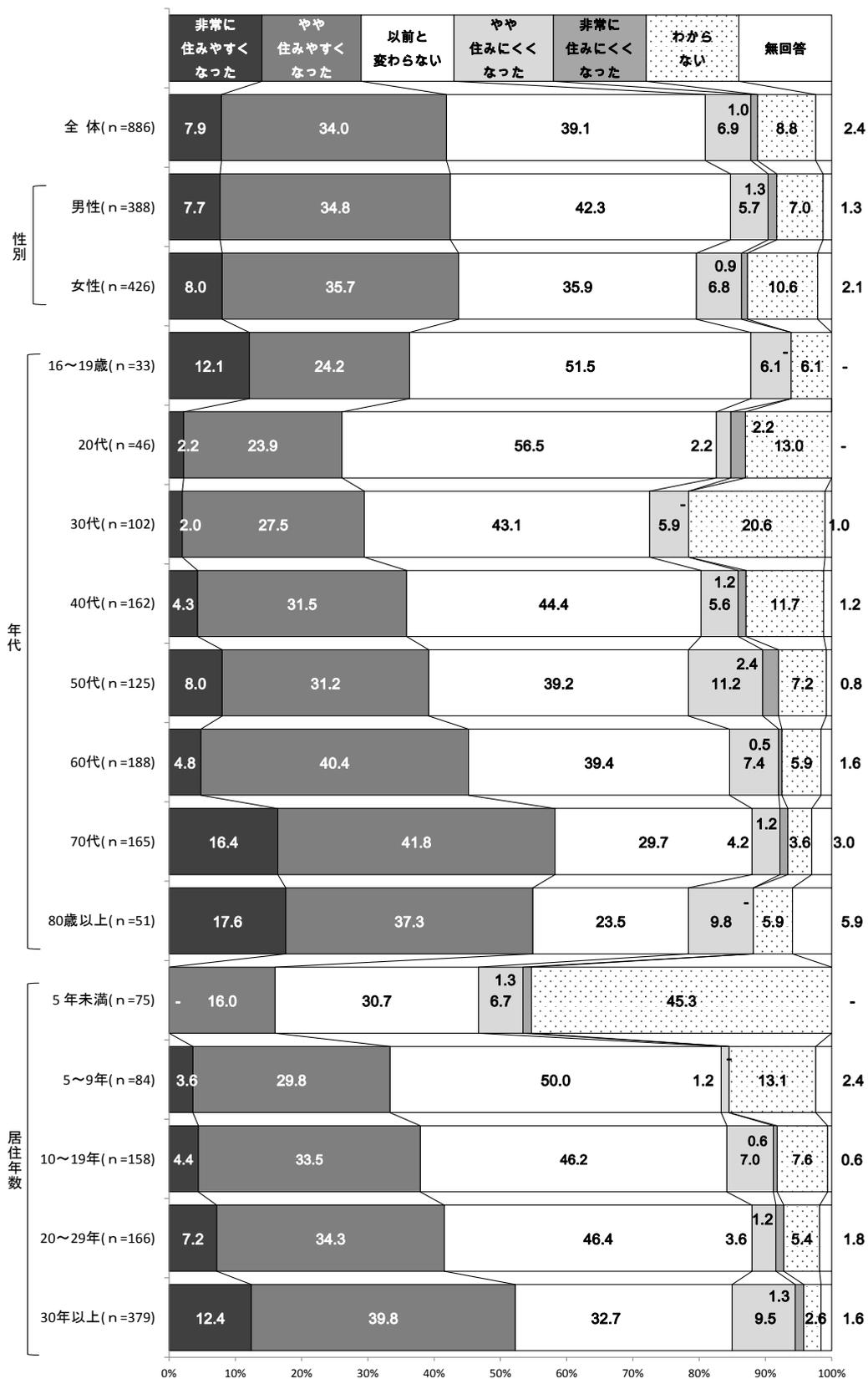
- ・ 《住みやすくなった》(41.9%)は、前回 45.1%から約 3 ポイント減少している。
- ・ 《住みにくくなった》(7.9%)は、前回 6.7%とあまり変わらない。

図表 1-14. 経年変化 以前と比べた三芳町の住みやすさ



- ・ 性別で見ると、男女ともに《住みやすくなった》が4割台、《住みにくくなった》が1割未満となっている。
- ・ 年齢別で見ると、《住みやすくなった》は16～19歳で36.3%と20代（26.1%）よりも多い。また、20代から70代、80歳以上へと年代が上がるにつれ多くなっている。
- ・ 居住年数別では、《住みやすくなった》は5年未満から30年以上と居住年数が上がるにつれ多くなっている。

図表 1-15. 性別、年代別、居住年数別 以前と比べた三芳町の住みやすさ



- 住みやすくなった理由は「道路が整備された」(98件)、「店舗が増えた、買い物が便利になった」(90件)が多い。
- 住みにくくなった理由では、「交通量が増し、渋滞発生や事故等も多い」(31件)、「道路が狭いなど、整備が行き届いていない」(30件)が多くなっている。

- ・ 住みやすくなったと感じる理由を自由回答で尋ねた。「道路が整備された」(98件)が最も多く、「店舗が増えた、買い物が便利になった」(90件)、「スーパー、大型店舗が開店した」(45件)、「交通の便、首都圏へのアクセスが向上した」(37件)、「医療施設が充実した」(23件)と続いている。
- ・ 住みにくくなったと感じる理由では、「交通量が増し渋滞発生や事故等も多い」(31件)が最も多く、「道路が狭いなど、整備が行き届いていない」(30件)、「交通機関が不便」(28件)、「緑(自然)が少なくなった」(28件)が続いている。

図表 1-16. 住みやすくなったと感じる点 5件以上の回答を抽出掲載

回答	件数
道路が整備された	98
店舗が増えた、買い物が便利になった	90
スーパー、大型店舗が開店した	45
交通の便、首都圏へのアクセスが向上した	37
医療施設が充実した	23
コンビニエンスストアができた	15
友達がたくさんできた・近所の人との交流ができた	10
ライフバスが便利になった	6
自然環境がよい	6
総合的に便利になった	6

図表 1-17. 住みにくくなったと感じる点 5件以上の回答を抽出掲載

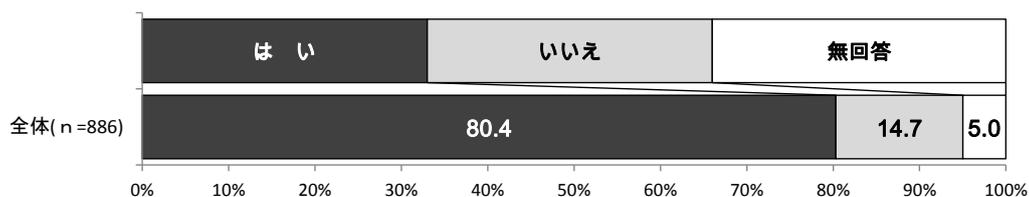
交通量が増し、渋滞発生や事故等も多い	31
道路が狭いなど、整備が行き届いていない	30
交通機関が不便	28
緑(自然)が少なくなった	28
医療施設が遠くなった、サービスが悪くなった	14
公園がない、減った、子どもの遊び場がない	14
治安が悪く、防犯面で不安	8
買い物が不便	6
土埃がひどい	6

(6) 定住意向

- 「はい（住み続けたい）」が8割。

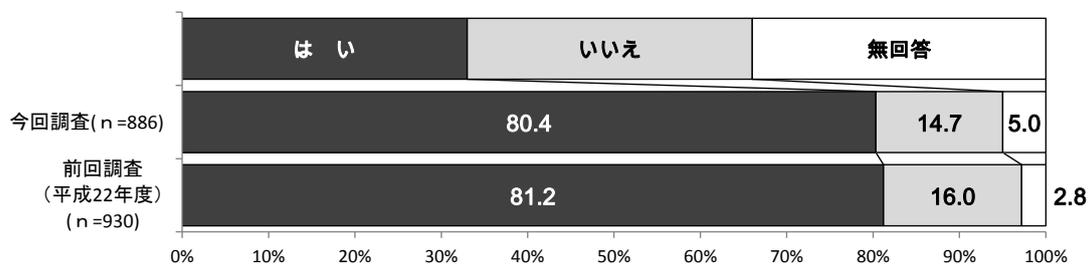
- ・ これからも三芳町に住み続けたいと思うかでは、「はい（住み続けたい）」（80.4%）が8割、「いいえ（住み続けたくない）」（14.7%）を大きく上回っている。

図表 1-16. 定住意向



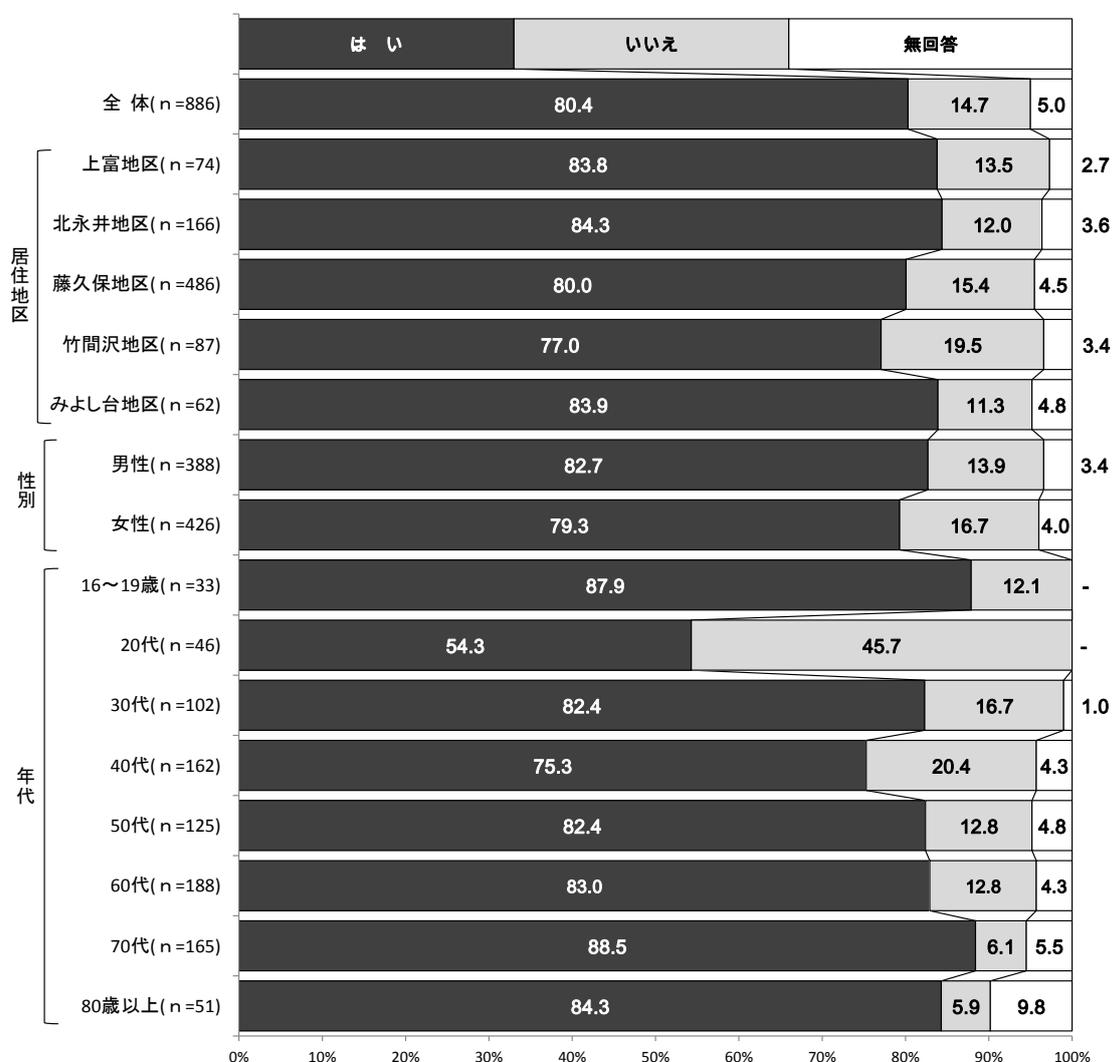
- ・ 前回調査（平成 22 年度）と比較すると、「はい（住み続けたい）」（80.4%）は前回 81.2% とほぼ同率となっている。

図表 1-17. 経年変化 定住意向



- ・ 居住地区別にみると、「はい（住み続けたい）」は、特に北永井地区で 83.8%と多くなっている。他の地区でも 8 割以上を示す地区が多いが、竹間沢地区では 77.0%と比較的少ない。
- ・ 性別では、「はい（住み続けたい）」は、男性（82.7%）の方が女性（79.3%）よりもやや多い。
- ・ 年代別では、「はい（住み続けたい）」は、16~19 歳、30 代、50 代以上で 8 割を超えている。一方で、20 代では「はい（住み続けたい）」が 54.3%にとどまり、「いいえ（住み続けたくない）」が 45.7%となっている。40 代でも「いいえ（住み続けたくない）」が 2 割台となっている。

図表 1-18. 居住地区別、性別、年代別 定住意向

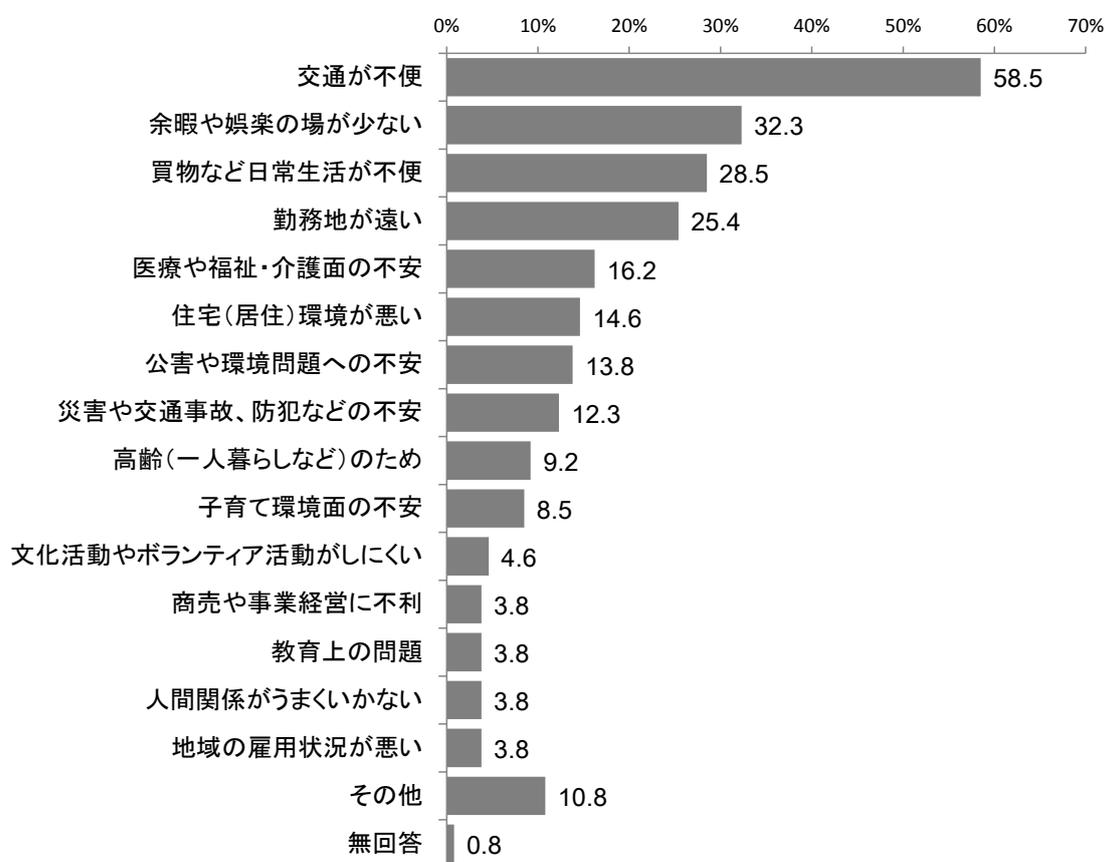


(7) 住み続けたくない理由

- 「交通が不便」が58.5%で最も多い。

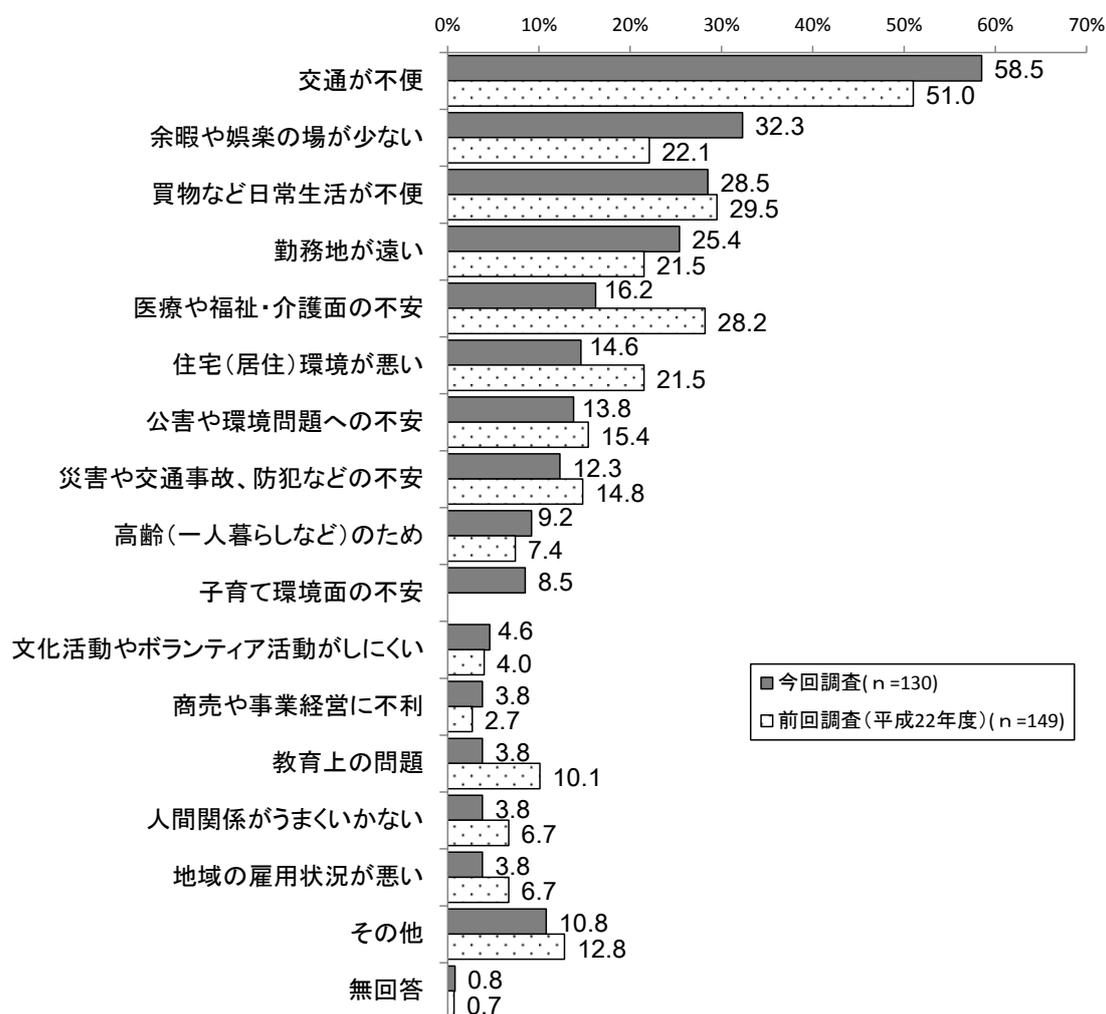
- ・ 問6で「いいえ（住み続けたくない）」と回答した人の理由は、「交通が不便」が58.5%で最も多い。
- ・ 以下、「余暇や娯楽の場が少ない」（32.3%）、「買物など日常生活が不便」（28.5%）、「勤務地が遠い」（25.4%）が2割程度で続いている。

図表 1-19. 住み続けたくない理由 (n=130)



- ・ 前回調査（平成 22 年度）と比較すると、「交通が不便」（58.5%）は前回 51.0%からさらに増加している。
- ・ 「余暇や娯楽の場が少ない」は、前回 22.1%で 4 位だったのが今回調査で 32.3%と 10 ポイント以上増加して第 2 位に浮上している。
- ・ 逆に、前回 28.2%で第 3 位であった「医療や福祉・介護面の不安」が今回調査では 16.2%で第 5 位に低下している。

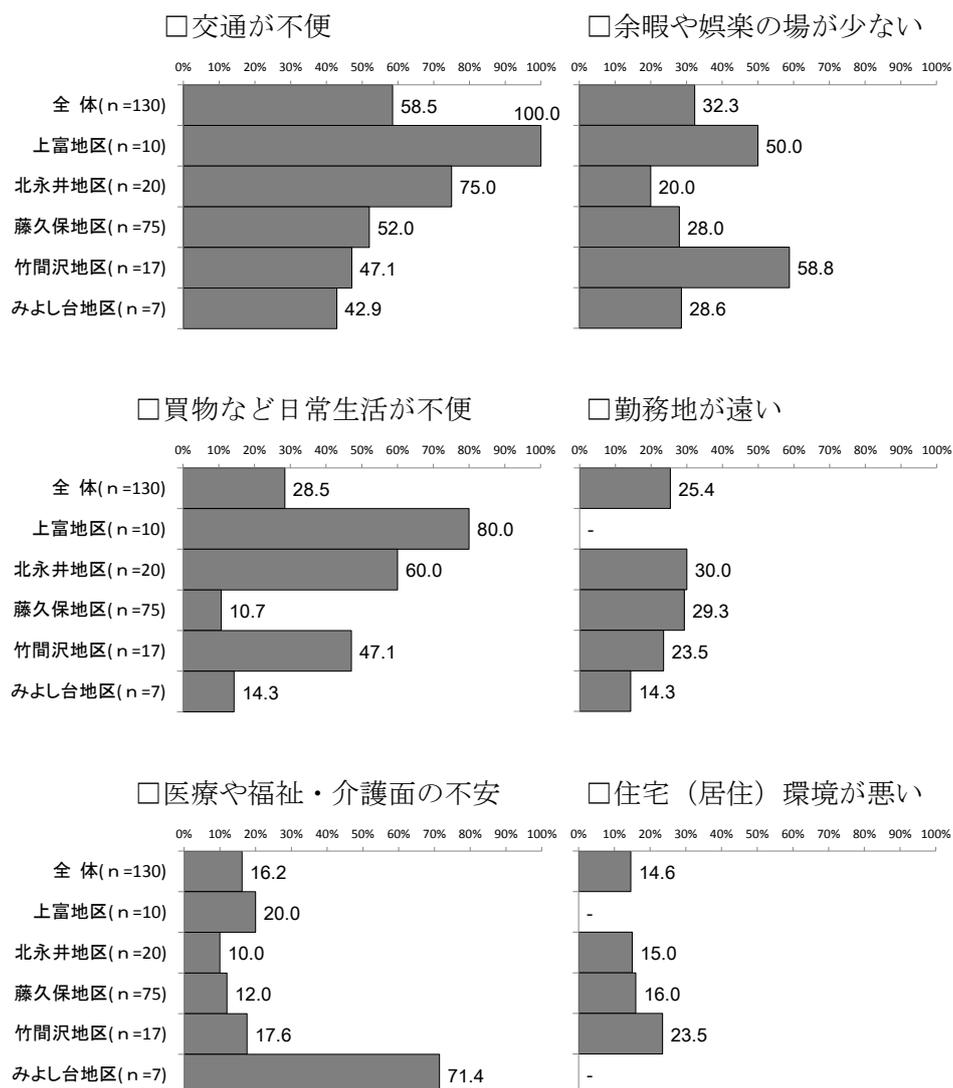
図表 1-20. 経年変化 住み続けたくない理由



※「子育て環境面の不安」は今年度から

- ・ 地区別にみると、「交通が不便」と「買物など日常生活が不便」は上富地区と北永井地区で特に多い。特に「交通が不便」は上富地区で100%となっており、利便性への不満が高いことがうかがえる。
- ・ 竹間沢地区では、「余暇や娯楽の場が少ない」が58.8%で多くなっている。
- ・ みよし台地区では、「医療や福祉・介護面の不安」が7割以上で他地区を大きく上回っている。

図表 1-21. 居住地区別 住み続けたくない理由（上位 6 位）

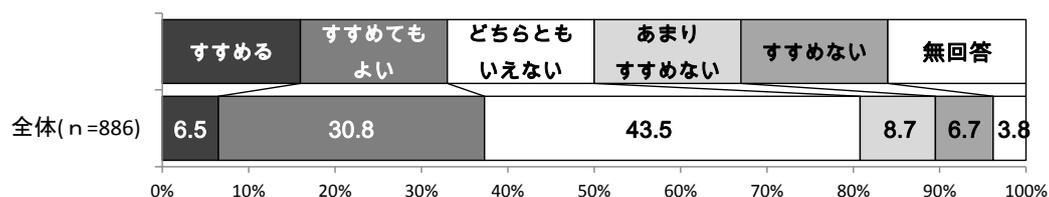


(8) 友人・知人への推薦意向

■ 《すすめる》は37.3%となっている。

- ・ 友人や知人に三芳町に住むことをすすめるかでは、「すすめる」(6.5%)と「すすめてもよい」(30.8%)を合わせた《すすめる》が37.3%となっている。
- ・ 《すすめない》(「あまりすすめない」+「すすめない」)は、15.4%となっている。

図表 1-22. 友人・知人への推薦意向



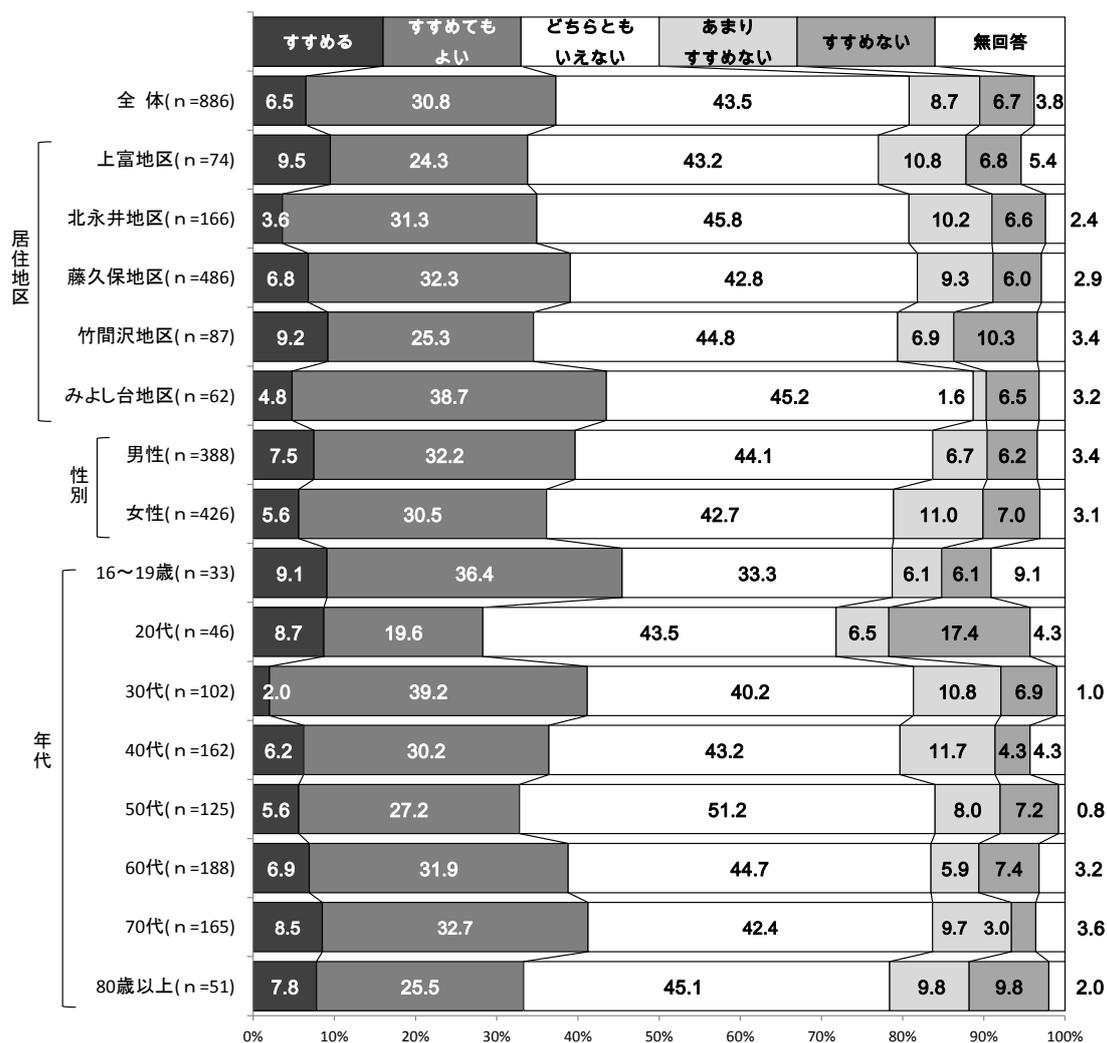
- ・ 《すすめる》と回答した人の理由は、「自然環境がよいから」(41件)が最も多く、「すみやすいと思うから」(30件)、「都心へのアクセスが良いため」(28件)、「生活環境が良いため」(26件)、「自然災害が少ないため」(22件)が20件以上と多くなっている。
- ・ 「どちらともいえない」を回答した人の理由は、「交通の便が不便であるため」(28件)が最も多く、「人それぞれの考えがあるため」(18件)、「駅が遠い、ない」(17件)と続いている。
- ・ 《すすめない》と回答した人の理由では、「交通の便が不便」(38件)が最も多く、次いで、「すすめるほどの魅力がない」(14件)、「土埃がひどい」(8件)、「道路が整備されている」(5件)となっている。

図表 1-23. すすめる理由、すすめない理由 5件以上の回答を抽出掲載

回答	件数
《すすめる》の理由	
自然環境がよいから	41
住みやすいと思うから	30
都心へのアクセスが良いため	28
生活環境が良いため	26
自然災害が少ないため	22
良い町だから	19
子育てがしやすいため	11
交通の便が良いため	9
医療施設が良いから	6
のどかなところ、静かなところだから	8
人のつながりを居感じるから	5
税金が安いから	5
「どちらともいえない」の理由	
交通の便が不便であるため	28
人それぞれの考えがあるため	18
駅が遠い、ない	17
すすめる理由がない、これといったものがない	14
自然があり生活環境は悪くないがすすめるほどではない	11
《すすめない》の理由	
交通の便が不便	38
すすめるほどの魅力がない	14
土埃がひどい	8
道路が整備されている	5

- ・ 居住地区別でみると、「すすめる」は、みよし台地区が 43.5%で他地区に比べて多い。その他の地区についても「すすめる」は、3割台となっている。
- ・ 性別では、「すすめる」は男性（39.7%）のほうが、女性（36.1%）よりもやや多い。
- ・ 年代別では、「すすめる」は16～19歳、30代、70代で4割台、40代～60代、80歳以上で3割台と多い。一方で、20代は「すすめる」が28.3%と他の年代と比べて少ない。「すすめない」も23.9%と他の年代と比べて多い。

図表 1-24. 居住地区別、性別、年代別 友人・知人への推薦意向

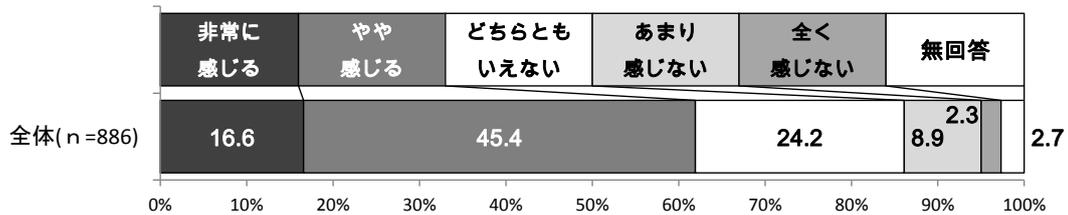


(9) 町に対する愛着

■ 《愛着を感じる》が 62.0%となっている。

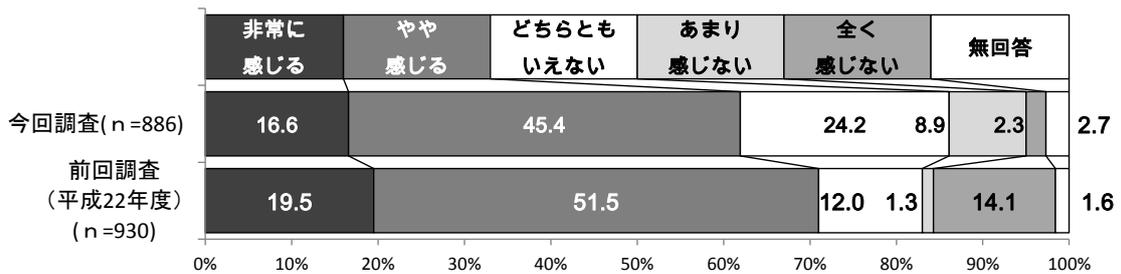
- ・ 三芳町に愛着を「非常に感じる」は 16.6%、「やや感じる」は 45.4%で、これを合わせた《愛着を感じる》は 62.0%となっている。
- ・ 《愛着を感じない》（「あまり感じない」+「全く感じない」）は 11.2%となっている。

図表 1-25. 町に対する愛着



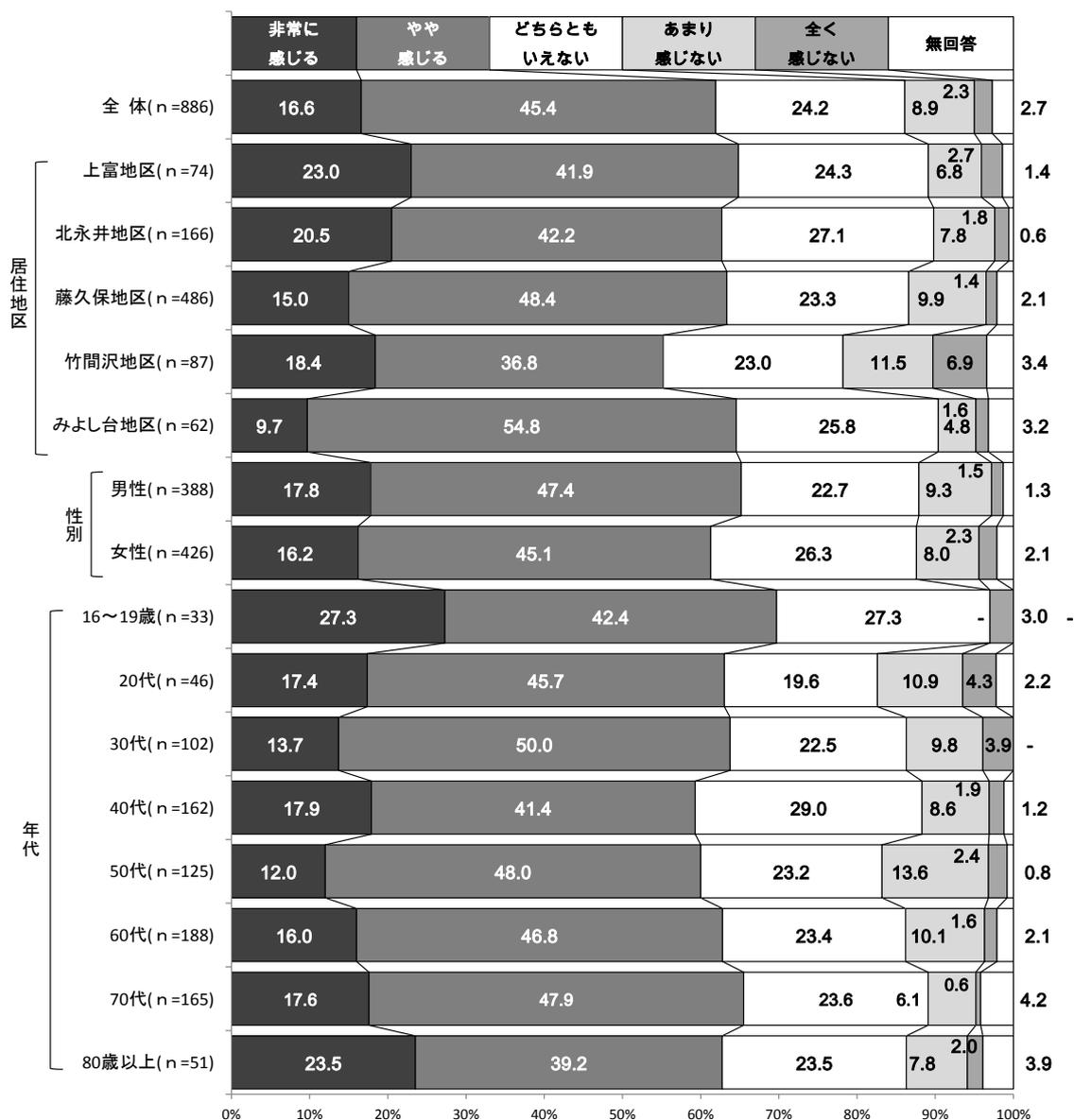
- ・ 前回調査（平成 22 年度）と比較すると、《愛着を感じる》（62.0%）は前回 71.0%から 9 ポイント減少している。
- ・ 「全く感じない」（2.3%）は、前回 14.1%から 10 ポイント以上減少している。

図表 1-26. 経年比較 町に対する愛着



- ・ 居住地区別でみると、「愛着を感じる」は上富地区、北永井地区、藤久保地区、みよし台地区が6割台が多い。一方で、竹間沢地区は「愛着を感じる」が55.2%と他地区と比べて比較的少ない。
- ・ 性別では、「愛着を感じる」は男性（65.2%）のほうが、女性（61.3%）よりも多い。
- ・ 年代別では、40代が59.3%と他の年代に比べて少ない。その他の年代では6割以上となっており、特に16～19歳では69.7%と多くなっている。

図表1-27. 居住地区別、性別、年代別 町に対する愛着

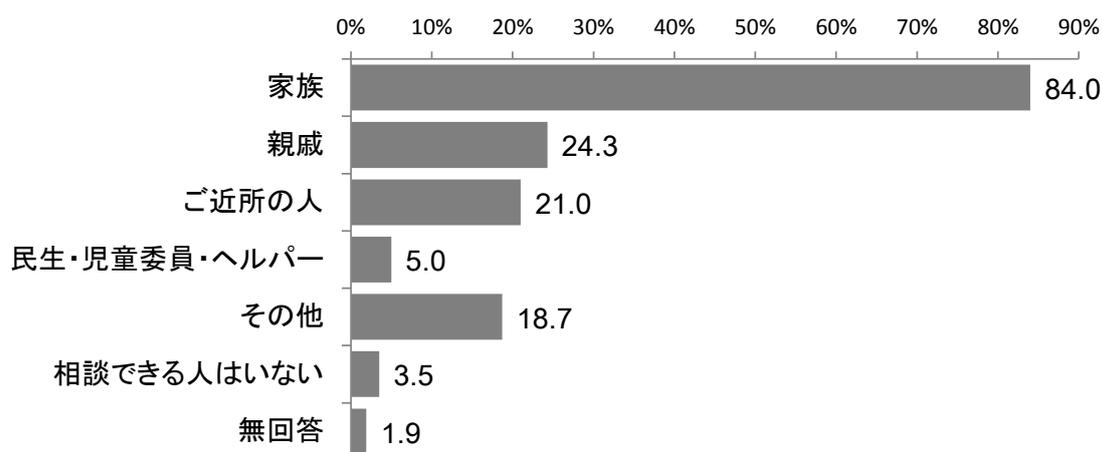


(10) 相談相手

- 「家族」が84.0%で圧倒的に多い。

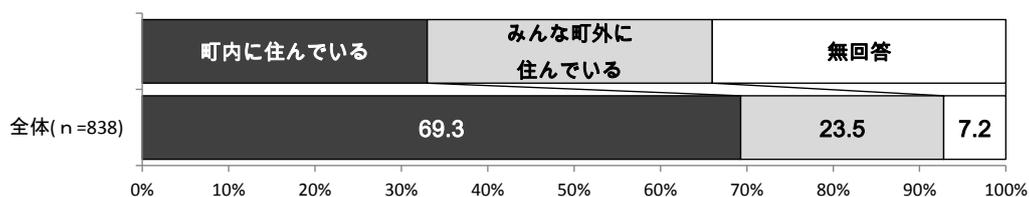
- ・ 何か困ったことが起きた時の相談相手では、「家族」が84.0%で圧倒的に多い。
- ・ 一方で、「相談できる人はいない」は3.5%。

図表 1-28. 相談相手 (n=886)



- ・ 前問で「相談相手がいる」と回答した人に相談相手の住まい先をうかがうと、「町内に住んでいる」は69.3%。「みんな町外に住んでいる」という人が23.5%となっている。

図表 1-29. 相談相手の住まい



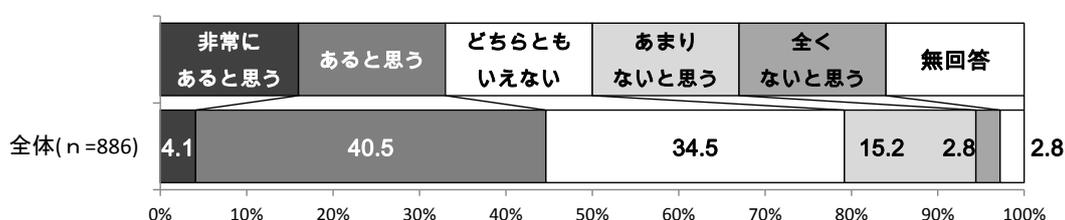
2. 地域内の様子について

(1) よりよい地域をつくっていく雰囲気や土壌

■ よりよい地域をつくっていく雰囲気や土壌が《あると思う》が 44.6%。

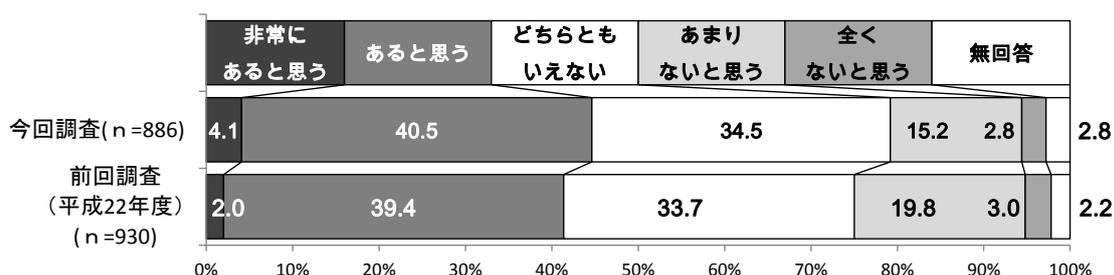
- ・ 居住する地域で、住民が協力しあいながら、よりよい地域をつくっていく雰囲気や土壌が「非常にあると思う」は 4.1%、「あると思う」は 40.5%で、これを合わせた《あると思う》は 44.6%となっている。
- ・ 《ないと思う》（「あまりないと思う」+「全くないと思う」）は 18.0%となっている。

図表 2-1. よりよい地域をつくっていく雰囲気や土壌



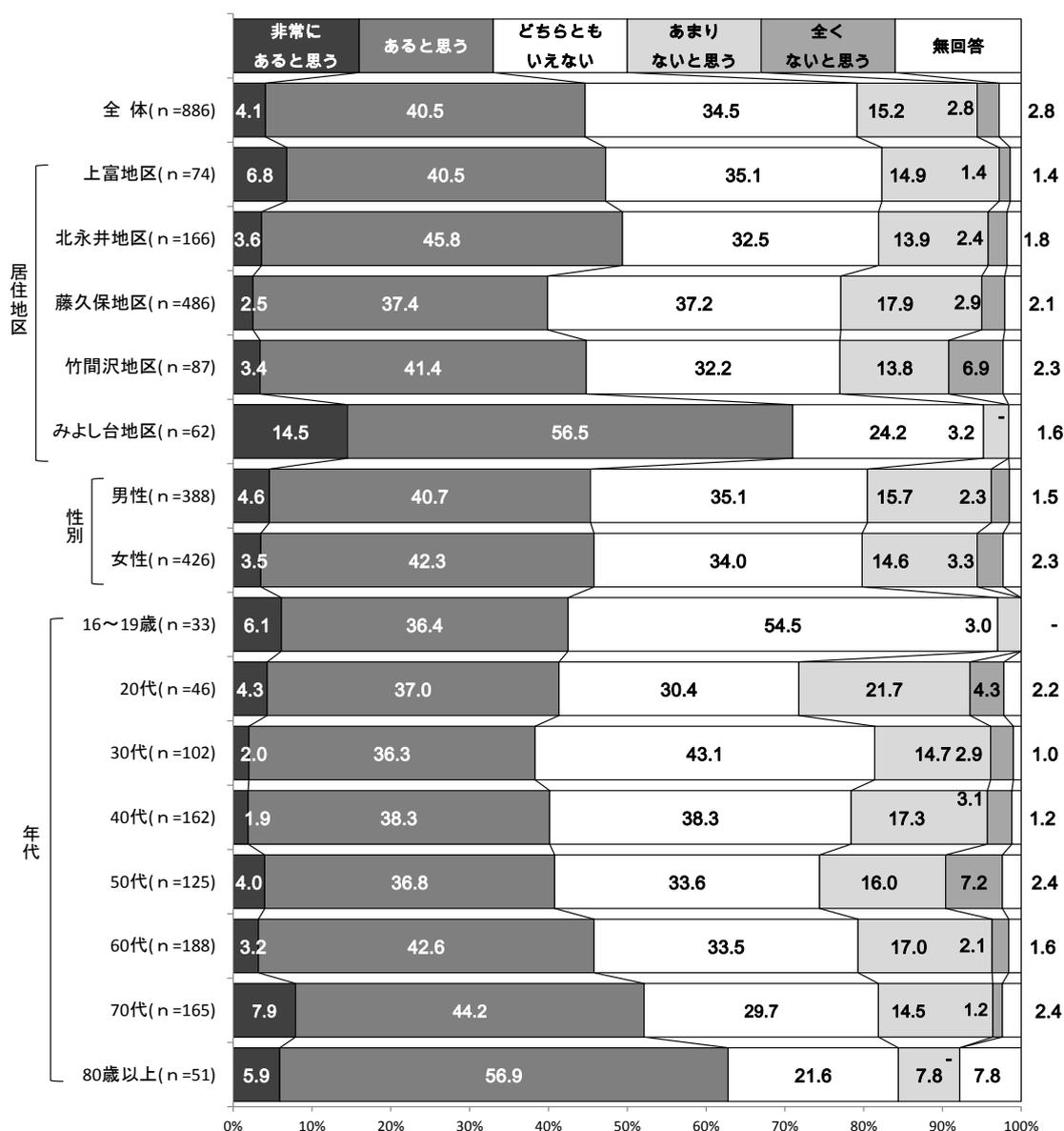
- ・ 前回調査（平成 22 年度）と比較すると、《あると思う》（44.6%）は、前回 41.4%から 3 ポイント増加している。
- ・ 一方で、《ないと思う》（18.0%）は、前回 22.8%から約 5 ポイント減少している。

図表 2-2. 経年比較 よりよい地域をつくっていく雰囲気や土壌



- ・ 居住地区別でみると、「あると思う」はみよし台地区で71.0%で他地区に比べて多い。また、藤久保地区では「あると思う」が3割台と他地区よりも少ない。
- ・ 性別では、あまり大きな差はみられない。
- ・ 年代別では、「あると思う」は30代(38.3%)から80歳以上(62.7%)へと高齢になるほど多くなっている。また20代以下では「あると思う」は4割台となっている。一方で、「ないと思う」は16~19歳(3.0%)で極端に少ない。

図表2-3. 居住地区別、性別、年代別 よりよい地域をつくっていく雰囲気や土壌

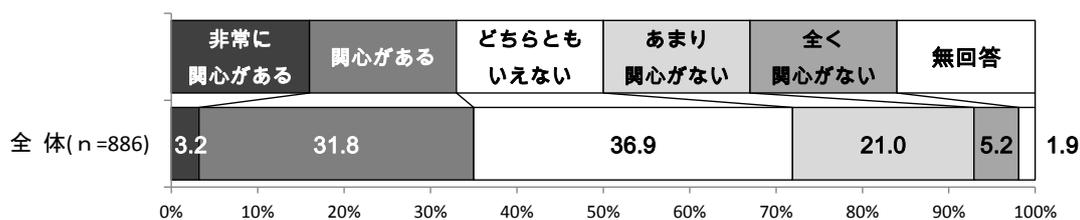


(2) 地域活動や交流への関心度

■ 《関心がある》は 35.0%。

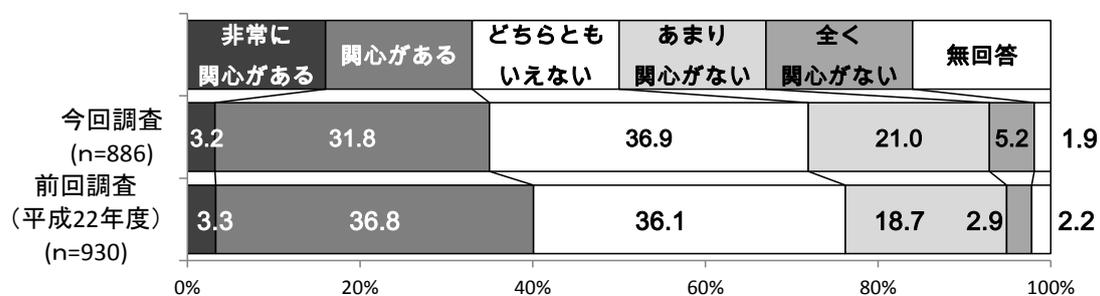
- ・ 地域活動や交流に「非常に関心がある」3.2%、「関心がある」は 31.8%で、これを合わせた《関心がある》は 35.0%となっている。
- ・ 《関心がない》（「全く関心がない」+「あまり関心がない」）は 26.2%となっている。

図表 2-4. 地域活動や交流への関心度



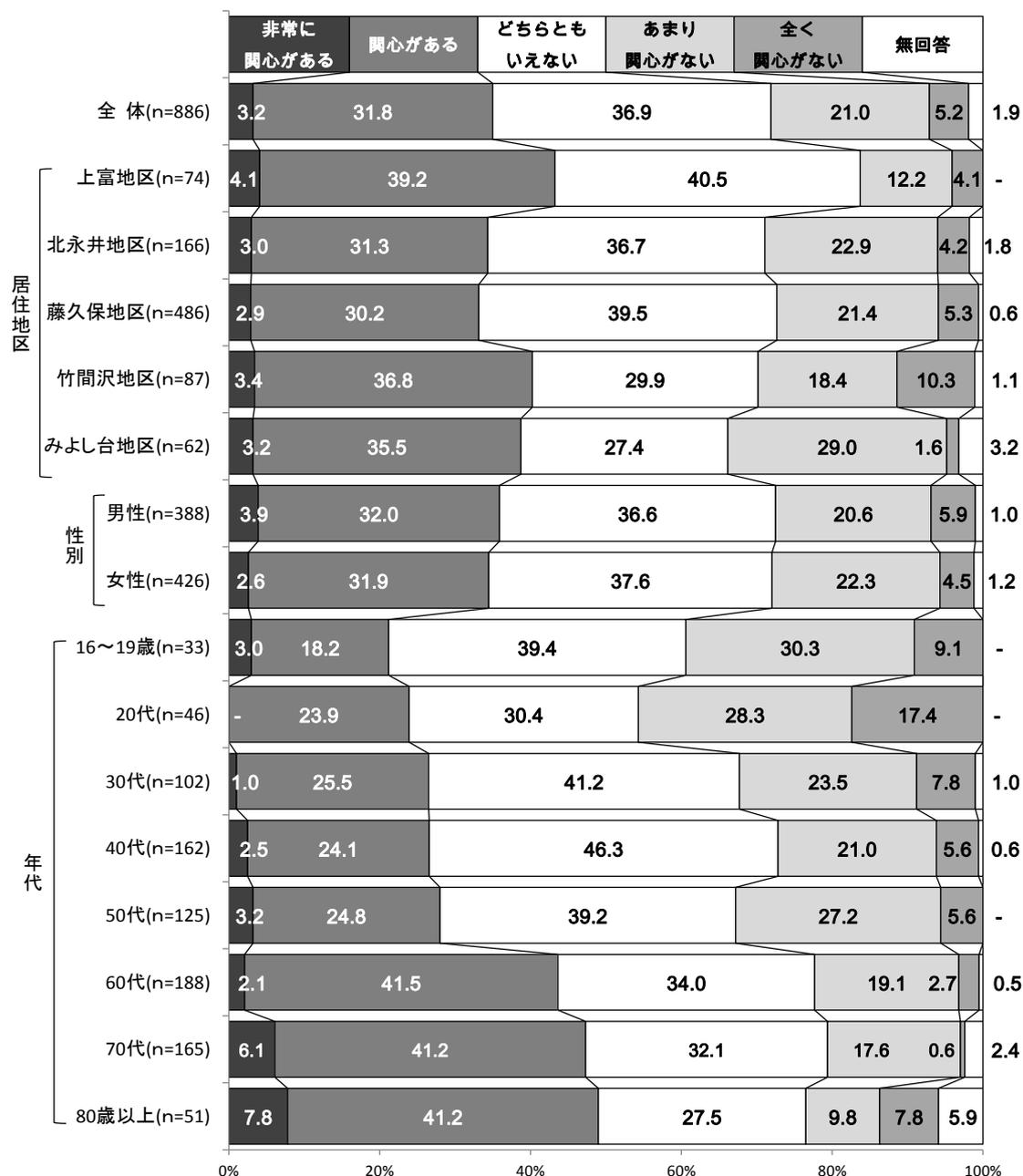
- ・ 前回調査（平成 22 年度）と比較すると、《関心がある》（35.0%）は前回 40.1%から 5 ポイント減少している。

図表 2-5. 経年比較 地域活動や交流への関心度



- ・ 居住地区別にみると、《関心がある》は上富地区で 43.3%と多くなっている。
- ・ 性別では、特に大きな差はみられない。
- ・ 年代別では、《関心がある》は 16～19 歳（21.2%）から 80 歳以上（49.0%）まで年代が高くなるにつれ多くなる傾向がみられる。

図表 2-6. 居住地区別、性別、年代別 地域活動や交流への関心度

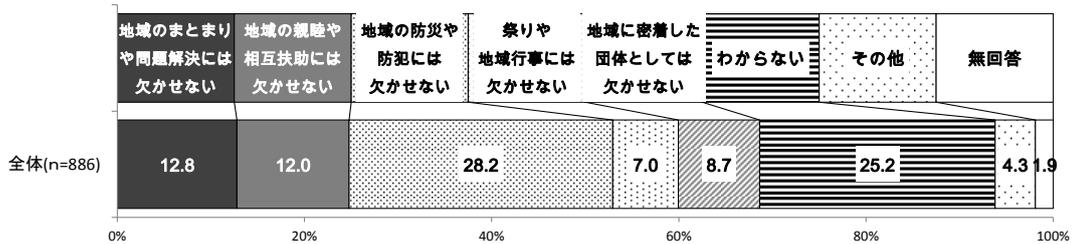


(3) 自治会や町内会についての考え方

■ 「地域の防災や防犯には欠かせない」が28.2%で最も多い。

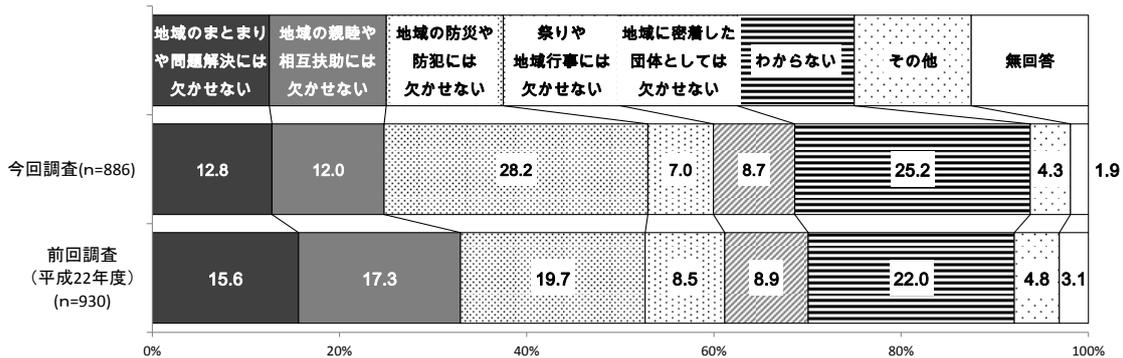
- ・ 現在の自治会や町内会をどう考えているかでは、「地域の防災や防犯には欠かせない」が28.2%で最も多く、次いで「地域のまとまりや問題解決には欠かせない」(12.8%)、「地域の親睦や相互扶助には欠かせない」(12.0%)となっている。

図表 2-7. 自治会や町内会についての考え方



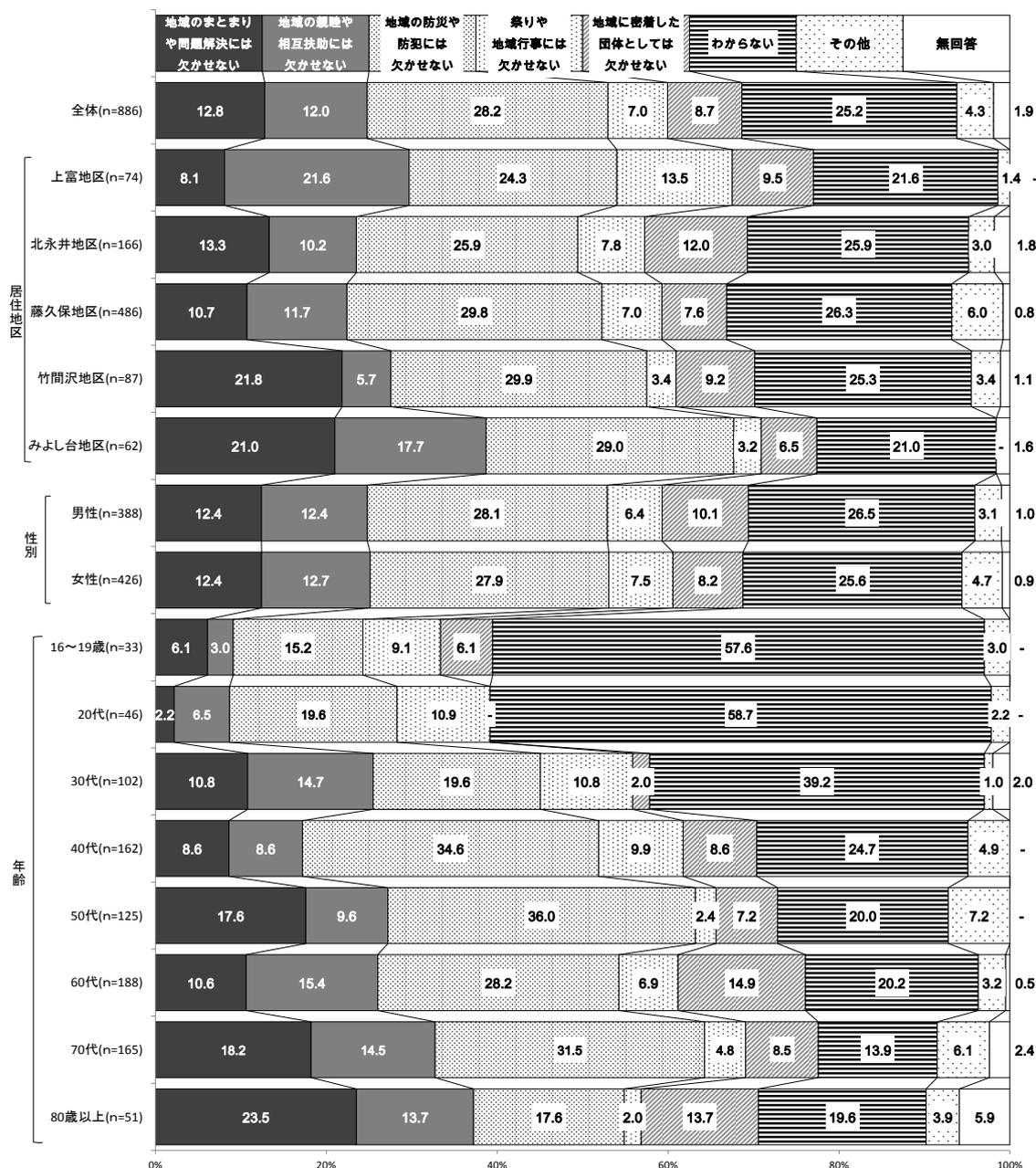
- ・ 前回調査(平成22年度)と比較すると、「地域の防災や防犯には欠かせない」(28.2%)は前回19.7%と10ポイント以上増加している。
- ・ 一方で、「地域の親睦や相互扶助には欠かせない」(12.0%)は前回17.3%から5ポイント、「地域のまとまりや問題解決には欠かせない」(12.8%)は前回15.6%から3ポイントそれぞれ減少している。

図表 2-8. 経年比較 自治会や町内会についての考え方



- ・ 居住地区別でみると、「地域のまとまりや問題解決には欠かせない」は竹間沢地区（21.8%）、みよし台地区（21.0%）で多く、上富地区（8.1%）で少ない。「地域の親睦や相互扶助には欠かせない」は上富地区（21.6%）が多い。
- ・ 性別ではあまり大きな差はみられない。
- ・ 年代別では、「地域のまとまりや問題解決には欠かせない」は80歳以上（23.5%）、70代（18.2%）、50代（17.6%）で多くなっている。「地域の防災や防犯には欠かせない」は40代（34.6%）、50代（36.0%）、70代（31.5%）で3割以上と多くなっている。

図表 2-9. 居住地区別、性別、年代別 自治会や町内会についての考え方

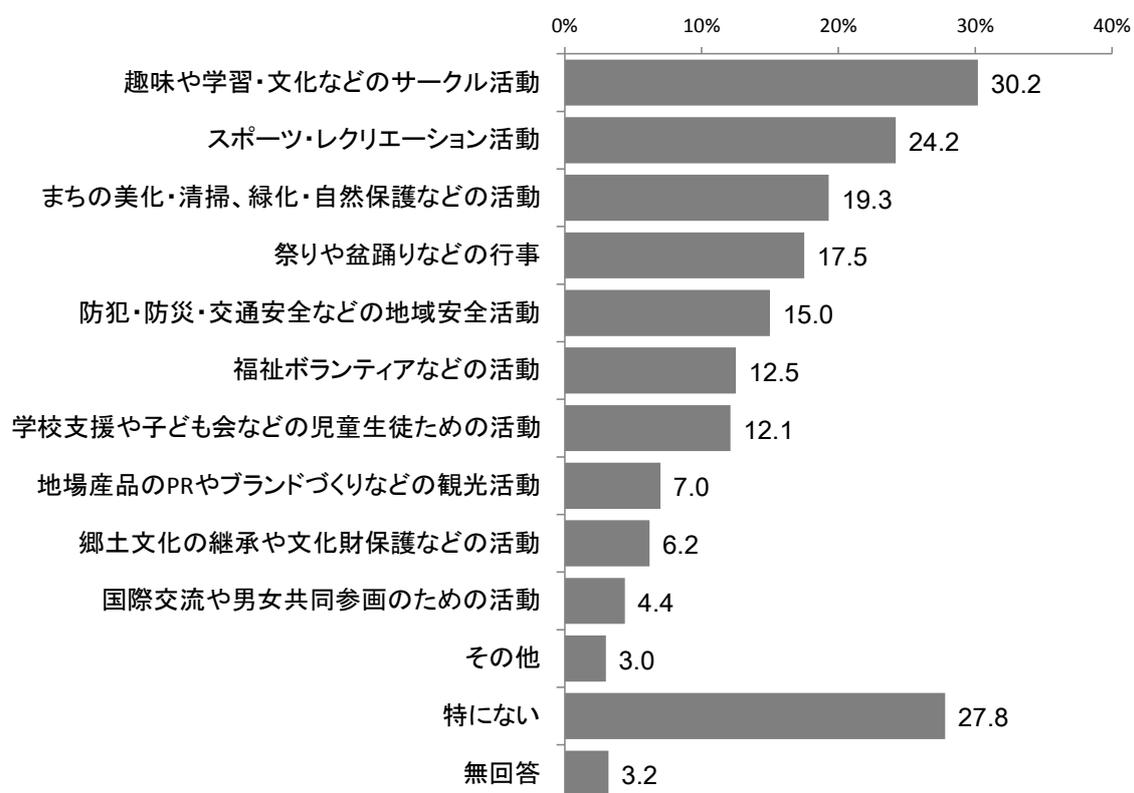


(4) 参加したい地域活動

■ 「趣味や学習・文化などのサークル活動」が30.2%で最も多い。

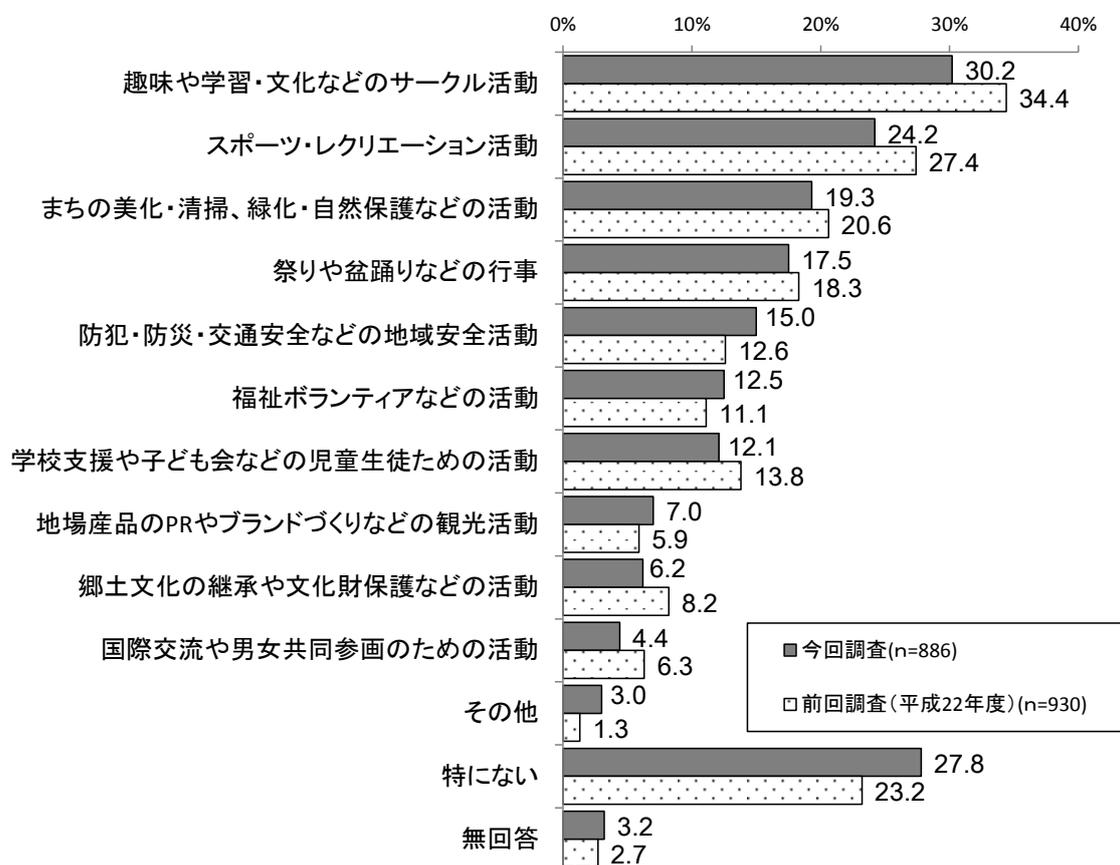
- 参加したい地域活動は、「趣味や学習・文化などのサークル活動」が30.2%で最も多く、以下、「スポーツ・レクリエーション活動」(24.2%)、「まちの美化・清掃、緑化・自然保護などの活動」(19.3%)、「祭りや盆踊りなどの行事」(17.5%)と続いている。

図表 2-10. 参加したい地域活動 (n=886)



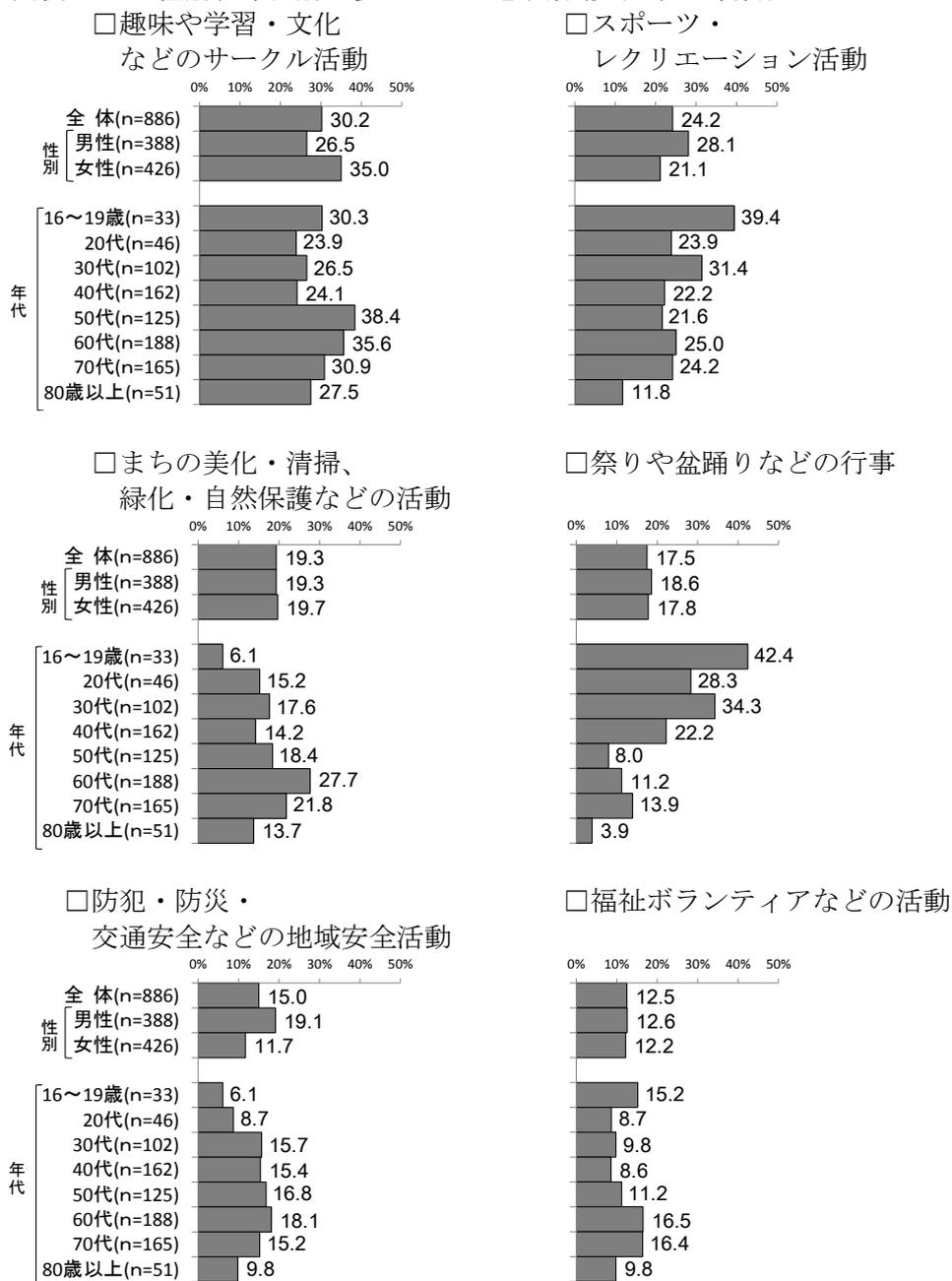
- ・ 前回調査（平成 22 年度）と比較すると、上位 4 項目に変動はみられない。

図表 2-11. 経年比較 参加したい地域活動



- 性別でみると、「趣味や学習・文化などのサークル活動」は女性(35.0%)が男性(28.5%)を7.5ポイント上回っている。「スポーツ・レクリエーション活動」、「防犯・防災・交通安全などの地域安全活動」は男性が女性をそれぞれ5ポイント以上上回っている。
- 年代別では、「趣味や学習・文化などのサークル活動」は50代～70代を中心に幅広い年代であげられている。「スポーツ・レクリエーション活動」や「祭りや盆踊りなどの行事」は16～19歳から30代までが中心、「まちの美化・清掃、緑化・自然保護などの活動」は60代、70代で多くなっている。

図表2-12. 性別、年代別 参加したい地域活動（上位6項目）



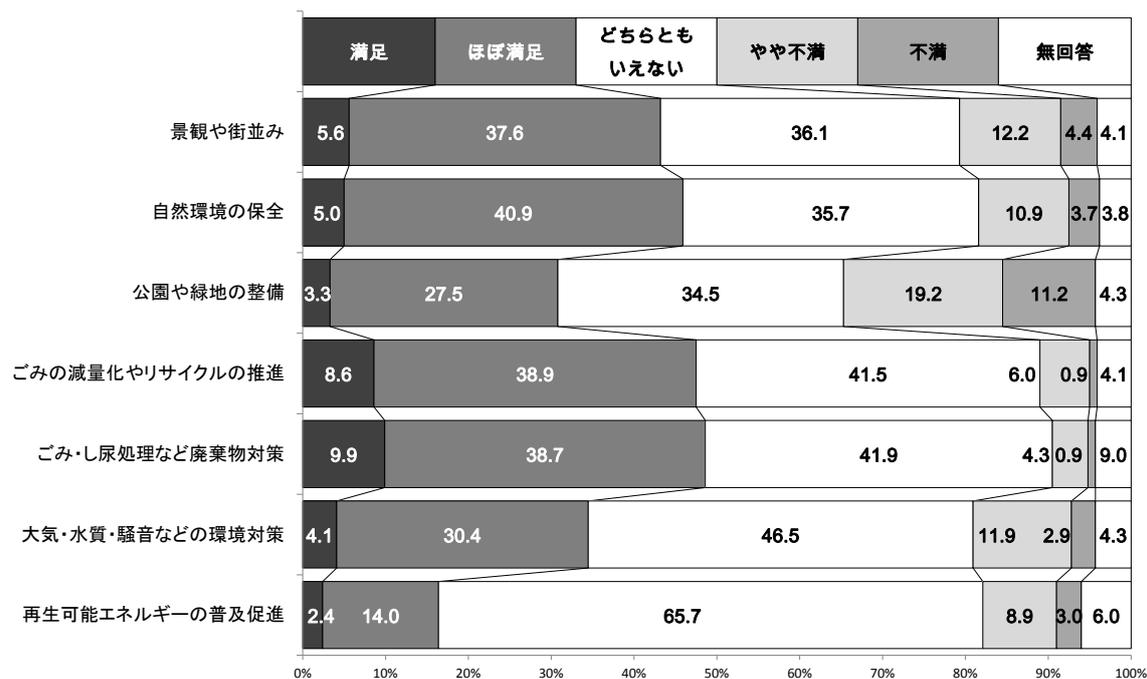
3. 町の現状についての満足度

(1) 「環境」について

- ≪満足≫は「ごみ・し尿処理など廃棄物対策」が 48.6%。
- ≪不満≫は「公園や緑地の整備」が 30.4%。

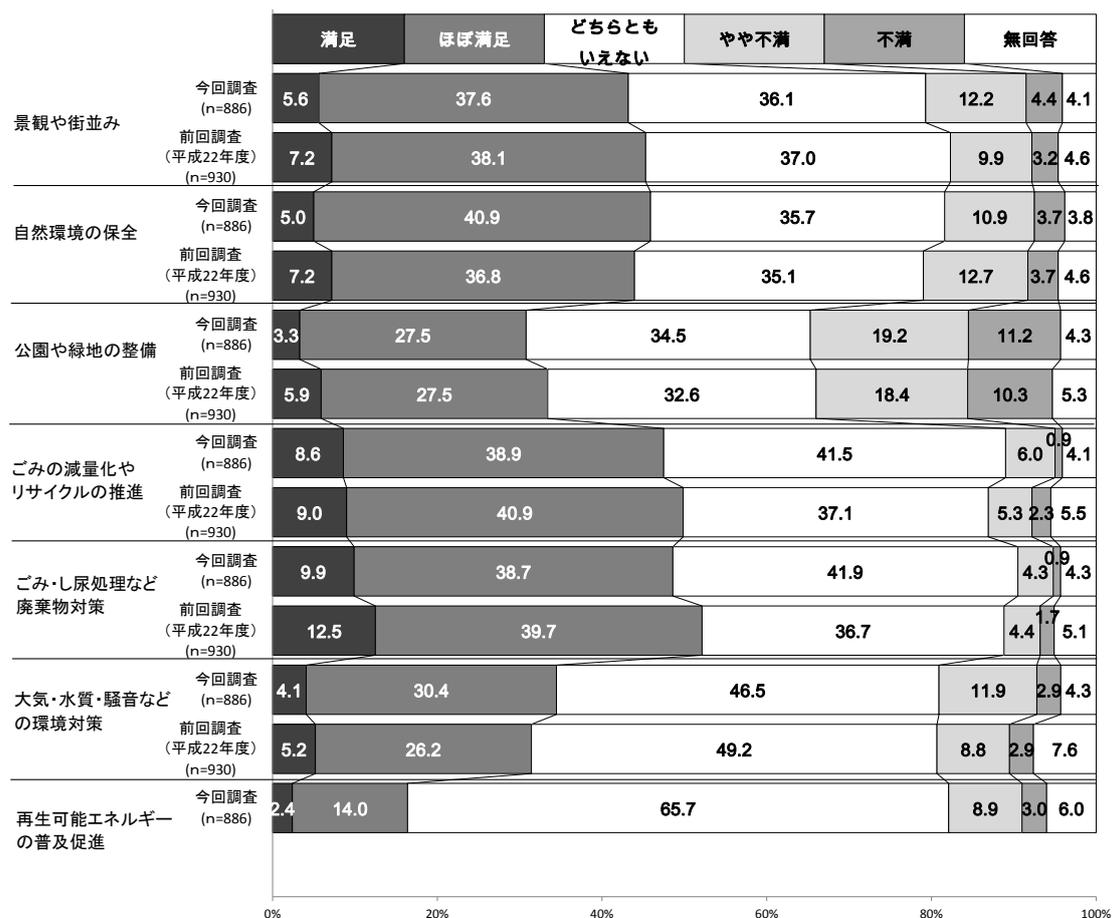
- ・ 「環境」についての満足度をみると、≪満足≫（「満足」＋「ほぼ満足」）は、「ごみ・し尿処理など廃棄物対策」が 48.6%で最も多く、「ごみの減量化やリサイクルの推進」（47.5%）、「自然環境の保全」（45.9%）、「景観や街並み」（43.2%）も 4 割台となっている。
- ・ ≪不満≫（「不満」＋「やや不満」）は、1 割程度のものが多いが、「公園や緑地の整備」は 30.4%と比較的多くなっている。

図表 3-1. 「環境」についての満足度 (n=886)



- ・ 前回調査（平成 22 年度）と比較すると、《満足》は「自然環境の保全」、「大気・水質・騒音などの環境対策」で前回調査から増加している。
- ・ 《不満》は、「景観の街並み」、「公園や緑地の整備」、「大気・水質・騒音などの環境対策」で増加している。

図表 3-2. 経年比較 「環境」についての満足度



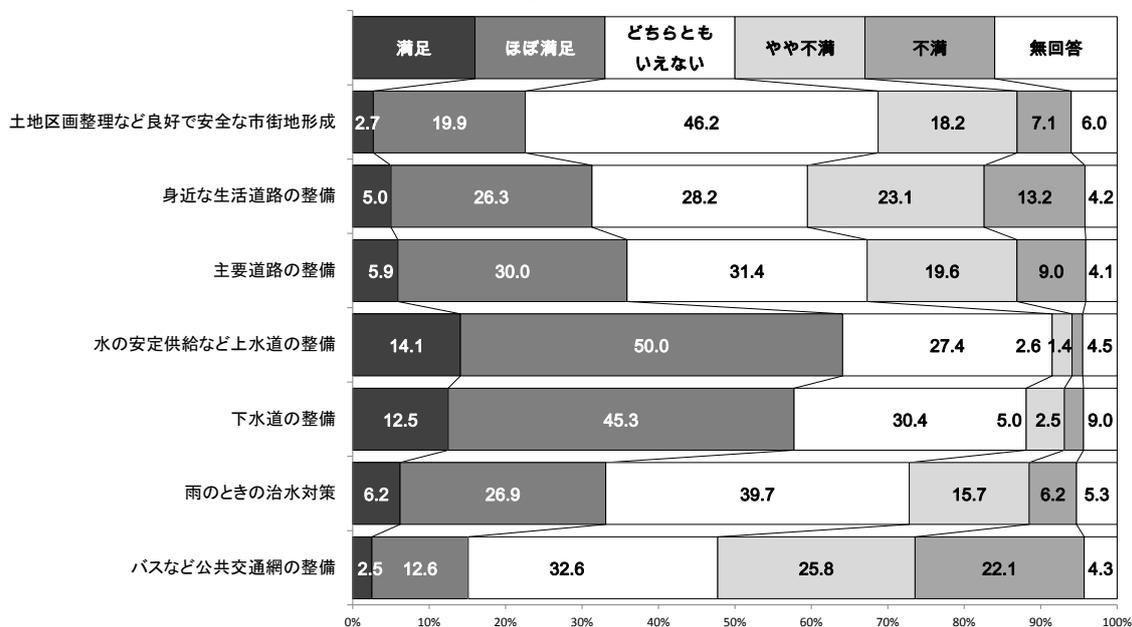
※「再生可能エネルギーの普及促進」は、今回調査から

(2) 「都市整備」について

- ≪満足≫は「水の安定供給など上水道の整備」が64.1%で最も多い。
- ≪不満≫は「バスなどの公共交通網の整備」が47.9%で最も多い。

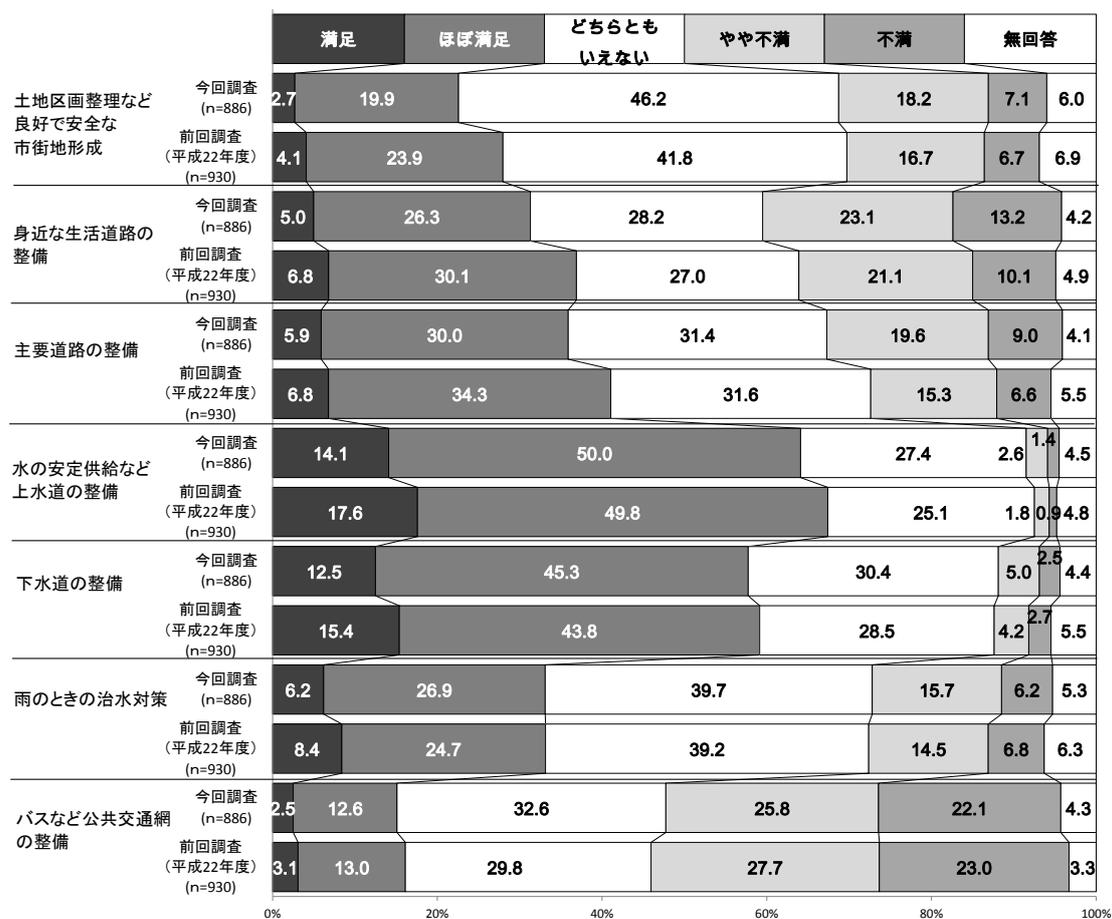
- ・ 「都市整備」についての満足度をみると、≪満足≫は「水の安定供給など上水道の整備」が64.1%で最も多く、「下水道の整備」が57.8%、「主要道路の整備」が35.9%となっている。
- ・ ≪不満≫は、「バスなどの公共交通網の整備」が47.9%で最も多く、「身近な生活道路の整備」(36.3%)が続いており、この2項目は≪満足≫を上回っている。

図表 3-3. 「都市整備」についての満足度 (n=886)



- ・ 前回調査（平成 22 年度）と比較すると、「満足」はすべての項目で減少している。特に「土地区画整理など良好で安全な市街地形成」、「身近な生活道路の整備」、「主要道路の整備」は前回調査から 5 ポイント以上減少している。
- ・ 「不満」では、「バスなど公共交通網の整備」（47.9%）が前回 50.7%からやや減少したものの今回でも最も多くなっている。また、「身近な生活道路の整備」が今回 36.3%で前回 31.2%から 5 ポイント増加しており、「満足」を上回っている。

図表 3-4. 経年比較 「都市整備」についての満足度

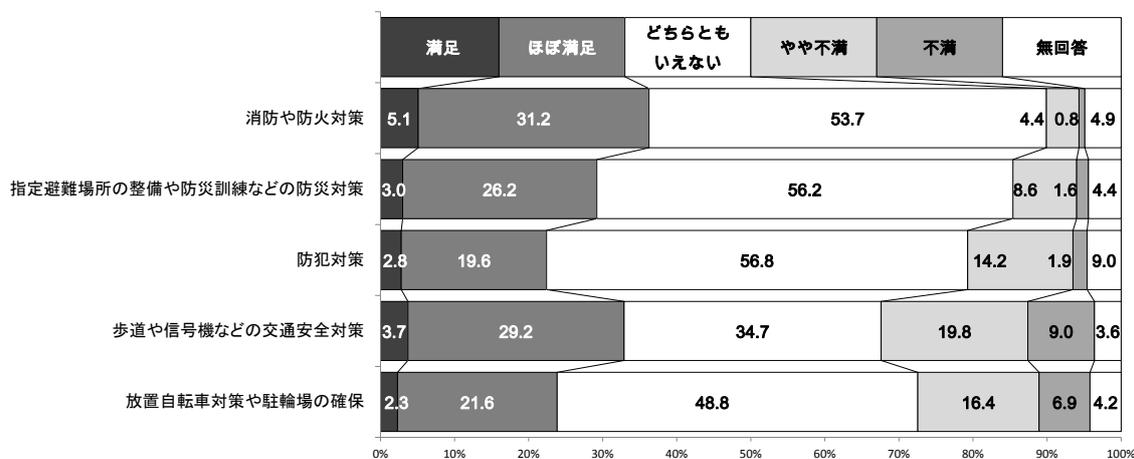


(3) 「安全対策」について

- ≪満足≫は「消防や防火対策」が36.3%で最も多い。
- ≪不満≫は「歩道や信号機などの交通安全対策」が28.8%で最も多い。

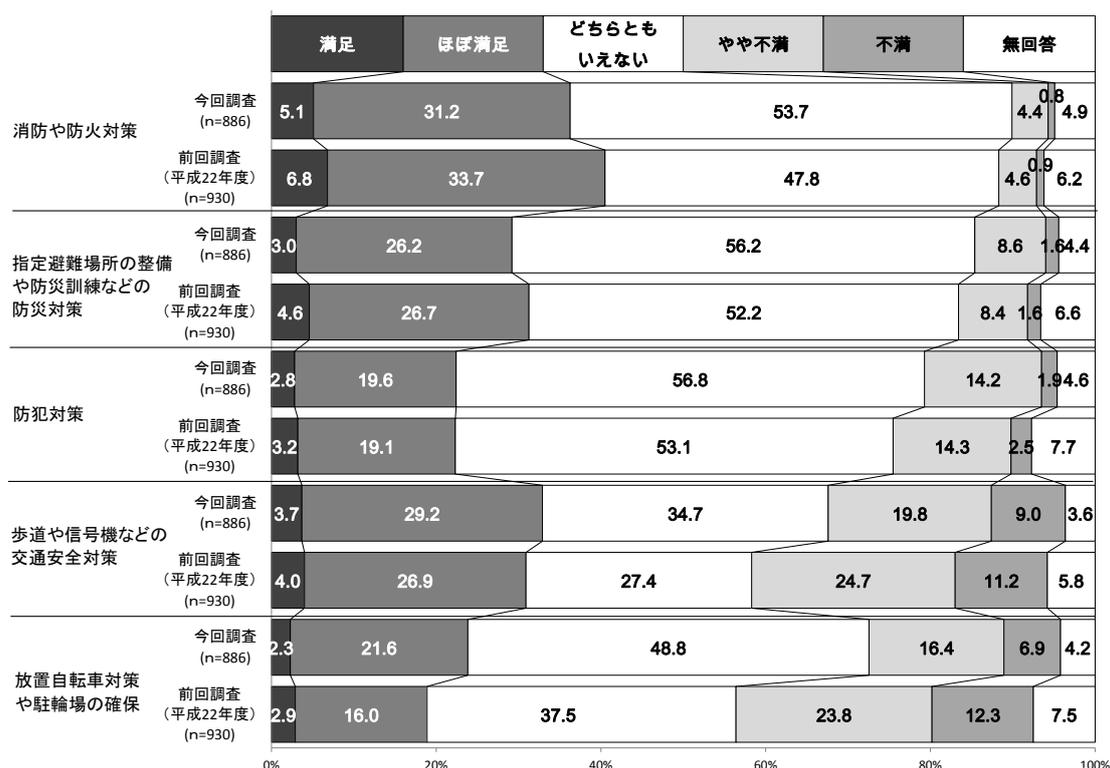
- ・ 「安全対策」についての満足度をみると、≪満足≫は「消防や防火対策」が36.3%で最も多くなっている。
- ・ ≪不満≫は「歩道や信号機などの交通安全対策」が28.8%で最も多くなっている。
- ・ すべての項目で≪満足≫が≪不満≫を上回っている。

図表 3-5. 「安全対策」についての満足度 (n=886)



- ・ 前回調査（平成 22 年度）と比較すると、《満足》は「歩道や信号機などの交通安全対策」、「放置自転車対策や駐輪場の確保」は前回調査から増加し、逆に「消防や防火対策」、「指定避難場所の整備や防災訓練などの防災対策」は前回調査から減少している。
- ・ 《不満》では、すべての項目で前回調査よりも減少している。特に、「放置自転車対策や駐輪場の確保」は前回 36.1%から 13 ポイント、「歩道や信号機などの交通安全対策」は前回 35.9%から 7 ポイントそれぞれ減少している。

図表 3-6. 経年比較 「安全対策」についての満足度

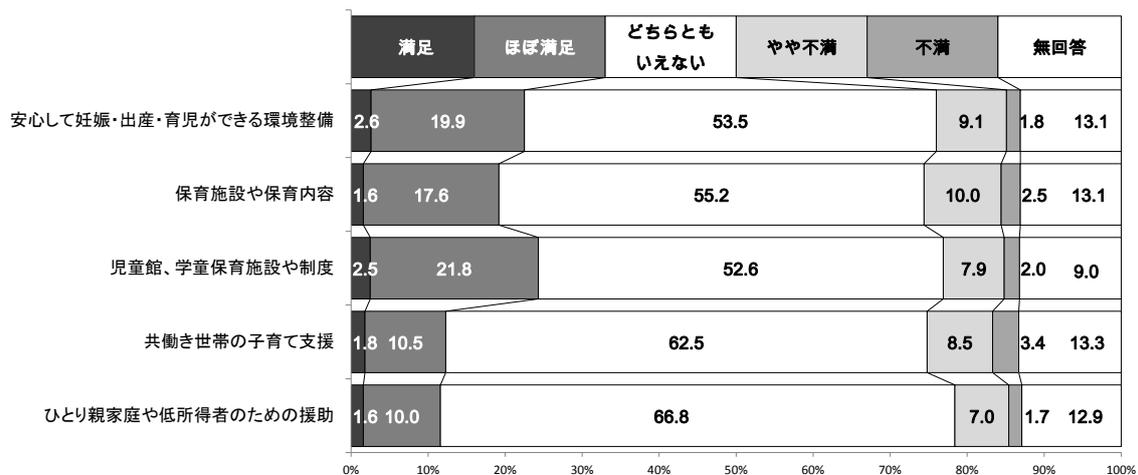


(4) 「子育て支援」について

■ 《満足》は「児童館、学童保育施設や制度」が24.3%で最も多い。

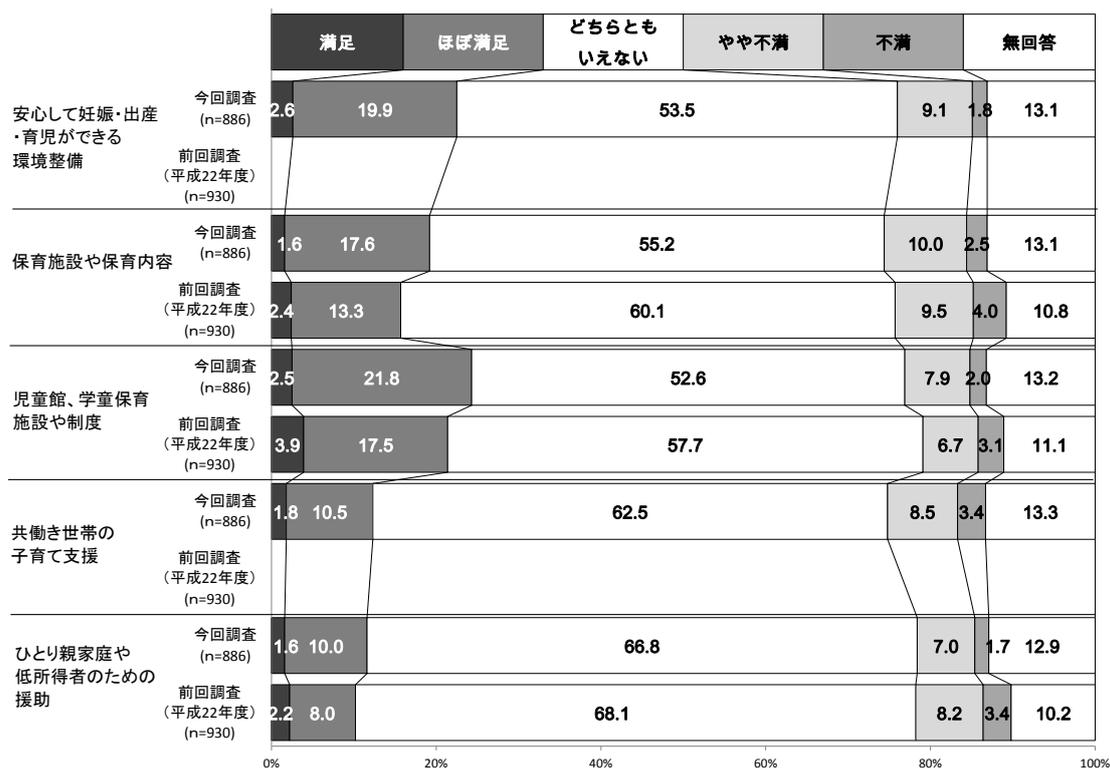
- ・ 「子育て支援」についての満足度をみると、《満足》は「児童館、学童保育施設や制度」が24.3%で最も多くなっている。
- ・ 《不満》は、どの項目も1割程度と少なくなっている。

図表 3-7. 「子育て支援」についての満足度 (n=886)



- ・ 前回調査（平成 22 年度）と比較してみると、《満足》は「保育施設や保育内容」、「児童館、学童保育施設や制度」、「ひとり親家庭や低所得者のための援助」で前回調査から増加している。
- ・ 《不満》は、あまり大きな差はみられない。

図表 3-8. 経年変化 「子育て支援」についての満足度



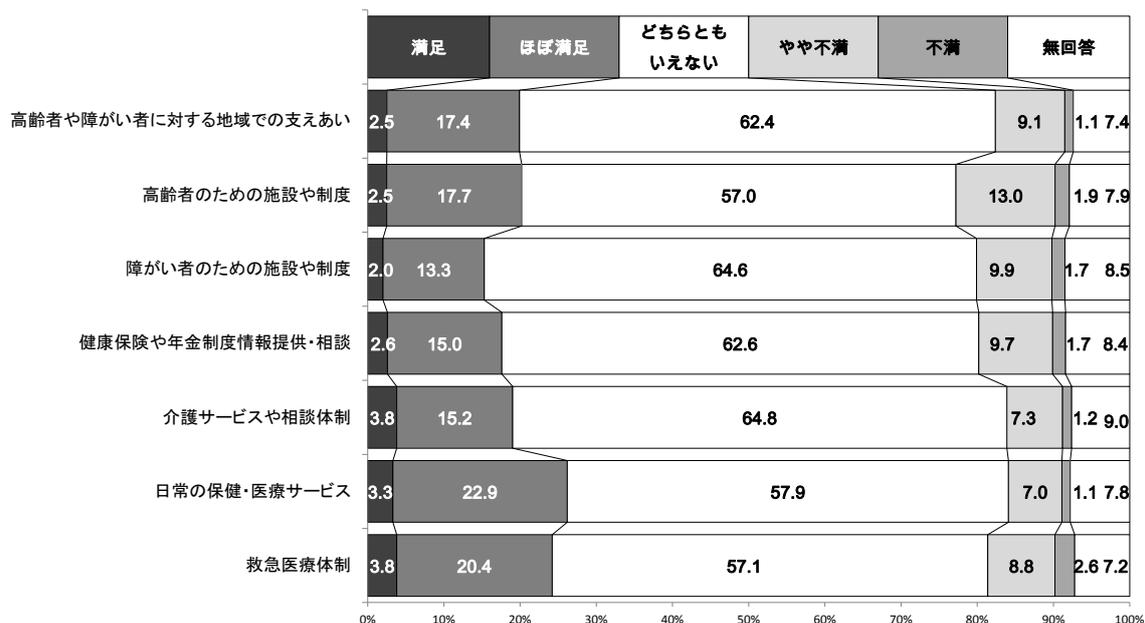
※「安心して妊娠・出産・育児ができる環境整備」、「共働き世代の子育て支援」は今回調査から

(5) 「保健福祉」について

■ 《満足》は「日常の保健・医療サービス」が26.2%で最も多い。

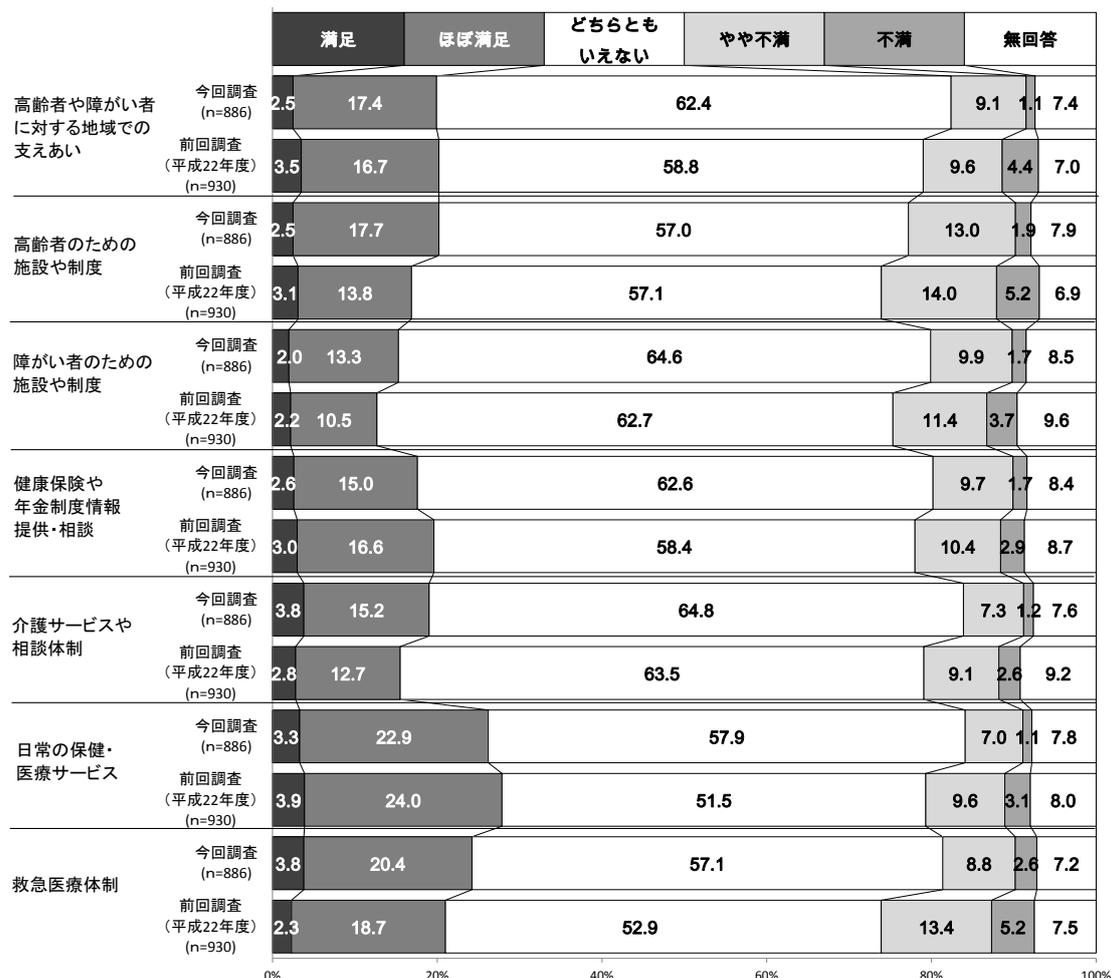
- ・ 「保健福祉」についての満足度をみると、《満足》は「日常の保健・医療サービス」が26.2%で最も多くなっている。
- ・ 《不満》は、すべての項目で1割程度と少なくなっている。

図表 3-9. 「保健福祉」についての満足度 (n=886)



- ・ 前回調査（平成 22 年度）と比較すると、《満足》は「高齢者のための施設や制度」、「障がい者のための施設や制度」、「介護サービスや相談体制」、「救急医療体制」で前回調査から増加している。一方で、「健康保険や年金制度情報提供・相談」、「日常の保健・医療サービス」で減少している。
- ・ 《不満》は、すべての項目で前回調査から減少している。特に「救急医療体制」（11.4％）は前回 18.6％から 7 ポイント減少している。

図表 3-10. 経年比較 「保健福祉」についての満足度

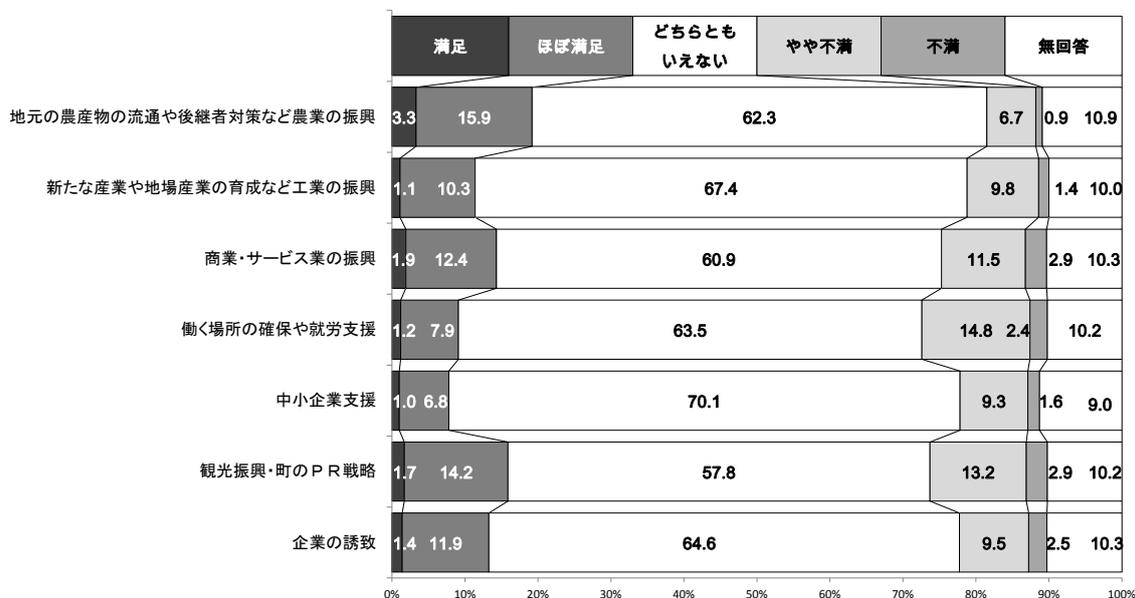


(6) 「産業経済」について

- 《満足》は「地元の農産物の流通や後継者対策など農業の振興」が 19.2%で最も多い。
- 《不満》は「働く場所の確保や就労支援」が 17.2%で最も多いが、すべての項目で 1割程度。

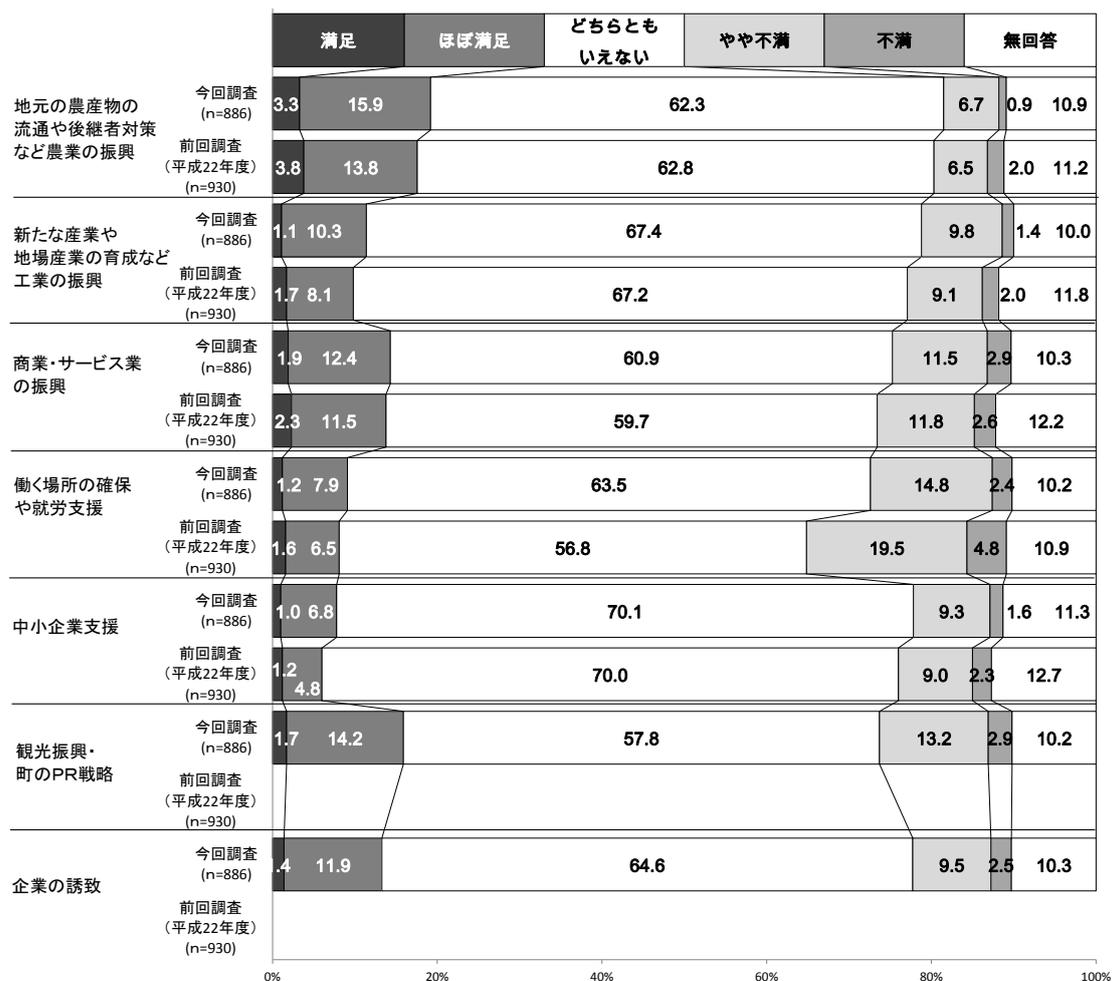
- ・ 「産業経済」についての満足度をみると、《満足》は「地元の農産物の流通や後継者対策など農業の振興」が 19.2%で最も多くなっている。また、他の分野と比較して《満足》は少ない。
- ・ 《不満》では、「働く場所の確保や就労支援」が 17.2%で最も多いが、すべての項目で 1割程度と少なくなっている。

図表 3-11. 「産業経済」についての満足度 (n=886)



- ・ 前回調査（平成 22 年度）と比較すると、「満足」はすべての項目で前回調査から増加している。
- ・ 「不満」はすべての項目で前回調査からやや減少している。特に「働く場所の確保や就労支援」（17.2%）は前回 24.3%から 7ポイント減少している。

図表 3-12. 経年比較 「産業経済」についての満足度



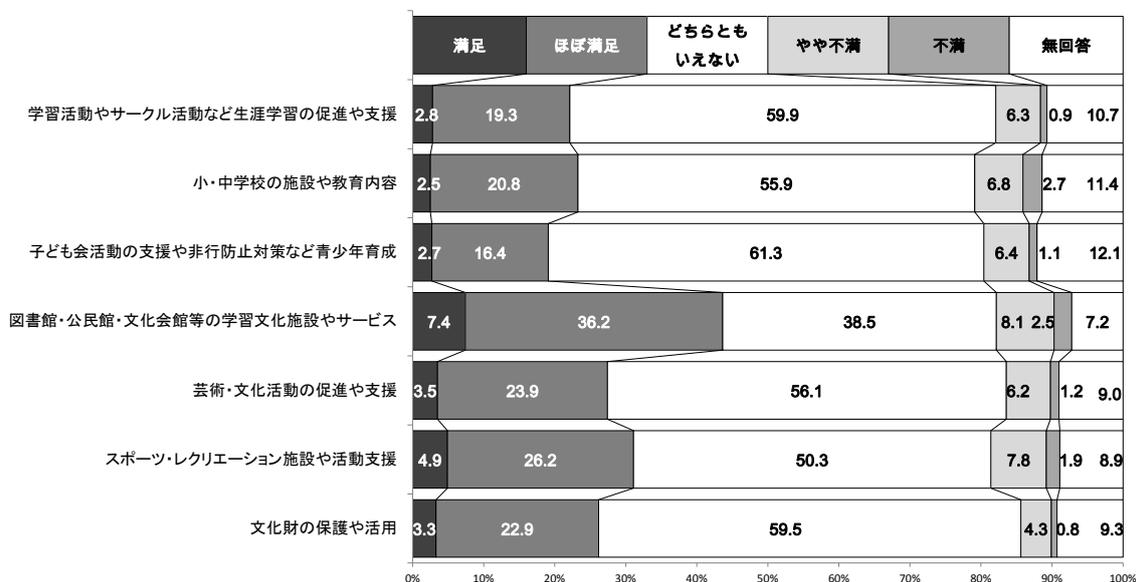
※ 「観光振興・町のPR戦略」、「企業の誘致」は今回調査から
 ※ 「商業・サービス業の振興」は、前回調査では「商業の振興」

(7) 「教育・文化」について

- 《満足》は「図書館・公民館・文化会館等の学習文化施設やサービス」が 43.6%で最も多い。
- 《不満》はすべての項目で 1 割程度と少ない。

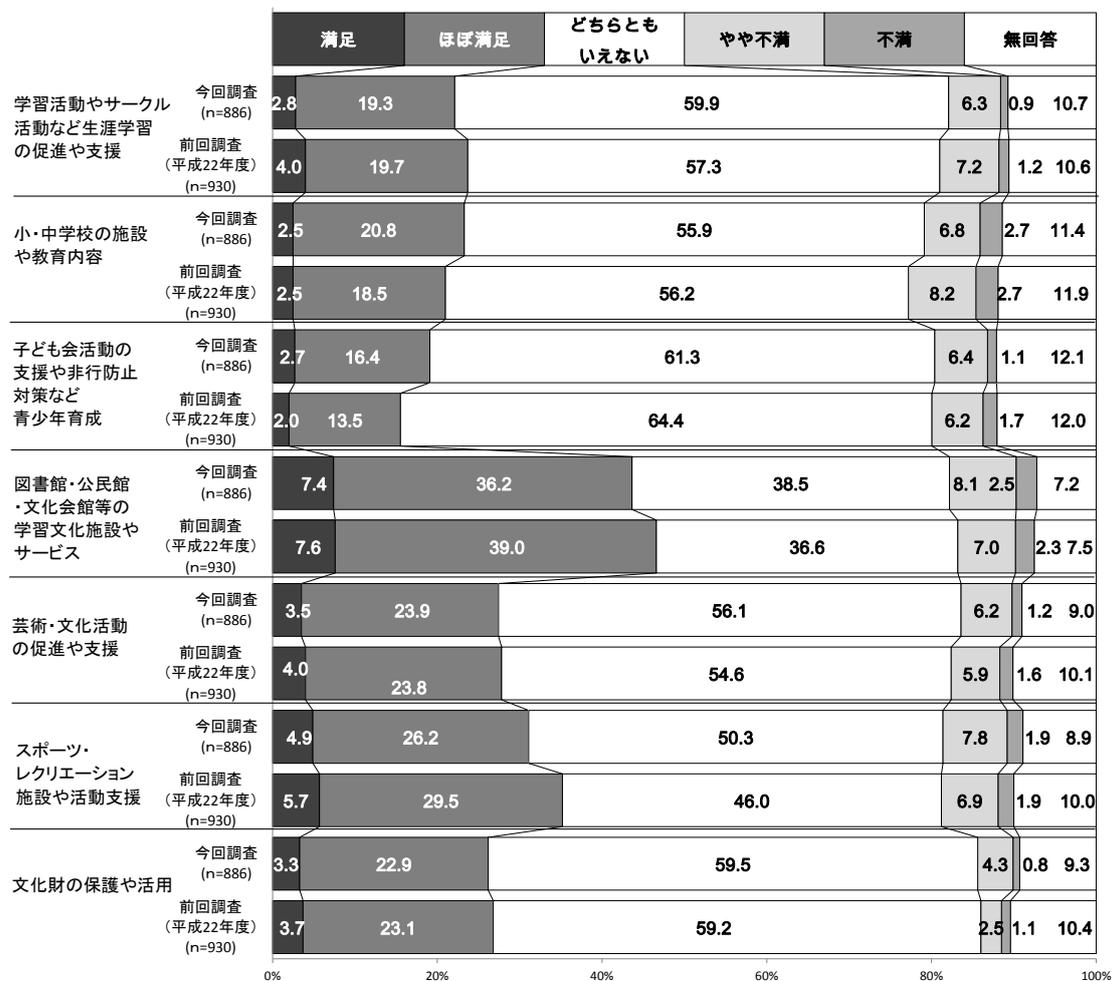
- ・ 「教育・文化」についての満足度をみると、《満足》は「図書館・公民館・文化会館等の学習文化施設やサービス」が 43.6%で最も多く、次いで「スポーツ・レクリエーション施設や支援」(31.1%)、「芸術・文化活動の促進や支援」(27.4%)となっている。
- ・ 《不満》は、すべての項目では 1 割程度と少なくなっている。

図表 3-13. 「教育・文化」についての満足度 (n=886)



- ・ 前回調査（平成 22 年度）と比較すると、《満足》は「小・中学校の施設や教育内容」、
「子ども会活動の支援や非行防止対策など青少年育成」は前回からやや増加している。
- ・ 《不満》は、前回調査からあまり大きな変化はみられない。

図表 3-14. 経年変化 「教育・文化」についての満足度

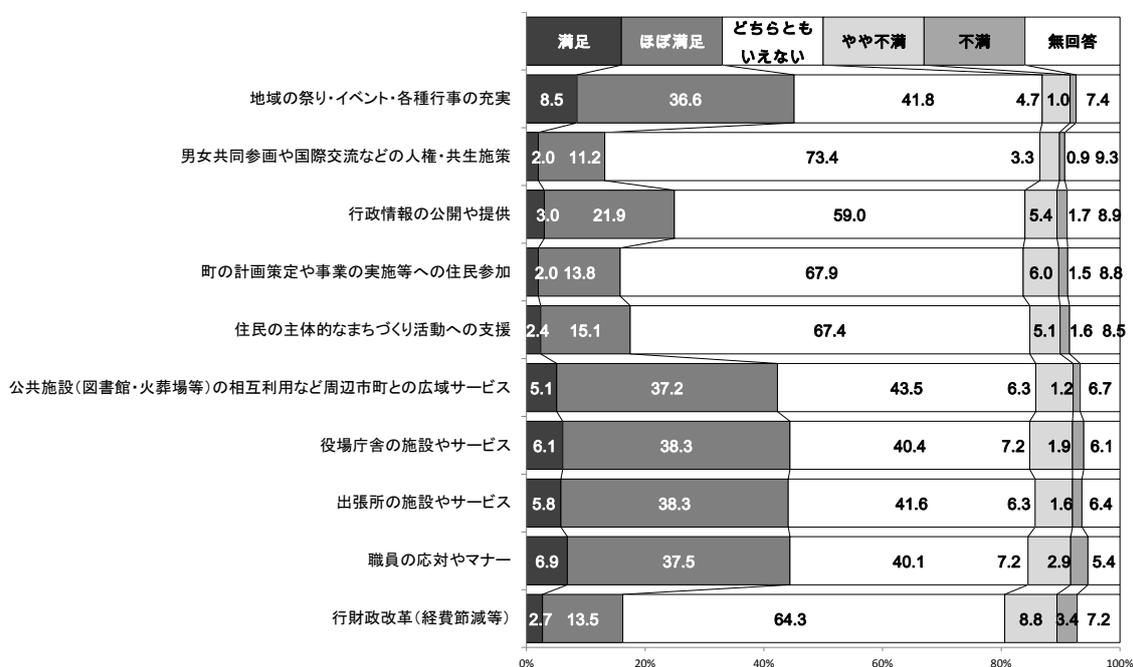


(8) 「コミュニティ・行財政」について

- 《満足》は「地域の祭り・イベント・各種行事の充実」が45.1%で最も多い。
- 《不満》はすべての項目が1割程度と少ない。

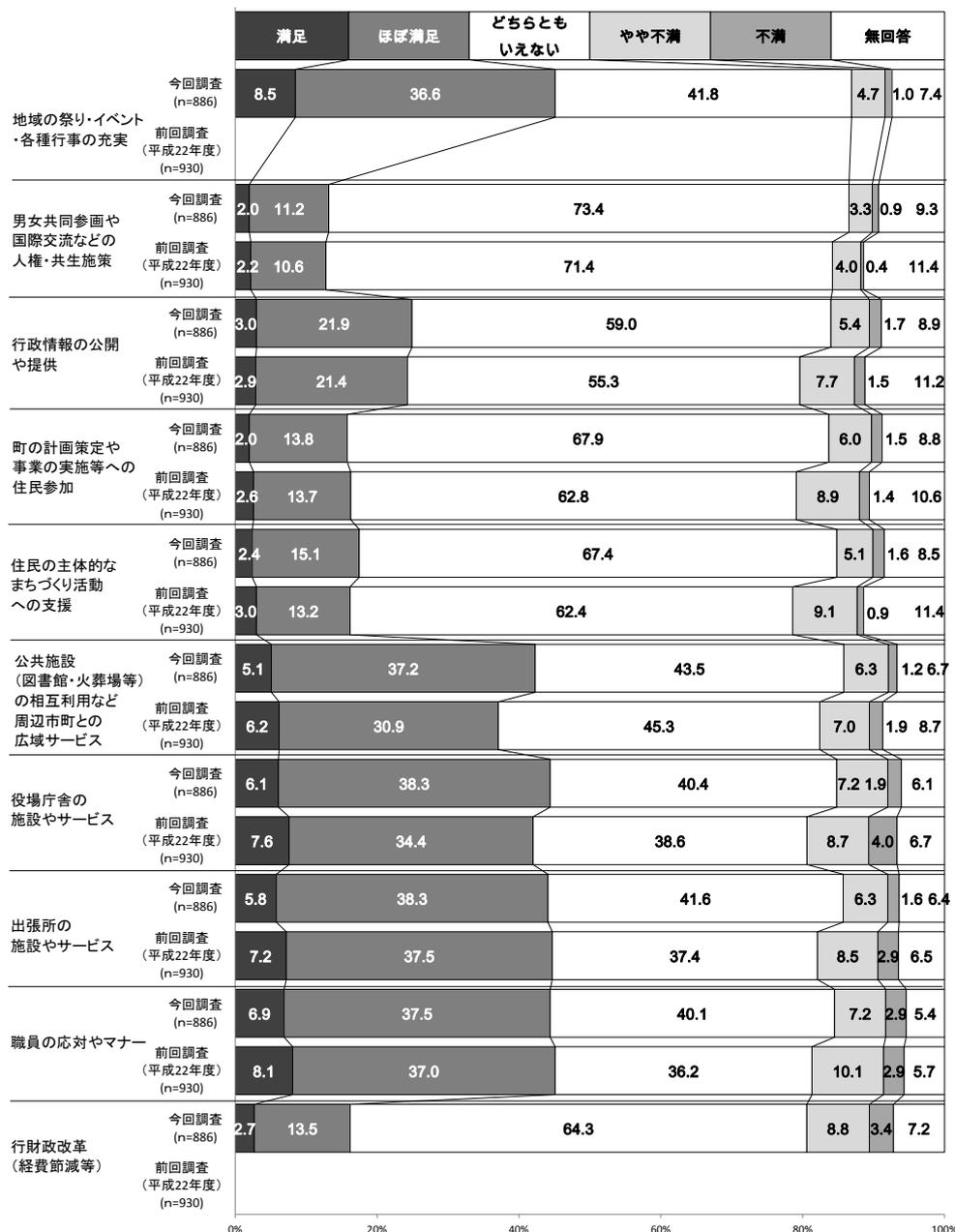
- ・ 「コミュニティ・行財政」についての満足度をみると、《満足》は「地域の祭り・イベント・各種行事の充実」が45.1%で最も多く、「役場庁舎の施設やサービス」と「職員の対応やマナー」が44.4%、「出張所の施設やサービス」が44.1%と続いている。
- ・ 《不満》は、すべての項目が1割程度と少なくなっている。

図表 3-15. 「コミュニティ・行財政」についての満足度 (n=886)



- ・ 前回調査（平成 22 年度）と比較すると、《満足》では「公共施設（図書館・火葬場等）の相互利用など周辺市町との広域サービス」、「役場庁舎の施設やサービス」で前回から増加している。
- ・ 《不満》は、前回調査からあまり大きな変化はみられない。

図表 3-16. 経年変化 「コミュニティ・行財政」についての満足度



※「地域の祭り・イベント・各種行事の充実」、「行財政改革（経費削減等）」は今回調査から

各項目間の比較をより単純にするために、下記の計算式のように、5段階の評価に点数を与え、各項目の平均評価点を算出した。

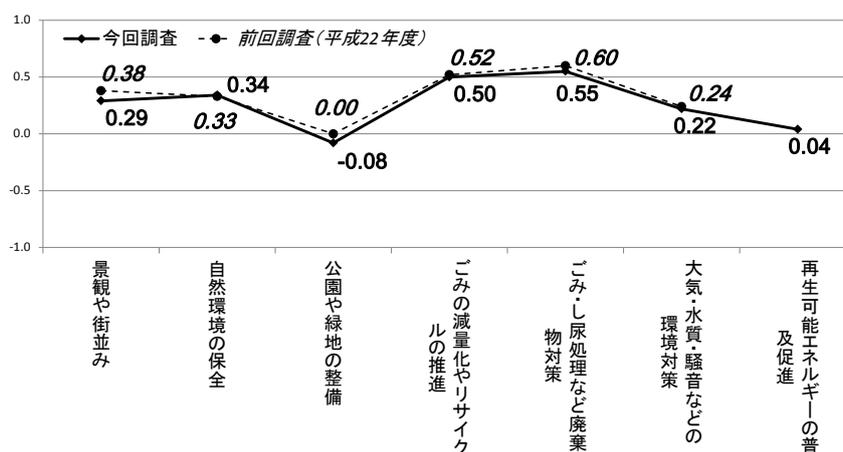
算出方法

$$\text{評価点} = \frac{\begin{aligned} & \text{「満足」の回答数} \times 2 \text{点} \\ & \text{「ほぼ満足」の回答数} \times 1 \text{点} \\ & \text{「どちらともいえない」の回答数} \times 0 \text{点} \\ & \text{「やや不満」の回答数} \times -1 \text{点} \\ & \text{「不満」の回答数} \times -2 \text{点} \end{aligned}}{\text{回答者数 (無回答を除く)}}$$

この算出方法では、評価点は+2.00点から-2.00点の間に分布し、0.00点が中間値である。+2.00点に近いほど評価は高く、逆に-2.00点に近いほど評価は低いことになる。

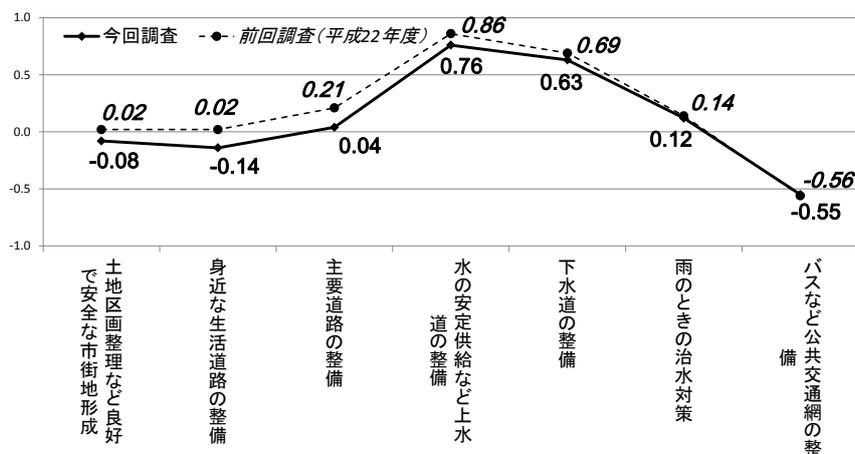
- ・ 環境の平均評価点をみると、「公園や緑地の整備」がマイナス 0.08 点であるほかは、いずれの項目もプラス評価となっている。「ごみ・し尿処理など廃棄物対策」が 0.55 点で最も高く、「ごみの減量化やリサイクルの推進」が 0.50 点で続いている。
- ・ 前回調査（平成 22 年度）と比較すると、いずれの項目も前回とあまり大きな変化はみられない、

図表 3-17. 「環境」の平均評価点



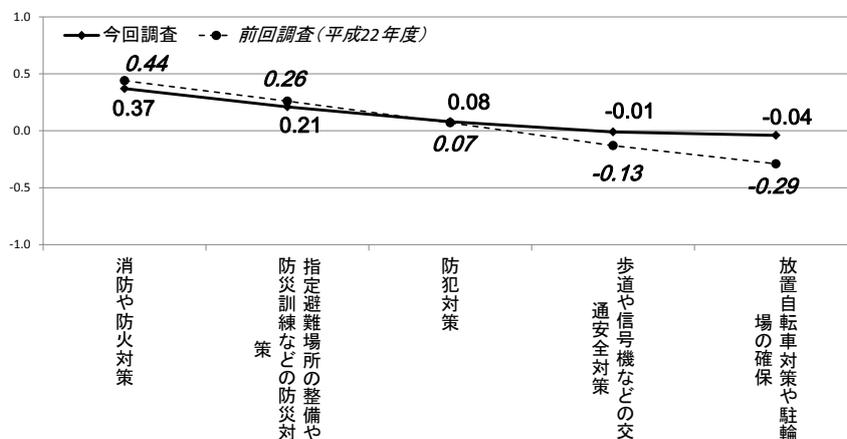
- ・ 都市整備の平均評価点をみると、「水の安定供給など上水道の整備」が 0.76 点で最も高く、「下水道の整備」が 0.63 点で続いている。最も低いのは、「バスなど公共交通網の整備」でマイナス 0.55 点となっている。
- ・ 前回調査（平成 22 年度）と比較すると、いずれの項目でも前回から低下し、「土地区画整理など良好で安全な市街地形成」、「身近な生活道路の整備」は今回マイナス評価となっている。

図表 3-18. 「都市整備」の平均評価点



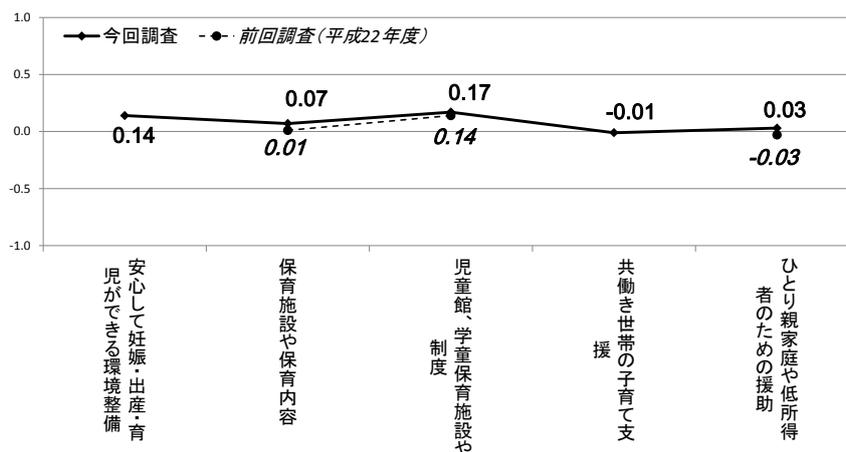
- ・ 安全対策の平均評価点をみると、「消防や防火対策」が 0.37 点で最も高く「指定避難場所の整備や防災訓練などの防災対策」が 0.21 点で続いている。最も低いのは「放置自転車対策や駐輪場の確保」がマイナス 0.04 点となっている。
- ・ 前回調査（平成 22 年度）と比較すると、「歩道や信号機などの交通安全対策」、「放置自転車対策や駐輪場の確保」が前回から 0.1 点以上上昇している。

図表 3-19. 「安全対策」の平均評価点



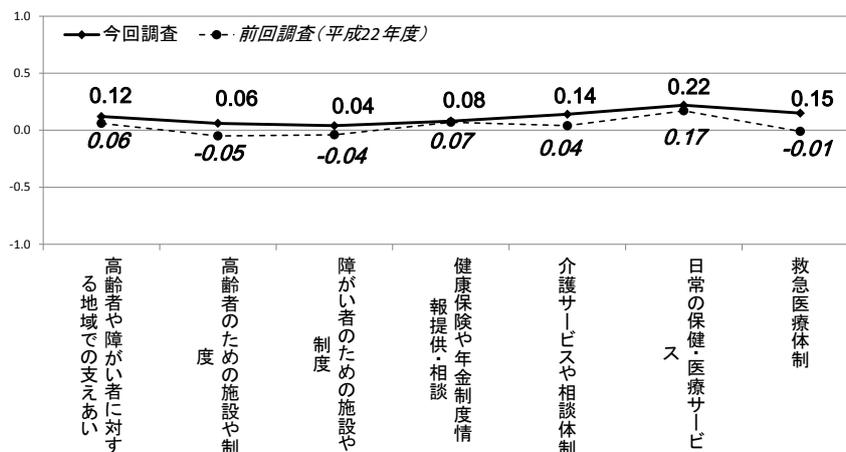
- ・ 子育て支援の平均評価点をみると、「児童館、学童保育施設や制度」が 0.17 点で最も高く、「安心して妊娠・出産・育児ができる環境整備」が 0.14 点で続いている。最も低いのは「共働き世帯の子育て支援」がマイナス 0.01 点となっている。
- ・ 前回調査（平成 22 年度）と比較すると、あまり大きな差は見られないが、「ひとり親家庭や低所得者のための援助」が前回マイナスだったのがプラス評価に上昇している。

図表 3-20. 「子育て支援」の平均評価点



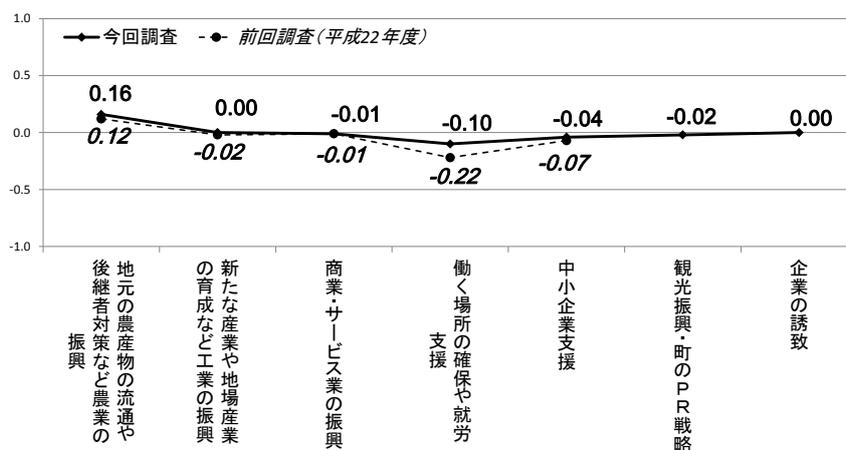
- ・ 保育保健福祉の平均評価点をみると、「日常の保健・医療サービス」が 0.22 点で最も高く、「救急医療体制」が 0.15 点で続いている。最も低いのは、「障がい者のための施設や制度」で 0.04 点となっている。
- ・ 前回調査（平成 22 年度）と比較すると、いずれの項目でも前回を上回っている。

図表 3-21. 「保健福祉」の平均評価点



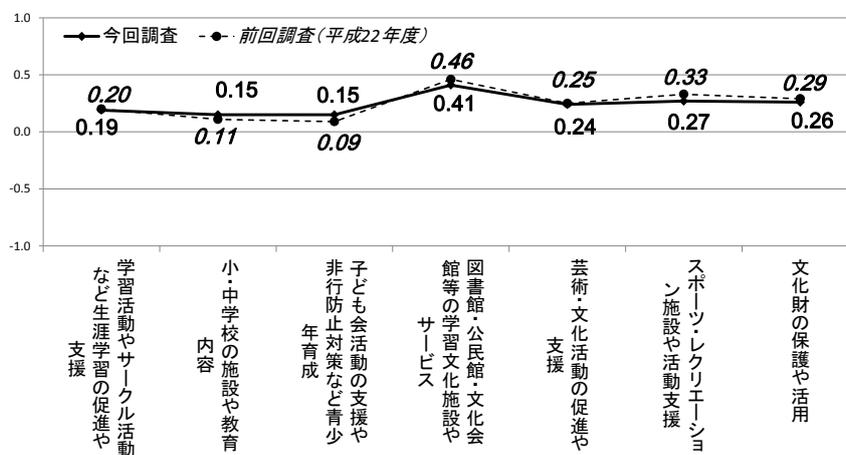
- 産業経済の平均評価点をみると、「地元の農産物の流通や後継者対策など農業の振興」が 0.16 点で最も高く、「新たな産業や地場産業の育成など工業の振興」と「企業の誘致」が 0.00 点で続いている。
- 前回調査（平成 22 年度）と比較すると、いずれの項目でも前回は上回っている。「働く場所の確保や就労支援」は今回もマイナス評価であるが前回マイナス 0.22 点から 0.12 点上昇している。

図表 3-22. 「産業経済」の平均評価点



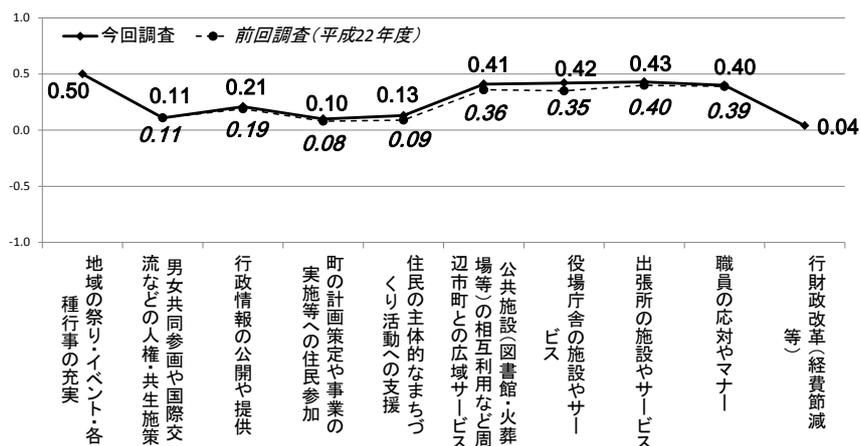
- 教育・文化の平均評価点をみると、「図書館・公民館・文化会館等の学習文化施設やサービス」が 0.41 点で最も高く、「スポーツ・レクリエーション施設や活動支援」が 0.27 点で続いている。最も低いのは「子ども会活動の支援や非行防止対策など青少年育成」が 0.09 点となっている。
- 前回調査（平成 22 年度）と比較すると、あまり大きな変化はみられない。

図表 3-23. 「教育・文化」の平均評価点



- ・ コミュニティ・行財政の平均評価点をみると、「地域の祭り・イベント・各種行事の充実」が0.50点で最も高く、「出張所の施設やサービス」が0.43点で続いている。最も低いのは、「行財政改革（経費削減等）」が0.04点となっている。
- ・ 前回調査（平成22年度）と比較すると、あまり大きな変化はみられない。

図表3-24. 「コミュニティ・行財政」の平均評価点



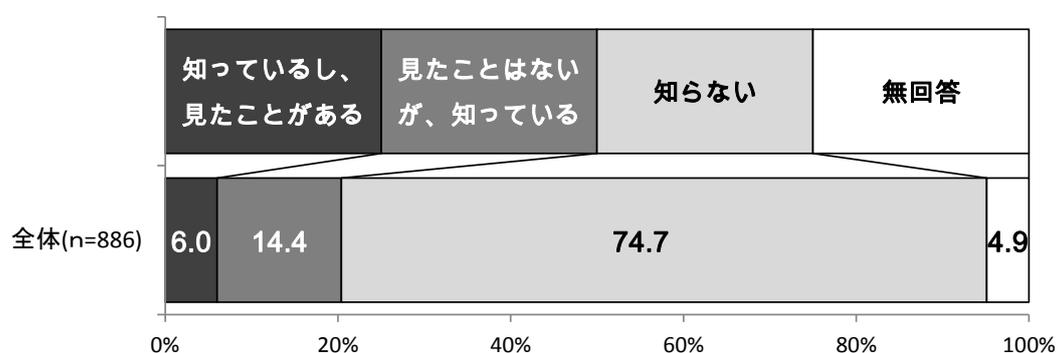
4. 町政運営について

(1) 第4次総合振興計画（基本構想・基本計画）に対する認知度

■ 第4次総合振興計画（基本構想・基本計画）を「知らない」という人が7割以上。

- ・ 第4次総合振興計画（基本構想・基本計画）に対する認知度では、「知らない」が74.7%で最も多い。

図表4-1. 第4次総合振興計画（基本構想・基本計画）に対する認知度

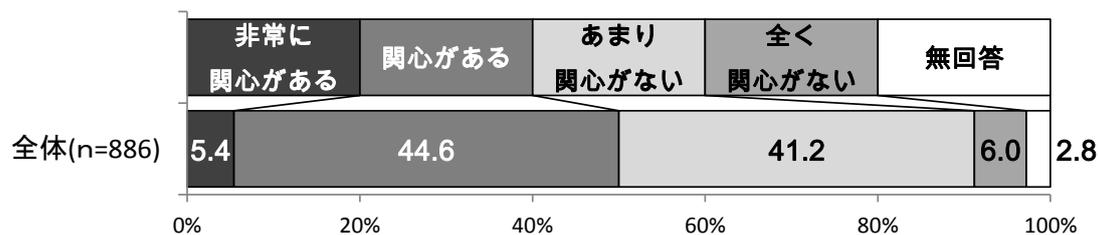


(2) 町政への関心度

- 《関心がある》が 50.0%となっている。

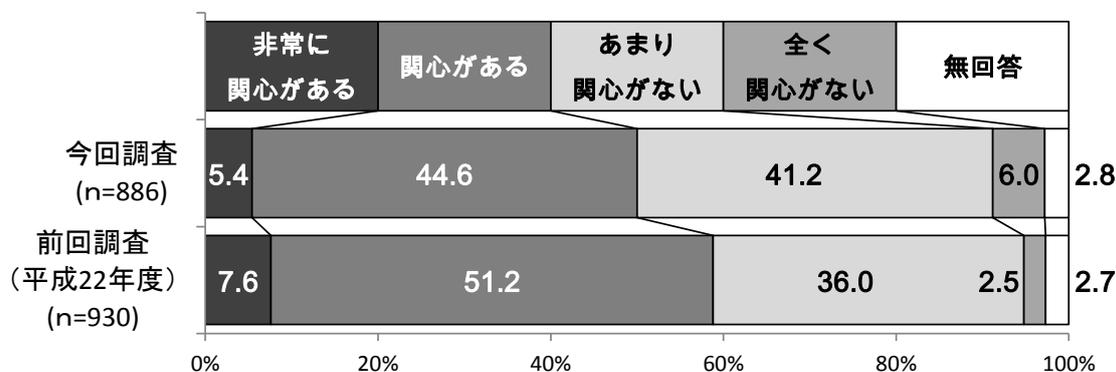
- ・ 町政に「非常に関心がある」は 5.4%、「関心がある」が 44.6%で、これを合わせた《関心がある》は 50.0%と半数となっている。
- ・ 《関心がない》（「全く関心がない」＋「あまり関心がない」）は 47.2%となっている。

図表 4-2. 町政への関心度



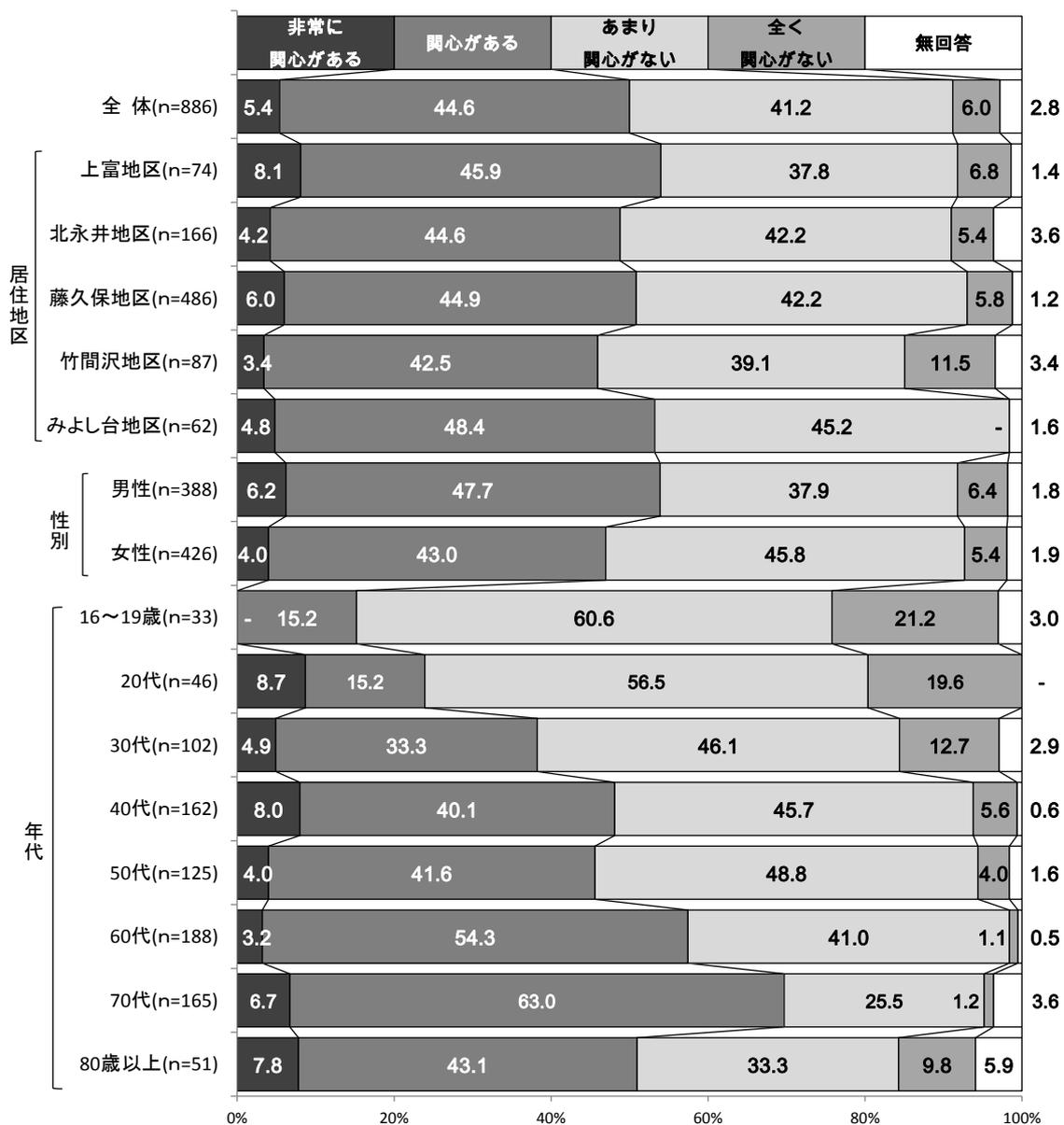
- ・ 前回調査（平成 22 年度）と比較すると、《関心がある》（50.0%）は前回 58.8%から 8.8%減少している。

図表 4-3. 経年比較 町政への関心度



- ・ 居住地区別でみると、《関心がある》は、上富地区（54.0%）、みよし台地区（53.2%）、藤久保地区（50.9%）が50%以上で多くなっている。
- ・ 性別では、《関心がある》は、男性（53.9%）のほうが女性（47.0%）よりも多い。
- ・ 年代別では、《関心がある》は、16～19歳から70代まで年代が高くなるにつれ多くなっている。

図表 4-4. 居住地区、性別、年代別 町政への関心度

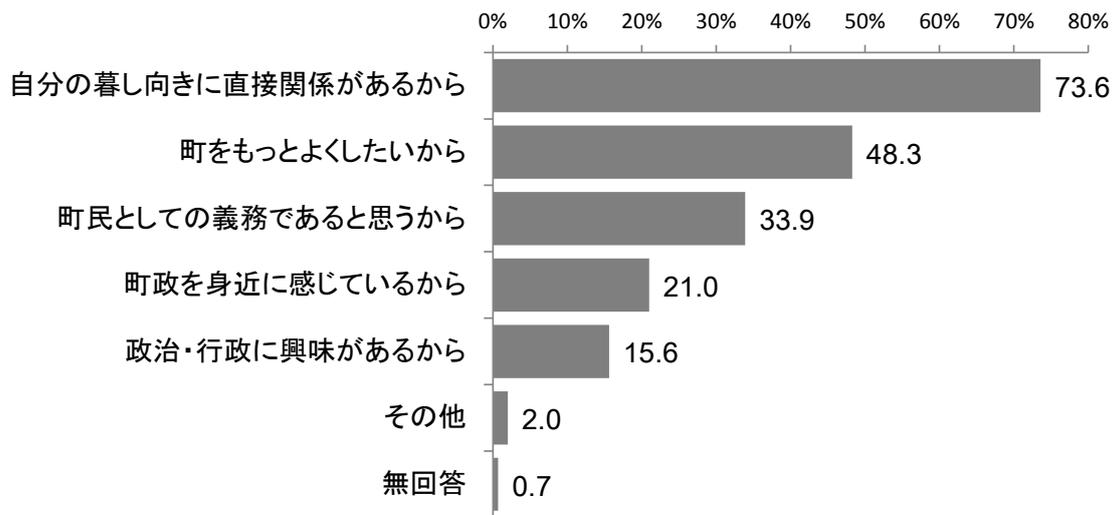


(3) 町政に関心がある理由

■ 「自分の暮らし向きに直接関係があるから」が73.6%で最も多い。

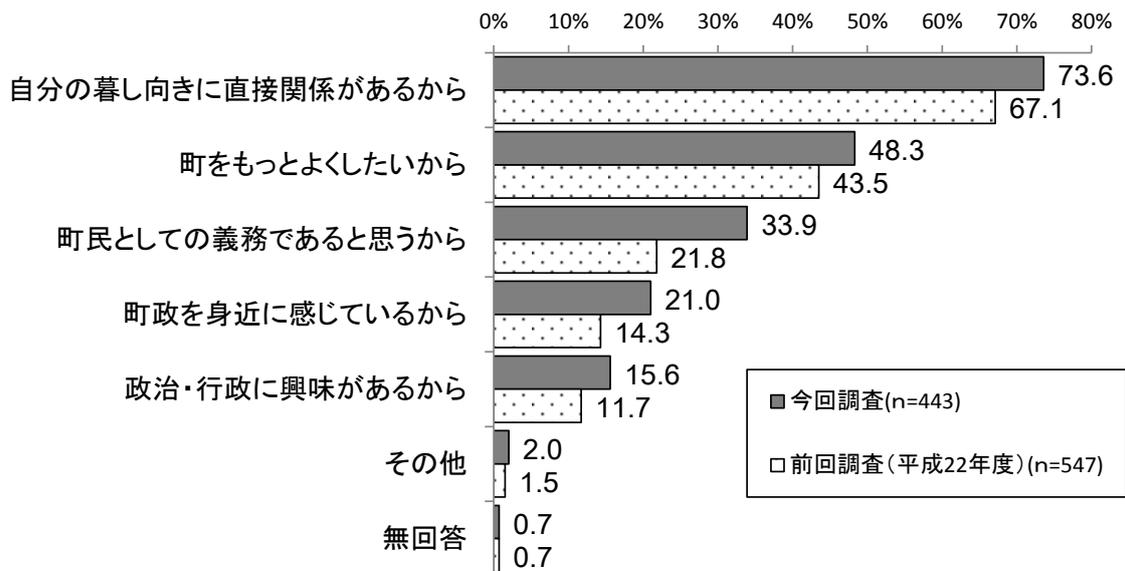
- ・ 前問で町政に《関心がある》と回答した理由は、「自分の暮らし向きに直接関係があるから」が73.6%で最も多く、以下、「町をもっとよくしたいから」(48.3%)、「町民としての義務であると思うから」(33.9%)と続いている。

図表 4-5. 町政に関心がある理由 (n=443)



- ・ 前回調査（平成22年度）と比較すると、いずれの項目でも前回は上回っている。

図表 4-6. 経年比較 町政に関心がある理由

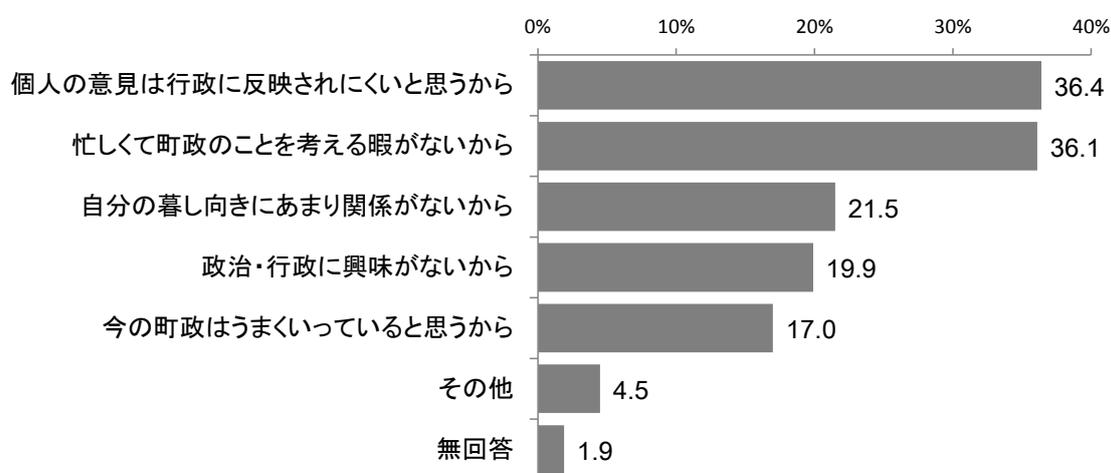


(4) 町政に関心がない理由

■ 「個人の意見は行政に反映されにくいと思うから」(36.4%)と「忙しくて町政のことを考える暇がないから」(36.1%)が多い。

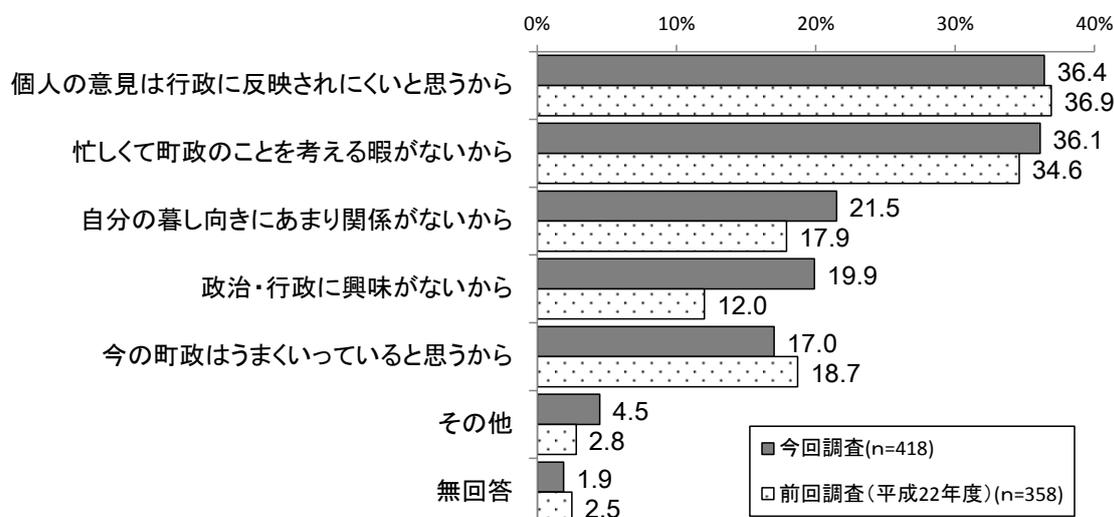
- ・ 前問で町政に「関心がない」と回答した理由は、「個人の意見は行政に反映されにくいと思うから」(36.4%)と「忙しくて町政のことを考える暇がないから」(36.1%)の2項目が3割台と多くなっている。

図表 4-7. 町政に関心がない理由 (n=418)



- ・ 前回調査(平成22年度)と比較すると、「政治・行政に興味がないから」が8ポイント、「自分の暮らし向きにあまり関係がないから」が4ポイントそれぞれ増加している。

図表 4-8. 経年比較 町政に関心がない理由

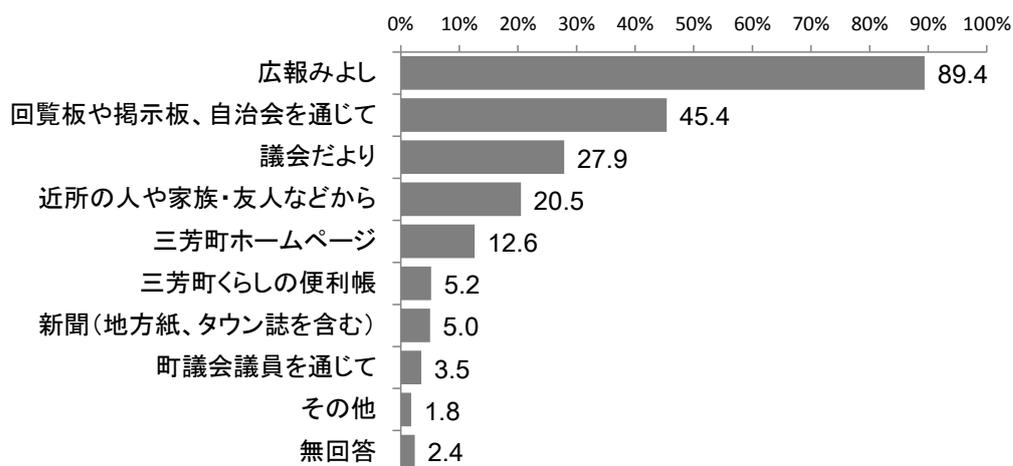


(5) 町政や町の行事の情報収集方法

■ 「広報みよし」が89.4%で特に多くなっている。

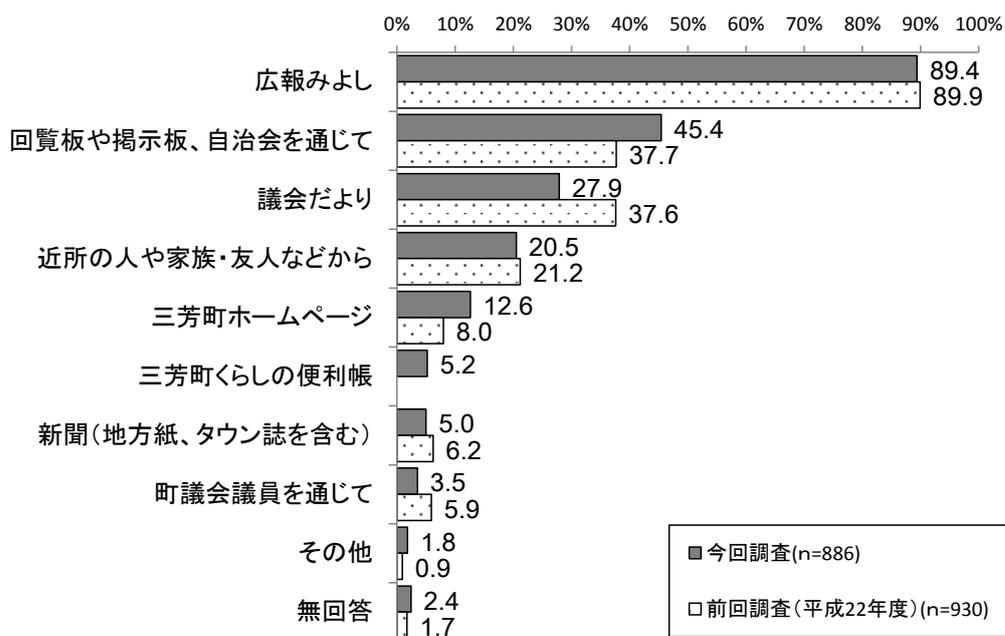
- 町政や町の行事などの情報収集方法は、「広報みよし」が89.4%で特に多くなっており、以下、「回覧板や掲示板、自治会を通じて」が45.4%、「議会だより」が27.9%と続いている。

図表 4-9. 町政や町の行事の情報収集方法 (n=886)



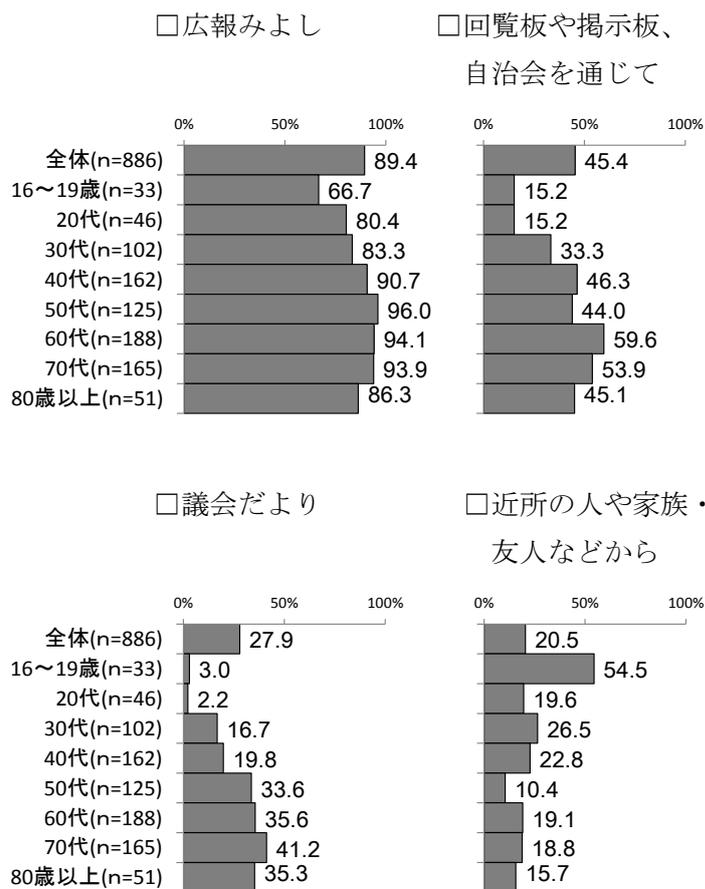
- 前回調査(平成22年度)と比較すると「議会だより」が約10ポイント減少し、「回覧板や掲示板、自治会を通じて」が約8ポイント増加している。

図表 4-10. 経年比較 町政や町の行事の情報収集方法



- 年代別にみると、「広報みよし」は各年代で最も多く、16～19歳が6割台、20代から30代、80歳以上が8割台、40代から70代は9割台となっている。「回覧板や掲示板、自治会を通じて」は16～19歳、20代で少ないが30代以上で3割から4割程度となっている。「議会だより」では50代以上で3割程度となっている。「近所の人や家族・友人などから」は16～19歳で多くなっている。

図表 4-11. 年代別 町政や町の行事の情報収集方法

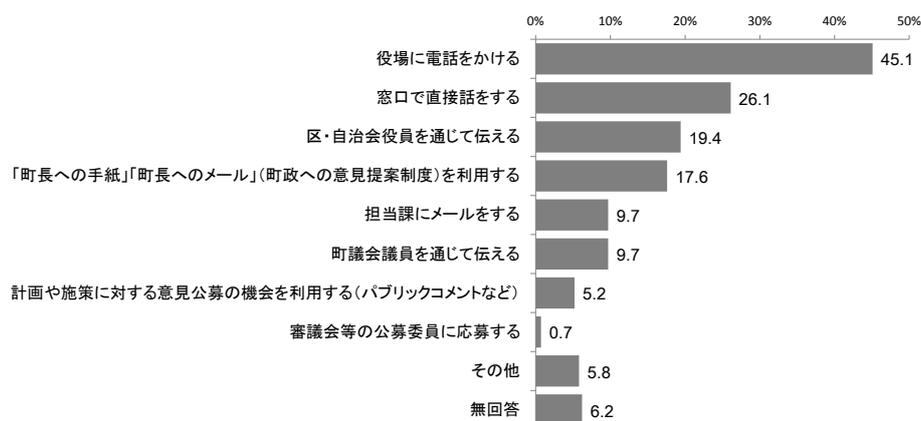


(6) 町政に意向を伝える方法

- 「役場に電話をかける」が45.1%で最も多い。

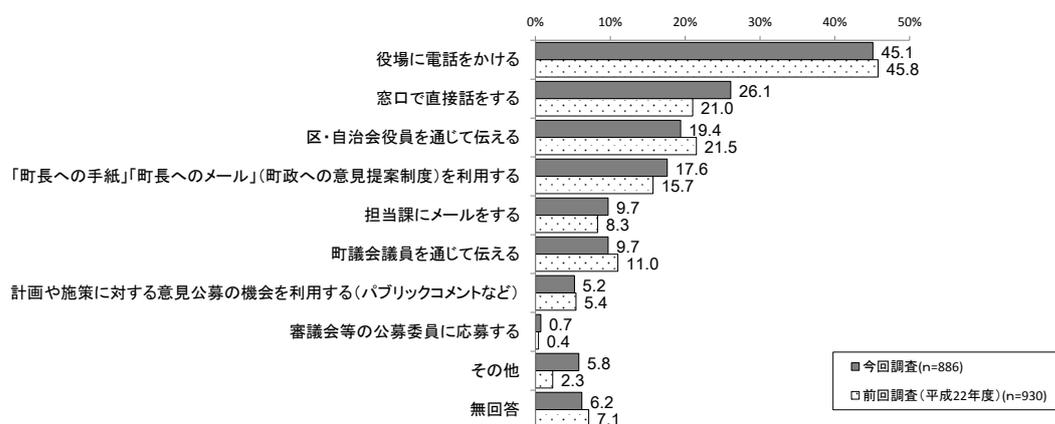
- ・ 町政に自分の意向を伝える方法としては、「役場に電話をかける」が45.1%で最も多く、以下、「窓口で直接話をする」(26.1%)、「区・自治会役員を通じて伝える」(19.4%)が続いている。

図表 4-12. 町政に意向を伝える方法 (n=886)



- ・ 前回調査(平成22年度)と比較すると、「窓口で直接話をする」(26.1%)が前回21.0%で第3位だったのが、第2位に浮上している。「区・自治会役員を通じて伝える」(19.4%)は、前回21.5%で第2位だったのが3位に低下している。

図表 4-13. 経年比較 町政に意向を伝える方法

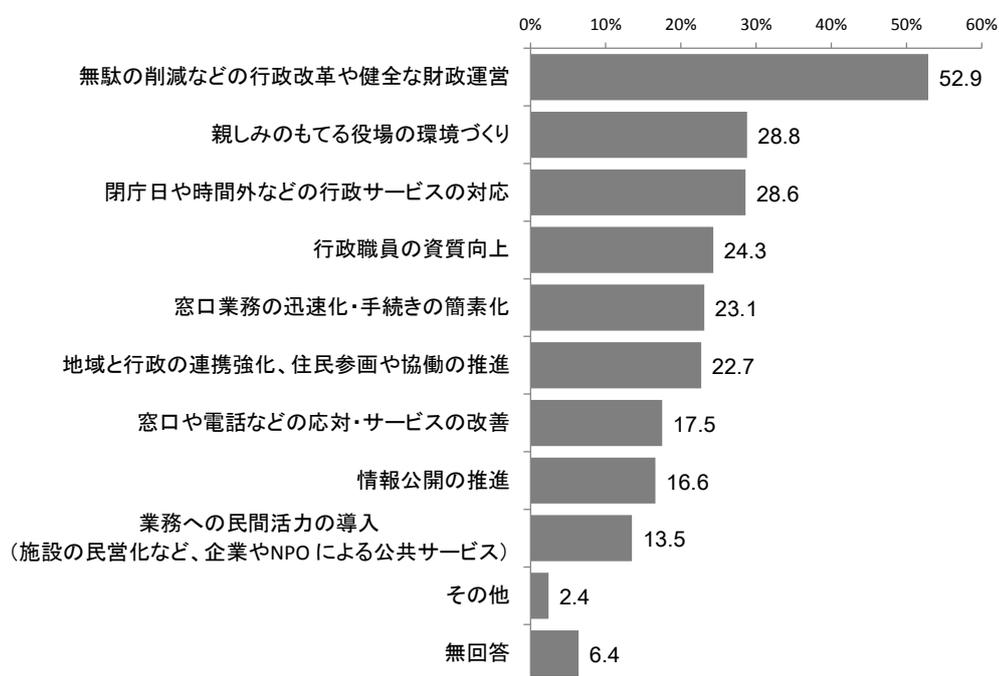


(7) 行政運営に対する要望

■ 「無駄の削減などの行政改革や健全な財政運営」が 52.9%で最も多い。

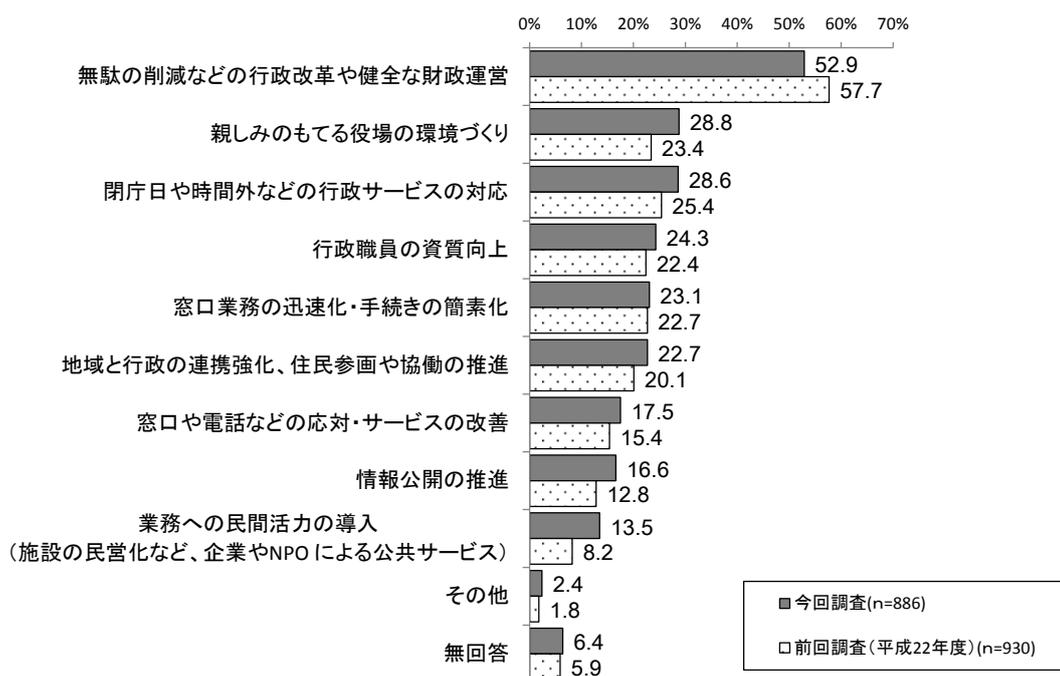
- ・ 三芳町の行政運営に対する要望は、「無駄の削減などの行政改革や健全な財政運営」が 52.9%で最も多く、以下、「親しみのもてる役場の環境づくり」(28.8%)、「閉庁日や時間外などの行政サービスの対応」(28.6%)、「行政職員の資質向上」(24.3%)、「窓口業務の迅速化・手続きの簡素化」(23.1%)、「地域と行政の連携強化、住民参画や協働の推進」(22.7%) が 2 割台で続いている。

図表 4-14. 町政運営に対する要望 (n=886)



- ・ 前回調査（平成 22 年度）と比較すると、「無駄の削減などの行政改革や健全な財政運営」は前回 57.7%から 6 ポイント低下しているものの第 1 位に変動はない。「親しみのもてる役場の環境づくり」（28.8%）は、前回 23.4%で第 3 位だったのが第 2 位に浮上している。
- ・ その他多くの項目で前回から増加している。

図表 4-15. 町政運営に対する要望



(8) 力を入れるべき施策

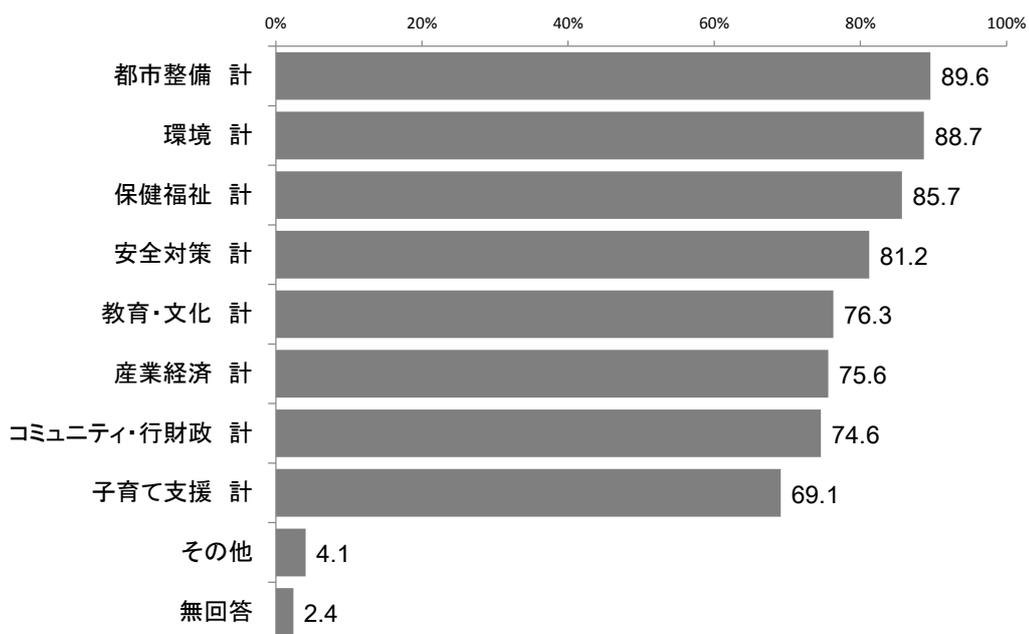
- 「都市整備」に関する施策への期待度が高い。

- ・ 下記のような 56 項目の施策の中から、三芳町を一層住みやすい町にするために今後力を入れるべきものを 20 項目以内で選んでもらった。

環 境	1.景観や街並みの整備、2.自然環境の保全、3.公園や緑地の整備、 4.ごみの減量化・リサイクルの推進、5.ごみ・し尿処理などの廃棄物対策、 6.大気・水質・騒音などの環境対策、7.再生可能エネルギーの普及促進
都市整備	8.土地区画整理など良好で安全な市街地形成、9.身近な生活道路の整備、 10.主要道路の整備、11.水の安定供給など上水道の整備、12.下水道の整備、 13.大雨のときの治水対策、14.バスなど公共交通網の整備
安全安心	15.消防や防火対策、16.避難所の整備や防災訓練などの防災対策、 17.防犯対策、18.歩道や信号機など交通安全対策、 19.放置自転車対策や駐輪場の確保
子育て支援	20.安心して妊娠・出産・育児ができる環境の整備、 21.保育施設や保育内容の充実、22.児童館、学童保育施設や制度の充実、 23.共働き世帯の子育て支援、24.ひとり親家庭や低所得者のための援助
保健福祉	25.高齢者や障がい者に対する地域での支えあい、 26.高齢者のための施設や制度の充実、 27.障がい者のための施設や制度の充実、 28.健康保険や年金制度の情報提供・相談、 29.介護サービスや相談体制の充実、30.日常の保健・医療サービスの充実、 31.救急医療体制の充実
産業経済	32.地元の農産物の流通など農業の振興、33.地場産業の育成など工業の振興、 34.商業・サービス業の振興、35.働く場所の確保や就労支援、 36.中小企業支援、37.観光施策・町の PR 戦略、38.企業誘致
教育・文化	39.生涯学習の促進や支援、40.小・中学校の施設や教育内容の充実、 41.子ども会活動や非行防止など青少年育成、 42.図書館・公民館・文化会館等文化施設の充実、 43.芸術・文化活動の促進や支援、 44.スポーツ・レクリエーション施設の整備や活動支援、 45.文化財の保護や活用
コミュニテ ィ・行財政	46.地域の祭り・イベント・各種行事の充実、 47.男女共同参画・国際交流・人権啓発、48.行政情報の公開や提供、 49.町政への住民参加・協働の推進、50.住民主体のまちづくり支援、 51.施設相互利用等周辺市町村との広域サービス、 52. 役場庁舎の施設やサービス、53.出張所の施設やサービス、 54. 町職員の応対やマナー、55.行財政改革（経費節減等）
その他	56.その他

- ・ 分野別の回答率を合計すると、「都市整備」に関する施策を回答した割合が 89.6%で最も多く、以下、「環境」(88.7%)、「保健福祉」(85.7%)、「安全対策」(81.2%)が8割台が多い。
- ・ 「子育て支援」(69.1%)は7割未満と最も少なくなっている。

図表 4-16. 力を入れるべき施策（各施策分野の合計での比較）(n=886)



- ・ 全 56 施策のうち、力を入れるべき上位 10 施策をみると、「バスなど公共交通網の整備」(49.4%) が最も多く、以下、「公園や緑地の整備」(43.2%)、「身近な生活道路の整備」(39.2%)、「高齢者のための施設や制度の充実」(38.4%)、「歩道や信号機など交通安全対策」(35.2%) となっている。
- ・ 一方で下位 10 施策をみると、「男女共同参画・国際交流・人権啓発」(5.1%) が最も少なく、以下、「町政への住民参加・協働の推進」(6.9%)、「下水道の整備」(7.0%)、「水の安定供給など上水道の整備」(7.0%)、「文化財の保護や活用」(7.3%)、「住民主体のまちづくり支援」(9.0%)、「地場産業の育成など工業の振興」(9.9%) が 1 割未満となっている。

図表 4-17. 力を入れるべき施策（上位 10 項目と割合）(n=886)

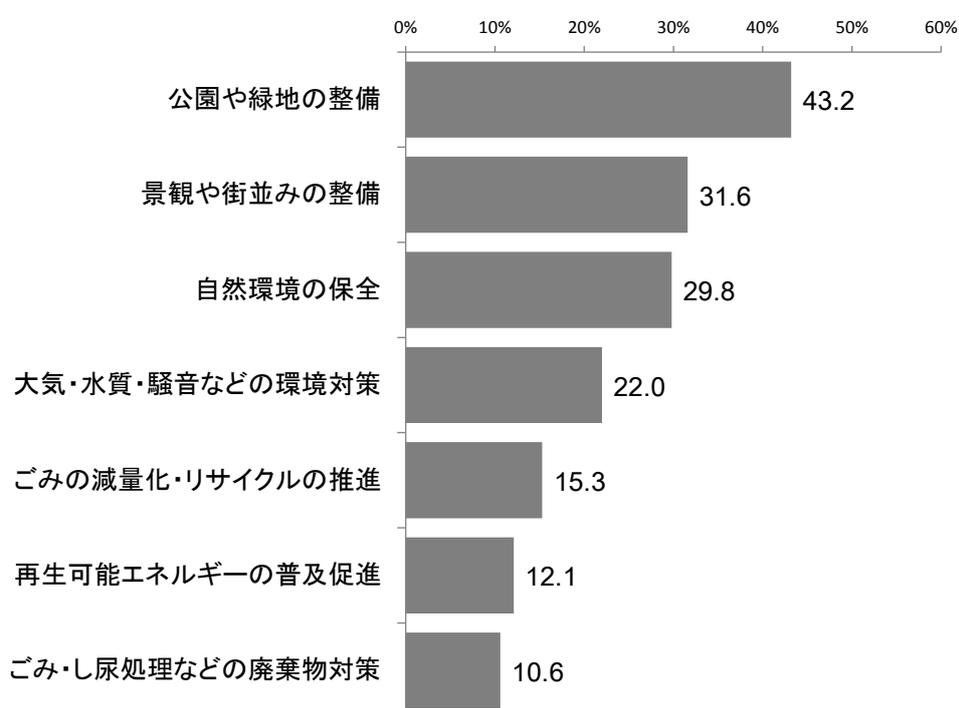
順位	上位 10 施策	下位 10 施策
1 位	バスなど公共交通網の整備 (49.4%)	男女共同参画・国際交流・人権啓発 (5.1%)
2 位	公園や緑地の整備 (43.2%)	町政への住民参加・協働の推進 (6.9%)
3 位	身近な生活道路の整備 (39.2%)	下水道の整備 (7.0%)
4 位	高齢者のための施設や制度の充実 (38.4%)	水の安定供給など上水道の整備 (7.0%)
5 位	歩道や信号機など交通安全対策 (35.2%)	文化財の保護や活用 (7.3%)
6 位	安心して妊娠・出産・育児ができる環境の整備 (32.7%)	住民主体のまちづくり支援 (9.0%)
7 位	防犯対策 (32.4%)	地場産業の育成など工業の振興 (9.9%)
8 位	働く場所の確保や就労支援 (32.2%)	中小企業支援 (10.3%)
9 位	景観や街並みの整備 (31.6%)	ごみ・し尿処理などの廃棄物対策 (10.6%)
10 位	救急医療体制の充実 (31.3%)	商業・サービス業の振興 (11.4%)

「環境」

■ 環境分野のうち「公園や緑地の整備」が43.2%で最も力を入れる施策となっている。

- ・ 三芳町が今後力を入れるべき環境分野の施策は、「公園や緑地の整備」が43.2%で最も多く、以下、「景観や街並みの整備」(31.6%)、「自然環境の保全」(29.8%)、「大気・水質・騒音などの環境対策」(22.0%)と続いている。
- ・ 環境分野に力を入れるべきと回答した人は全体の9割弱となっている。

図表4-18. 「環境」の力を入れるべき施策 (n=886)



- ・ 居住地区別にみると、「公園や緑地の整備」は竹間沢地区を除くすべての居住地区で第1位となっている。
- ・ 「景観や街並み」「自然環境の保全」はいずれの居住地区でも上位を占めている。
- ・ 竹間沢地区では、「大気・水質・騒音などの環境対策」が第1位となっている。

図表 4-19. 居住地区別 「環境」の力を入れるべき施策（上位5位）

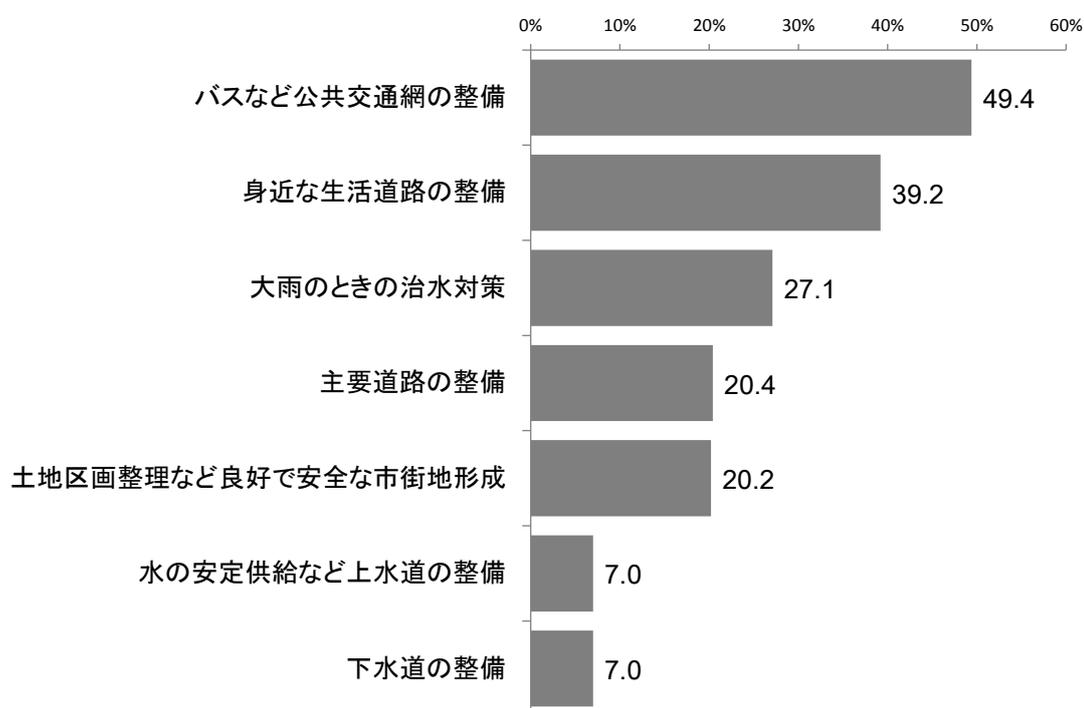
	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 (n=886)	公園や緑地の整備 43.2%	景観や街並み 31.6%	自然環境の保全 29.8%	大気・水質・騒音などの環境対策 22.0%	ごみの減量化・リサイクルの推進 15.3%
上富地区 (n=74)	公園や緑地の整備 35.1%	景観や街並み 32.4%	自然環境の保全 31.1%	ごみ・し尿処理などの廃棄物対策 18.9%	再生可能エネルギーの普及促進 18.9%
北永井地区 (n=166)	公園や緑地の整備 42.2%	自然環境の保全 31.9%	景観や街並み 29.5%	大気・水質・騒音などの環境対策 17.5%	ごみ・し尿処理などの廃棄物対策 11.4%
藤久保地区 (n=486)	公園や緑地の整備 48.8%	景観や街並み 32.9%	自然環境の保全 30.2%	大気・水質・騒音などの環境対策 22.2%	ごみの減量化・リサイクルの推進 17.1%
竹間沢地区 (n=87)	大気・水質・騒音などの環境対策 35.6%	公園や緑地の整備 28.7%	景観や街並み 27.6%	自然環境の保全 20.7%	ごみの減量化・リサイクルの推進 17.2%
みよし台地区 (n=62)	公園や緑地の整備 38.7%	景観や街並み 37.1%	自然環境の保全 37.1%	大気・水質・騒音などの環境対策 25.8%	再生可能エネルギーの普及促進 22.6%

「都市整備」

■ 「バスなど公共交通網の整備」が49.4%で最も多い。

- ・ 今後力を入れるべき都市整備分野の施策は、「バスなど公共交通網の整備」(49.4%)が最も多く、以下、「身近な生活道路の整備」(39.2%)、「大雨のときの治水対策」(27.1%)、「主要道路の整備」(20.4%)、「土地区画整理など良好で安全な市街地形成」(20.2%)となっている。

図表 4-20. 「都市整備」の力を入れるべき施策 (n=886)



- ・ 居住地区別でみると、「バスなど公共交通網の整備」は、いずれの居住地区でも第1位となっている。
- ・ 上富地区では、「下水道の整備」が第3位となっている。

図表 4-21. 居住地区別 「都市整備」の力を入れるべき施策

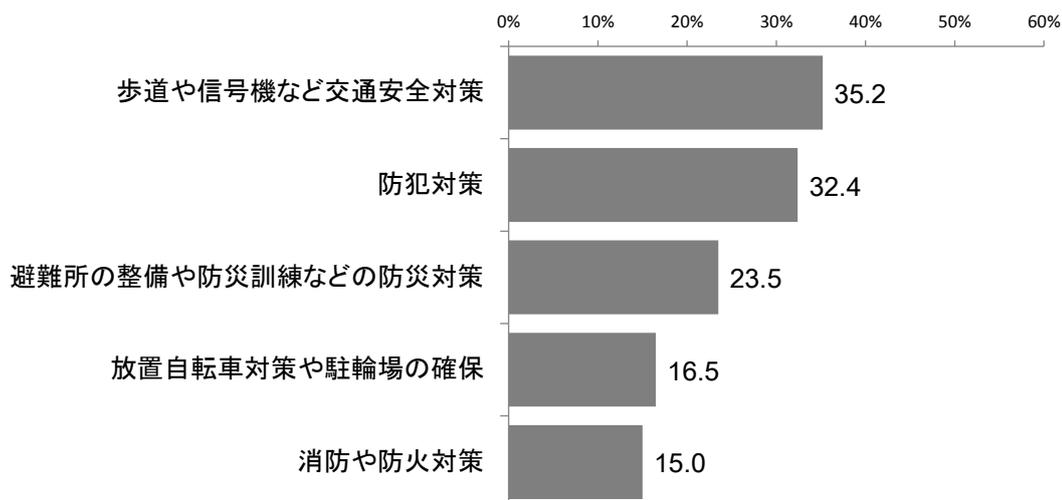
	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 (n=886)	バスなど公共交通網の整備 49.4%	身近な生活道路の整備 39.2%	大雨のときの治水対策 27.1%	主要道路の整備 20.4%	土地区画整理など良好で安全な市街地形成 20.2%
上富地区 (n=74)	バスなど公共交通網の整備 51.4%	身近な生活道路の整備 31.1%	下水道の整備 31.1%	大雨のときの治水対策 28.4%	主要道路の整備 23.0%
北永井地区 (n=166)	バスなど公共交通網の整備 58.4%	身近な生活道路の整備 38.0%	大雨のときの治水対策 30.1%	主要道路の整備 19.3%	土地区画整理など良好で安全な市街地形成 15.1%
藤久保地区 (n=486)	バスなど公共交通網の整備 46.3%	身近な生活道路の整備 42.4%	大雨のときの治水対策 25.9%	土地区画整理など良好で安全な市街地形成 23.3%	主要道路の整備 21.4%
竹間沢地区 (n=87)	バスなど公共交通網の整備 51.7%	身近な生活道路の整備 41.4%	大雨のときの治水対策 23.0%	主要道路の整備 17.2%	土地区画整理など良好で安全な市街地形成 16.1%
みよし台地区 (n=62)	バスなど公共交通網の整備 53.2%	大雨のときの治水対策 33.9%	身近な生活道路の整備 30.6%	土地区画整理など良好で安全な市街地形成 24.4%	主要道路の整備 21.0%

「安全対策」

■ 「歩道や信号機など交通安全対策」が35.2%で最も多い。

- ・ 今後力を入れるべき安全対策分野の施策は、「歩道や信号機など交通安全対策」(35.2%)、「防犯対策」(32.4%)の2項目が3割と多くなっている。

図表 4-22. 「安全対策」の力を入れるべき施策 (n=886)



- ・ 居住地区別でみると、「歩道や信号機など交通安全対策」は北永井地区、藤久保地区、竹間沢地区で第1位となっており、みよし台地区では第3位となっている。
- ・ 「避難場所の整備や防災訓練などの防災対策」はみよし台で第2位となっている。

図表 4-23. 居住地区別 「安全対策」の力を入れるべき施策

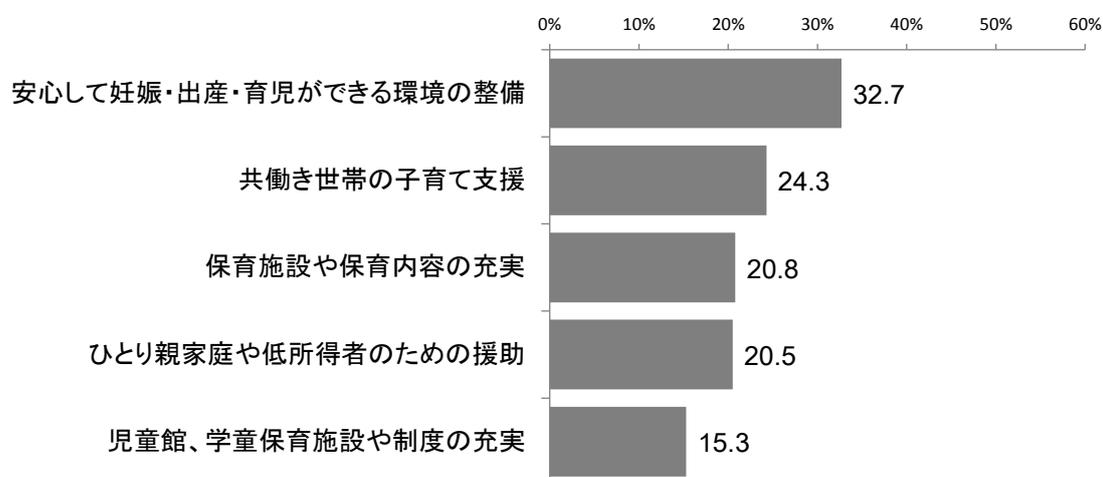
	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 (n=886)	歩道や信号機など交通安全対策 35.2%	防犯対策 32.4%	避難所の整備や防災訓練などの防災対策 23.5%	放置自転車対策や駐輪場の確保 16.5%	消防や防火対策 15.0%
上富地区 (n=74)	防犯対策 44.5%	歩道や信号機など交通安全対策 35.1%	避難所の整備や防災訓練などの防災対策 18.9%	消防や防火対策 12.2%	放置自転車対策や駐輪場の確保 8.1%
北永井地区 (n=166)	歩道や信号機など交通安全対策 36.7%	防犯対策 29.5%	避難所の整備や防災訓練などの防災対策 21.7%	放置自転車対策や駐輪場の確保 15.1%	消防や防火対策 12.0%
藤久保地区 (n=486)	歩道や信号機など交通安全対策 36.8%	防犯対策 31.9%	避難所の整備や防災訓練などの防災対策 25.3%	消防や防火対策 16.7%	放置自転車対策や駐輪場の確保 15.2%
竹間沢地区 (n=87)	歩道や信号機など交通安全対策 33.3%	防犯対策 32.0%	放置自転車対策や駐輪場の確保 25.3%	避難所の整備や防災訓練などの防災対策 16.1%	消防や防火対策 11.5%
みよし台地区 (n=62)	防犯対策 37.1%	避難所の整備や防災訓練などの防災対策 33.9%	歩道や信号機など交通安全対策 27.4%	放置自転車対策や駐輪場の確保 27.4%	消防や防火対策 21.0%

「子育て支援」

■ 「安心して妊娠・出産・育児ができる環境の整備」が32.7%で最も多い。

- ・ 今後力を入れるべき子育て支援分野の施策は、「安心して妊娠・出産・育児ができる環境の整備」が32.7%で最も多く、以下、「共働き世帯の子育て支援」(24.3%)、「保育施設や保育内容の充実」(20.8%)、「ひとり親家庭や低所得者のための援助」(20.5%)となっている。
- ・ 「子育て支援」全体に対する回答割合は、他の施策と比べて69.1%と少ない。

図表 4-24. 「子育て支援」の力を入れるべき施策 (n=886)



- ・ 居住地区別にみると、「安心して妊娠・出産・育児ができる環境の整備」はいずれの居住地区でも第1位となっている。
- ・ 「ひとり親家庭や低所得者のための援助」は北永井地区では第3位と比較的高い。

図表4-25. 居住地区別 「子育て支援」の力を入れるべき施策

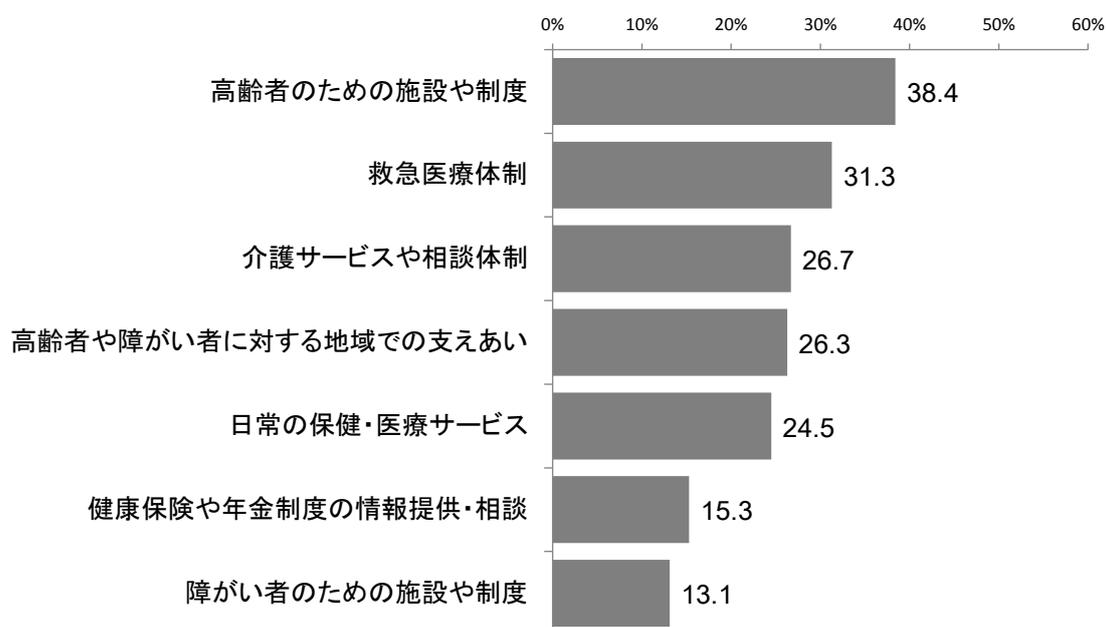
	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 (n=886)	安心して妊娠・出産・育児ができる環境の整備 32.7%	共働き世帯の子育て支援 24.3%	保育施設や保育内容の充実 20.8%	ひとり親家庭や低所得者のための援助 20.5%	児童館、学童保育施設や制度の充実 15.3%
上富地区 (n=74)	安心して妊娠・出産・育児ができる環境の整備 33.8%	共働き世帯の子育て支援 29.7%	保育施設や保育内容の充実 21.6%	ひとり親家庭や低所得者のための援助 17.6%	児童館、学童保育施設や制度の充実 16.2%
北永井地区 (n=166)	安心して妊娠・出産・育児ができる環境の整備 31.9%	ひとり親家庭や低所得者のための援助 23.5%	保育施設や保育内容の充実 22.3%	共働き世帯の子育て支援 22.3%	児童館、学童保育施設や制度の充実 17.5%
藤久保地区 (n=486)	安心して妊娠・出産・育児ができる環境の整備 31.9%	共働き世帯の子育て支援 23.7%	保育施設や保育内容の充実 21.4%	ひとり親家庭や低所得者のための援助 20.4%	児童館、学童保育施設や制度の充実 14.4%
竹間沢地区 (n=87)	安心して妊娠・出産・育児ができる環境の整備 36.8%	共働き世帯の子育て支援 28.7%	児童館、学童保育施設や制度の充実 18.4%	ひとり親家庭や低所得者のための援助 18.4%	保育施設や保育内容の充実 17.2%
みよし台地区 (n=62)	安心して妊娠・出産・育児ができる環境の整備 40.3%	共働き世帯の子育て支援 25.8%	ひとり親家庭や低所得者のための援助 21.0%	保育施設や保育内容の充実 19.4%	児童館、学童保育施設や制度の充実 14.5%

「保健福祉」

- 「高齢者のための施設や制度」が38.4%で最も多い。

- ・ 今後力を入れるべき保健福祉分野の施策は、「高齢者のための施設や制度」が38.4%で最も多く、以下、「救急医療体制」(31.3%)、「介護サービスや相談体制」(26.7%)、「高齢者や障がい者に対する地域での支えあい」(26.3%)、「日常の保健・医療サービス」(24.5%)となっている。

図表 4-26. 「保健福祉」の力を入れるべき施策 (n=886)



- ・ 居住地区別でみると、「高齢者のための施設や制度」はいずれの居住地区でも第1位となっている。
- ・ 「高齢者や障がい者に対する地域での支えあい」は竹間沢地区で第2位となっている。

図表 4-27. 居住地区別 「保健福祉」の力を入れるべき施策

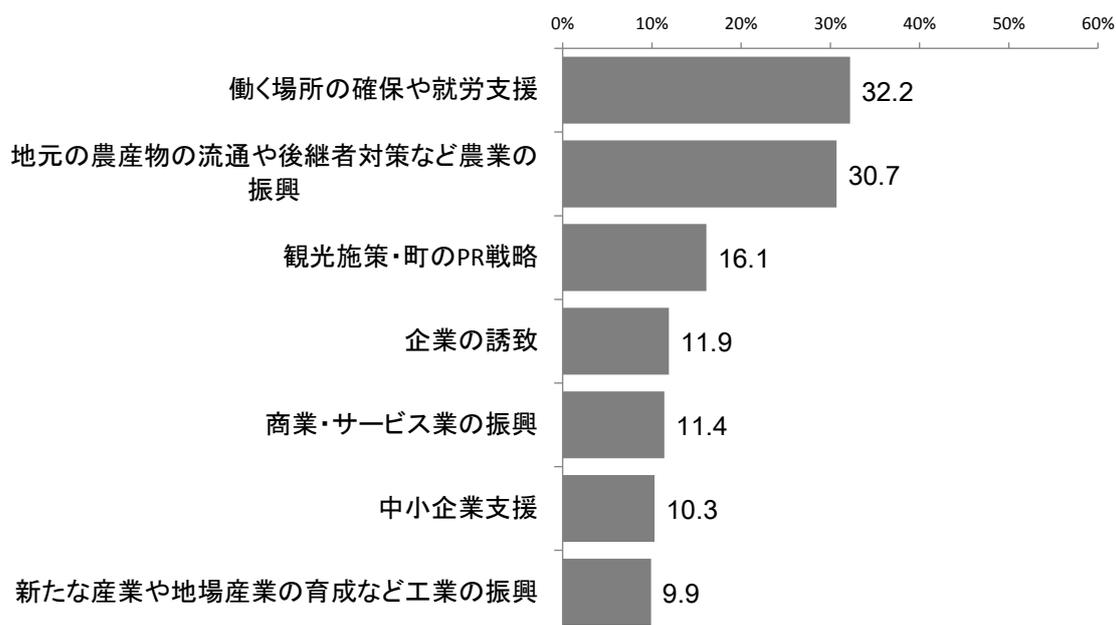
	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 (n=886)	高齢者のための施設や制度 38.4%	救急医療体制 31.3%	介護サービスや相談体制 26.7%	高齢者や障がい者に対する地域での支えあい 26.3%	日常の保健・医療サービス 24.5%
上富地区 (n=74)	高齢者のための施設や制度 39.2%	介護サービスや相談体制 31.1%	日常の保健・医療サービス 24.3%	高齢者や障がい者に対する地域での支えあい 23.0%	救急医療体制 23.0%
北永井地区 (n=166)	高齢者のための施設や制度 38.6%	救急医療体制 36.1%	日常の保健・医療サービス 28.9%	高齢者や障がい者に対する地域での支えあい 24.7%	介護サービスや相談体制 22.9%
藤久保地区 (n=486)	高齢者のための施設や制度 37.9%	救急医療体制 30.7%	介護サービスや相談体制 27.6%	高齢者や障がい者に対する地域での支えあい 27.4%	日常の保健・医療サービス 23.0%
竹間沢地区 (n=87)	高齢者のための施設や制度 37.9%	高齢者や障がい者に対する地域での支えあい 31.0%	救急医療体制 29.9%	日常の保健・医療サービス 27.6%	介護サービスや相談体制 23.0%
みよし台地区 (n=62)	高齢者のための施設や制度 46.8%	救急医療体制 40.3%	介護サービスや相談体制 35.5%	高齢者や障がい者に対する地域での支えあい 24.2%	日常の保健・医療サービス 24.2%

「産業経済」

■ 「働く場所の確保や就労支援」が32.2%で最も多い。

- ・ 今後力を入れるべき産業経済分野の施策は、「働く場所の確保や就労支援」(32.2%)と「地元の農産物の流通や後継者対策など農業の振興」(30.7%)が3割台で多くなっている。

図表 4-28. 「産業経済」の力を入れるべき施策 (n=886)



- ・ 居住地区別にみると、「働く場所の確保や就労支援」と「地元の農産物の流通や後継者対策など農業の振興」がいずれの居住地区でも第1位と第2位となっている。
- ・ 「新たな産業や地場産業の育成など工業の振興」はみよし台地区で第3位となっている。

図表 4-29. 居住地区別 「産業経済」の力を入れるべき施策

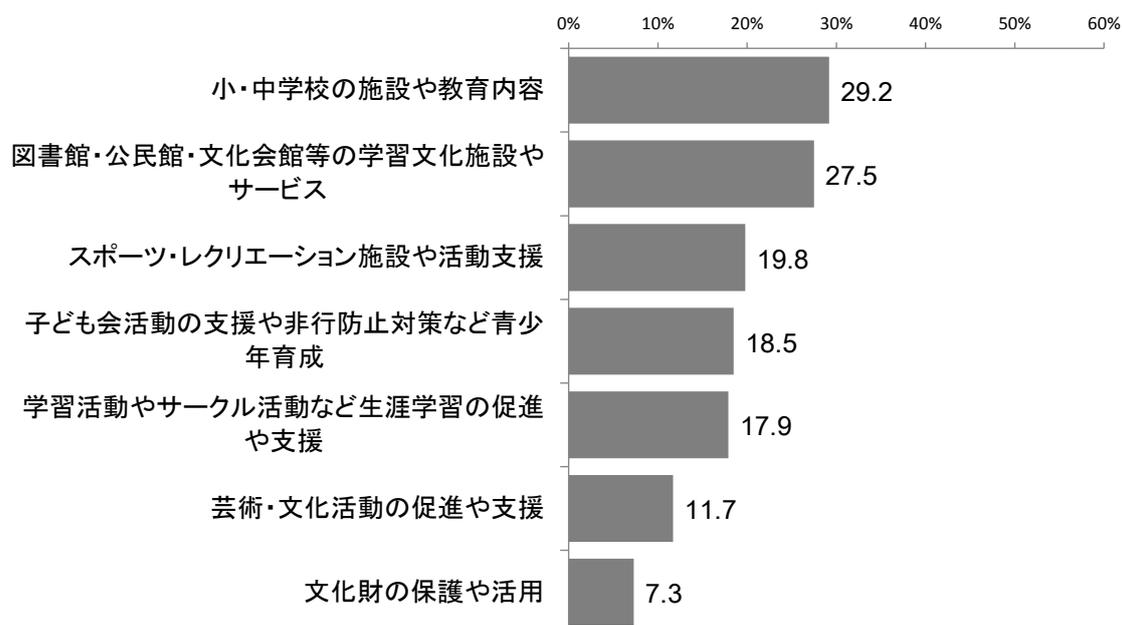
	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 (n=886)	働く場所の確保や就労支援 32.2%	地元の農産物の流通や後継者対策など農業の振興 30.7%	観光施策・町のPR戦略 16.1%	企業の誘致 11.9%	商業・サービス行の振興 11.4%
上富地区 (n=74)	地元の農産物の流通や後継者対策など農業の振興 35.1%	働く場所の確保や就労支援 33.8%	商業・サービス行の振興 16.2%	観光施策・町のPR戦略 16.2%	企業の誘致 13.5%
北永井地区 (n=166)	地元の農産物の流通や後継者対策など農業の振興 33.7%	働く場所の確保や就労支援 31.3%	観光施策・町のPR戦略 17.5%	中小企業支援 13.3%	企業の誘致 12.7%
藤久保地区 (n=486)	働く場所の確保や就労支援 34.4%	地元の農産物の流通や後継者対策など農業の振興 29.2%	観光施策・町のPR戦略 16.7%	企業の誘致 11.1%	商業・サービス行の振興 10.7%
竹間沢地区 (n=87)	地元の農産物の流通や後継者対策など農業の振興 31.0%	働く場所の確保や就労支援 25.3%	観光施策・町のPR戦略 14.9%	企業の誘致 14.9%	商業・サービス行の振興 中小企業支援 10.3%
みよし台地区 (n=62)	地元の農産物の流通や後継者対策など農業の振興 33.9%	働く場所の確保や就労支援 30.6%	新たな産業や地場産業の育成など工業の振興 14.5%	商業・サービス行の振興 14.5%	観光施策・町のPR戦略 12.9%

「教育・文化」

■ 「小・中学校の施設や教育内容」が29.2%で最も多い。

- ・ 今後力を入れるべき教育・文化分野の施策は、「小・中学校の施設や教育内容」(29.2%)と「図書館・公民館・文化会館等の学習文化施設やサービス」が2割台と多くなっている。

図表 4-30. 「教育・文化」の力を入れるべき施策 (n=886)



- ・ 居住地区別にみると、「小・中学校の施設や教育内容」と「図書館・公民館・文化会館等の学習文化施設やサービス」はいずれの居住地区でも第1位、第2位となっている。
- ・ 「子ども会活動の支援や非行防止対策など青少年育成」は竹間沢地区で第3位と高い。

図表4-31. 居住地区別 「教育・文化」の力を入れるべき施策

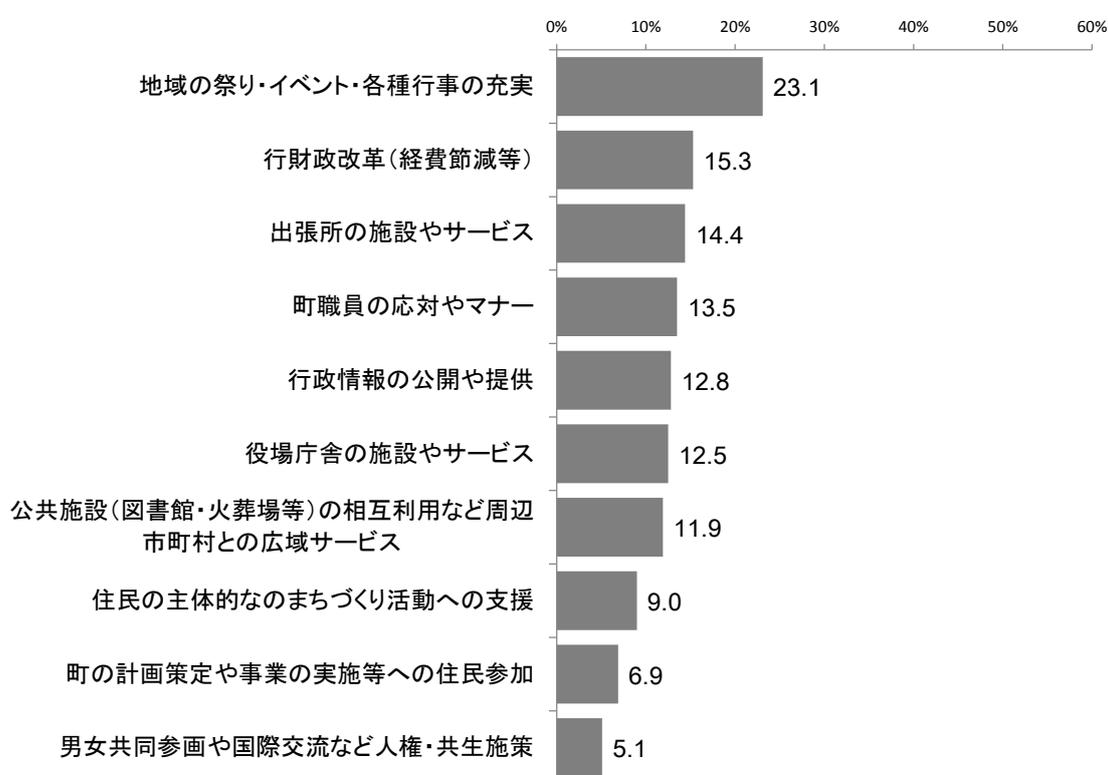
	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 (n=886)	小・中学校の施設や教育内容 29.2%	図書館・公民館・文化会館等の学習文化施設やサービス 27.5%	スポーツ・レクリエーション施設や活動支援 19.8%	子ども会活動の支援や非行防止対策など青少年育成 18.5%	学習活動やサークル活動など障害学習の促進や支援 17.9%
上富地区 (n=74)	小・中学校の施設や教育内容 29.7%	図書館・公民館・文化会館等の学習文化施設やサービス 23.0%	学習活動やサークル活動など障害学習の促進や支援 20.3%	スポーツ・レクリエーション施設や活動支援 20.3%	子ども会活動の支援や非行防止対策など青少年育成 18.9%
北永井地区 (n=166)	小・中学校の施設や教育内容 33.1%	図書館・公民館・文化会館等の学習文化施設やサービス 28.3%	スポーツ・レクリエーション施設や活動支援 19.9%	学習活動やサークル活動など障害学習の促進や支援 16.3%	子ども会活動の支援や非行防止対策など青少年育成 16.3%
藤久保地区 (n=486)	図書館・公民館・文化会館等の学習文化施設やサービス 28.0%	小・中学校の施設や教育内容 27.6%	学習活動やサークル活動など障害学習の促進や支援 19.5%	子ども会活動の支援や非行防止対策など青少年育成 19.5%	スポーツ・レクリエーション施設や活動支援 19.3%
竹間沢地区 (n=87)	小・中学校の施設や教育内容 34.5%	図書館・公民館・文化会館等の学習文化施設やサービス 28.7%	子ども会活動の支援や非行防止対策など青少年育成 20.7%	スポーツ・レクリエーション施設や活動支援 20.7%	学習活動やサークル活動など障害学習の促進や支援 11.5%
みよし台地区 (n=62)	小・中学校の施設や教育内容 29.0%	図書館・公民館・文化会館等の学習文化施設やサービス 29.0%	スポーツ・レクリエーション施設や活動支援 24.2%	学習活動やサークル活動など障害学習の促進や支援 19.4%	子ども会活動の支援や非行防止対策など青少年育成 16.1%

「コミュニティ・行財政」

■ 「地域の祭り・イベント・各種行事の充実」が23.1%で最も多い。

- ・ 今後力を入れるべきコミュニティ・行財政分野の施策は、「地域の祭り・イベント・各種行事の充実」が23.1%で最も多くなっている。
- ・ 今回調査から追加された項目のうち、「出張所の施設やサービス」(14.4%)は第3位と比較的多くなっている。

図表4-32. 「コミュニティ・行財政」の力を入れるべき施策 (n=886)



- ・ 居住地区別でみると、「地域の祭り・イベント・各種行事の充実」はいずれの居住地区でも第1位となっている。
- ・ 「行財政改革（経費節減等）」は、上富地区、北永井地区では低くなっている。

図表 4-33. 居住地区別 「コミュニティ・行財政」の力を入れるべき施策

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 (n=886)	地域の祭り・イベント・各種行事の充実 23.1%	行財政改革（経費節減等） 15.3%	出張所の施設やサービス 14.4%	町職員の対応やマナー 13.5%	行政情報の公開や提供 12.8%
上富地区 (n=74)	地域の祭り・イベント・各種行事の充実 24.3%	行政情報の公開や提供 14.9%	町職員の対応やマナー 13.5%	行財政改革（経費節減等） 12.2%	・住民の主体的なまちづくり活動への支援 ・公共施設（図書館・火葬場等）の相互利用など周辺市町との広域サービス ・出張所の施設やサービス 10.8%
北永井地区 (n=166)	地域の祭り・イベント・各種行事の充実 22.3%	行政情報の公開や提供 15.1%	役場庁舎の施設やサービス 15.1%	公共施設（図書館・火葬場等）の相互利用など周辺市町との広域サービス 13.3%	・住民の主体的なまちづくり活動への支援 ・町職員の対応やマナー ・行財政改革（経費節減等） 町職員の対応やマナー 12.7%
藤久保地区 (n=486)	地域の祭り・イベント・各種行事の充実 22.2%	行財政改革（経費節減等） 16.0%	出張所の施設やサービス 15.6%	町職員の対応やマナー 13.2%	・行政情報の公開や提供 ・役場庁舎の施設やサービス 13.0%
竹間沢地区 (n=87)	地域の祭り・イベント・各種行事の充実 29.9%	行財政改革（経費節減等） 19.5%	町職員の対応やマナー 17.2%	出張所の施設やサービス 16.1%	男女共同参画や国際交流などの人権・共生施策 12.6%
みよし台地区 (n=62)	地域の祭り・イベント・各種行事の充実 24.2%	出張所の施設やサービス 19.4%	行財政改革（経費節減等） 17.7%	町職員の対応やマナー 16.1%	・公共施設（図書館・火葬場等）の相互利用など周辺市町との広域サービス ・役場庁舎の施設やサービス 14.5%

- ・ 問 14 の各施策に対する満足度の平均評価点（満足度）と問 19 の今後力を入れるべき施策（期待度）の関係をみると、「バスなど公共交通網の整備」が突出して満足度が低く期待度が高い。
- ・ また、「身近な生活道路の整備」、「働く場所の確保や就労支援」、「公園や緑地の整備」、「歩道や信号機など交通安全対策」が満足度が低く、期待度が高い項目となっている。

図表 4-34. 各分野の施策に対する満足度と力を入れるべき施策の関係



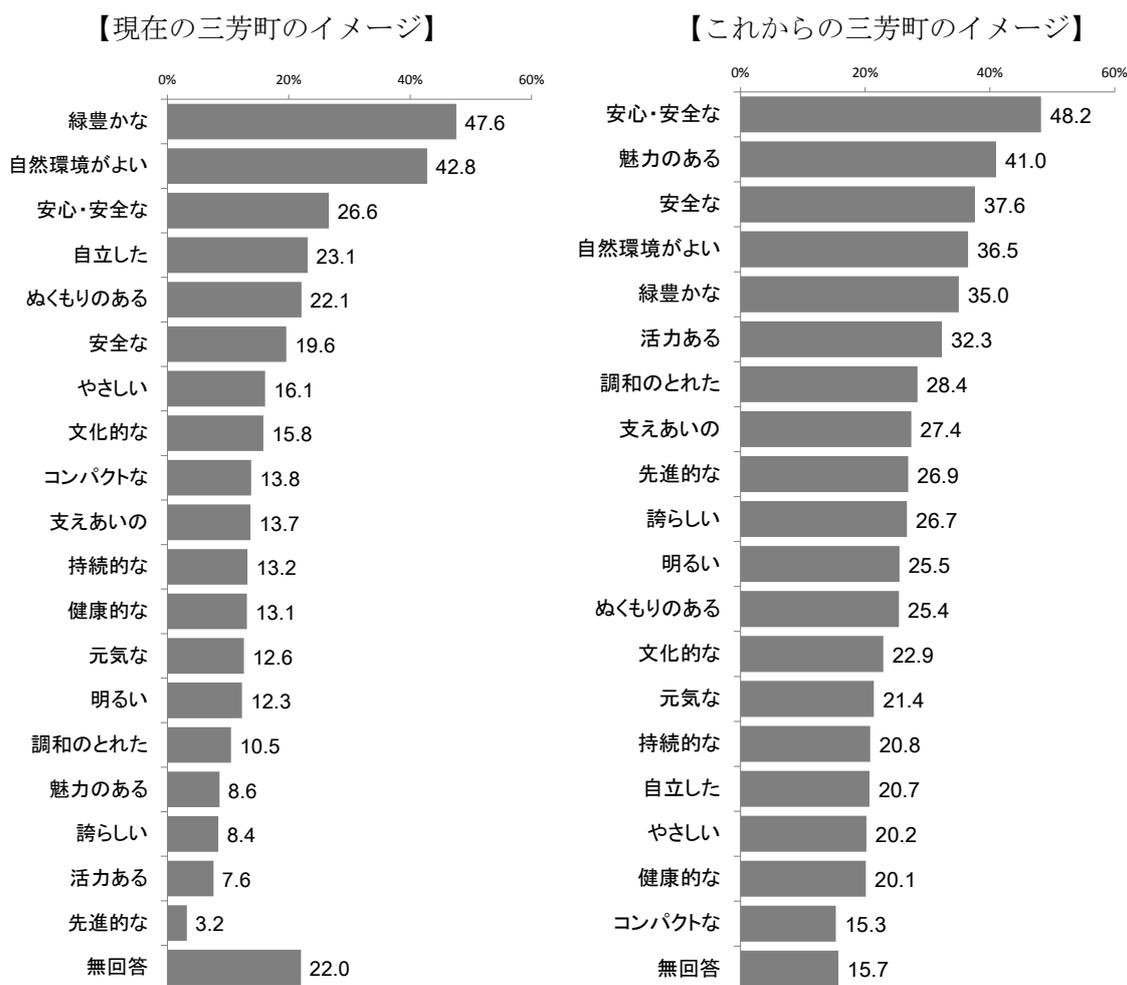
5. 町の将来イメージ

(1) 現在の三芳町のイメージとこれからの三芳町のイメージ

- 現在の三芳町のイメージでは、「緑豊かな」(47.6%)と「自然環境がよい」(42.8%)が4割台と多くなっている。
- これからの三芳町のイメージでは、「安心・安全な」(48.2%)と「魅力のある」(41.0%)が4割台と多くなっている。

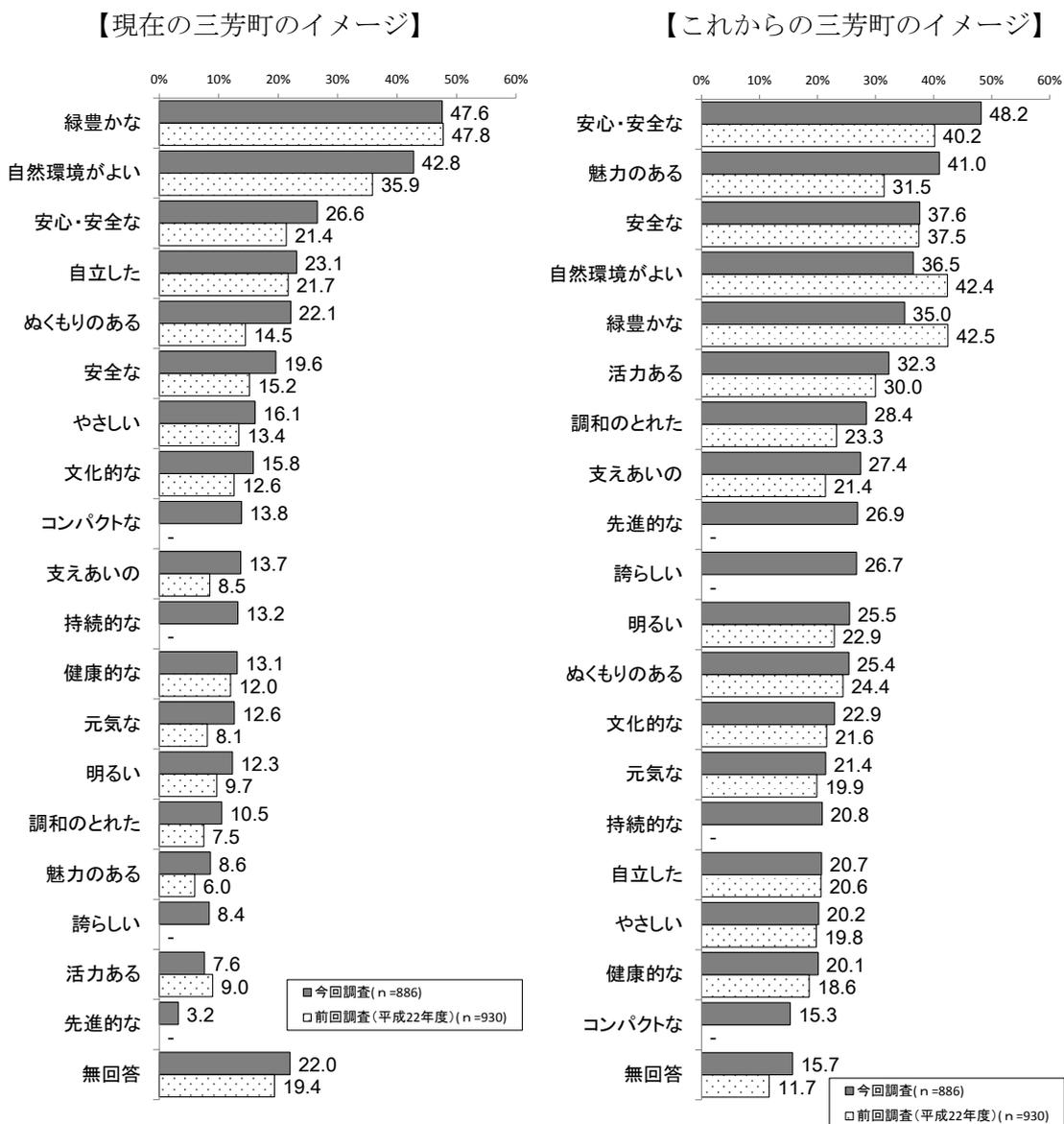
- ・ 現在の三芳町のイメージは、「緑豊かな」が47.6%で最も多く、「自然環境がよい」が42.8%で続いている。
- ・ これからの三芳町のイメージは、「安心・安全な」が48.2%で最も多く、「魅力のある」が41.0%、「安全な」が37.6%、「自然環境がよい」が36.5%、「緑豊かな」が35.0%、「活力ある」が32.3%と続いている。

図表 5-1. 現在の三芳町のイメージとこれからの三芳町のイメージ (n=886)



- ・ 前回調査（平成 22 年度）と比較すると、現在の三芳町のイメージについては、順位に大きな変動はなく、「自然環境がよい」（42.8%）が前回 35.9%から 7 ポイント増加している。
- ・ これからの三芳町のイメージについては、「安心・安全な」（48.2%）と「魅力のある」（41.0%）が前回から大きく上昇している。一方で、「自然環境がよい」、「緑豊かな」は大きく減少している。

図表 5-2. 経年比較 現在の三芳町のイメージとこれからの三芳町のイメージ



(2) 三芳町の理想の将来像

- 「自然環境に恵まれているまち」(61件)と「交通機関が充実したまち」(60件)が多くあげられている。

- ・ 三芳町の理想の将来像を自由回答で尋ねた。「自然環境に恵まれているまち」(61件)と「交通機関が充実したまち」(60件)に関する記述が多くあげられている。
- ・ 以下、「公共施設・商業施設・病院等が充実したまち」(48件)、「みんなにやさしいまち」(33件)、「子どもにやさしいまち・安心して子育てができるまち」(33件)となっている。

図表 5-3. 三芳町の理想の将来像 (n=886) (5件以上の回答を抽出掲載)

回答	件数
○自然環境に恵まれているまち	61
○交通機関が充実したまち	60
○公共施設・商業施設・病院等が充実したまち	48
公園の整備	18
商業施設の充実	7
医療施設の整備	6
スポーツ・文化施設の整備	5
○みんなにやさしいまち	33
○子どもにやさしいまち・安心して子育てができるまち	33
子育てがしやすいまち	13
子どもにやさしいまち	4
若い世代が住みやすいまち	4
子どもが安心できる遊び場があるまち	2
○安心・安全なまち	31
○高齢者にやさしいまち	26
○人とのつながりがあるまち	18
○自慢ができるまち	18
○農業と共に生きるまち	12
○産業が充実しているまち	10
○このままでよい	10
○市になってほしい・市町村合併	9
○防犯面で安心できるまち	8
○生涯住みたい・戻ってきたいまち	8
○行政サービスが充実したまち	7
○教育が充実しているまち	5
○文化・歴史のあるまち	5
○イメージ・第一印象の向上	5

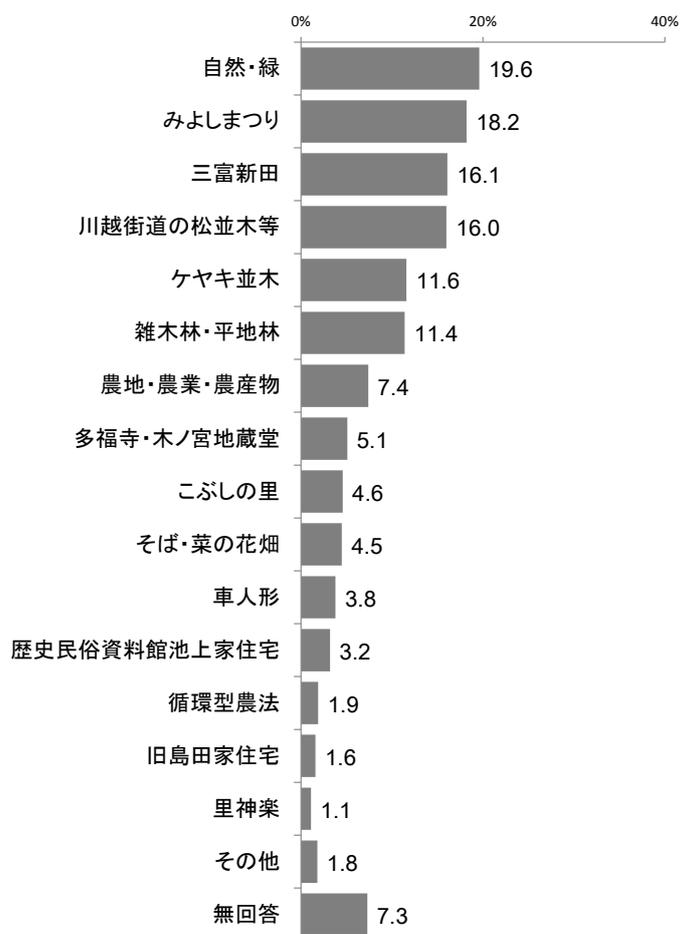
(3) 三芳町の誇りや宝・シンボルなど

「三芳町の誇りや宝」

■ 「自然・緑」が19.6%で最も多くなっている。

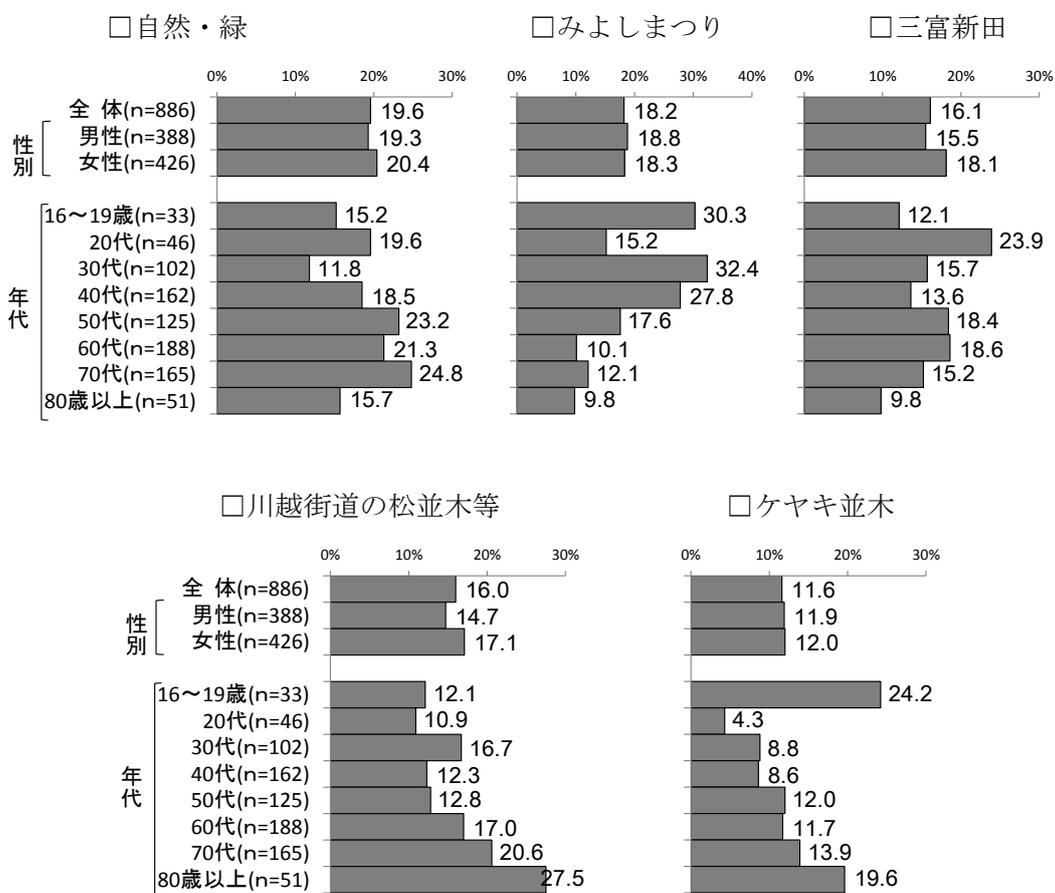
- ・ 三芳町の誇りや宝は、「自然・緑」が19.6%で最も多く、「みよしまつり」が18.2%、「三富新田」が16.1%、「川越街道の松並木等」が16.0%と続いている。

図表 5-4. 三芳町の誇りや宝 (n=886)



- ・ 性別でみると、上位 5 項目についてあまり大きな差はみられない。
- ・ 年代別でみると、16～19 歳では「ケヤキ並木」が他の年代と比べて非常に多い。また、20 代で最も少ないが、年代が高くなるにつれ多くなっている。
- ・ 20 代では「三富新田」が最も多く、80 歳以上で最も少ない。
- ・ 30 代、40 代で多くのは「みよしまつり」で、50 代以上年代が高い人は「自然・緑」、
「川越街道の松並木等」で多くなっている。

図表 5-5. 性別、年代別 三芳町の誇りや宝（上位 5 項目）

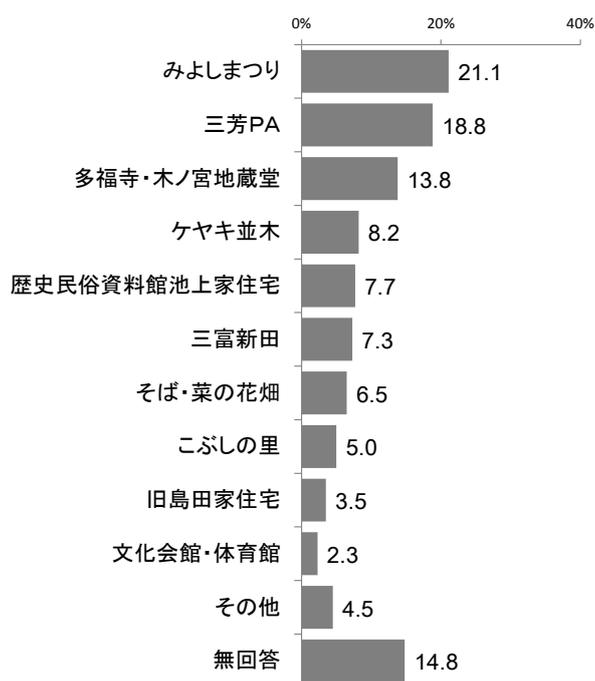


「来訪者を案内する場所」

- 「みよしまつり」が21.1%で最も多くなっている。

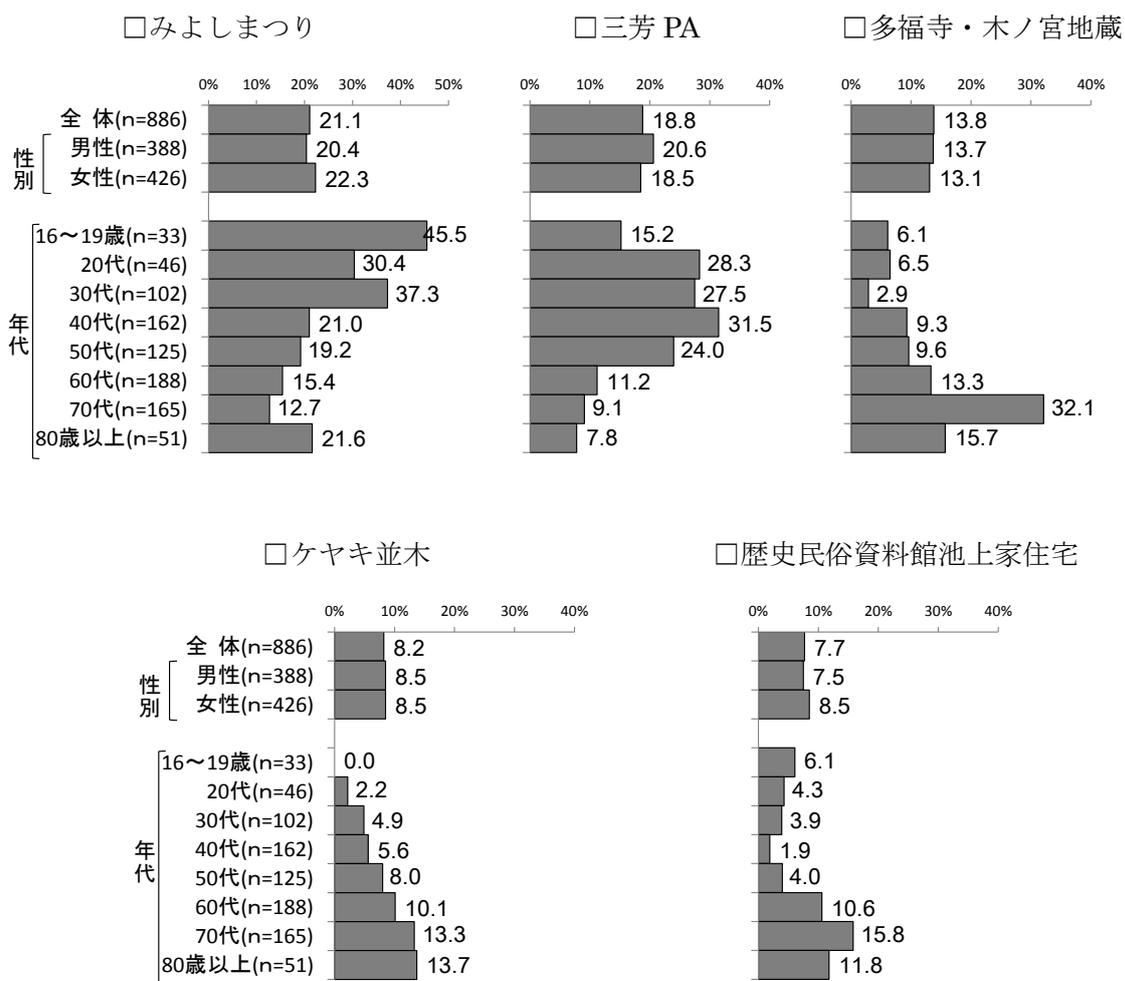
- ・ 来訪者を案内する場所では、「みよしまつり」が21.1%で最も多く、「三芳PA」が18.8%、「多福寺・木ノ宮地藏」が13.8%と続いている。

図表 5-6. 来訪者を案内する場所 (n=886)



- ・ 性別でみると、上位 5 項目にあまり大きな差はみられない。
- ・ 年代別でみると、「みよしまつり」と「三芳 PA」は若い人ほど多く、年代が高くなるほど少ない傾向がみられる。一方で、「多福寺・木ノ宮地蔵」、「ケヤキ並木」は年代が高くなるほど多くなる傾向がみられる。

図表 5-7. 性別、年代別 来訪者を案内する場所（上位 5 項目）

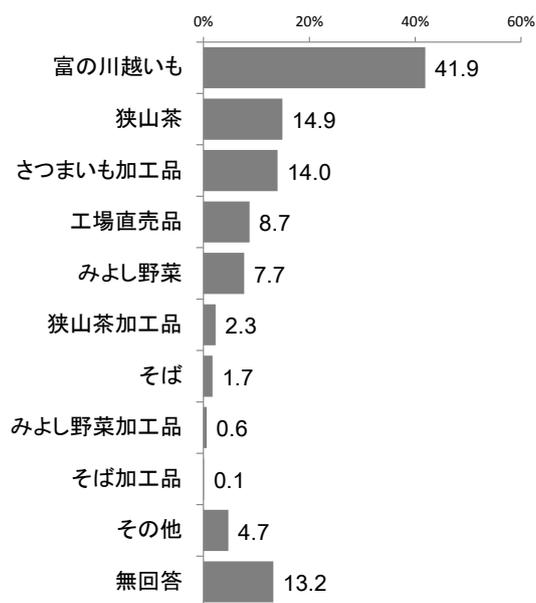


「三芳町のおみやげとして利用するもの」

- 「富の川越いも」が41.9%で最も多い。

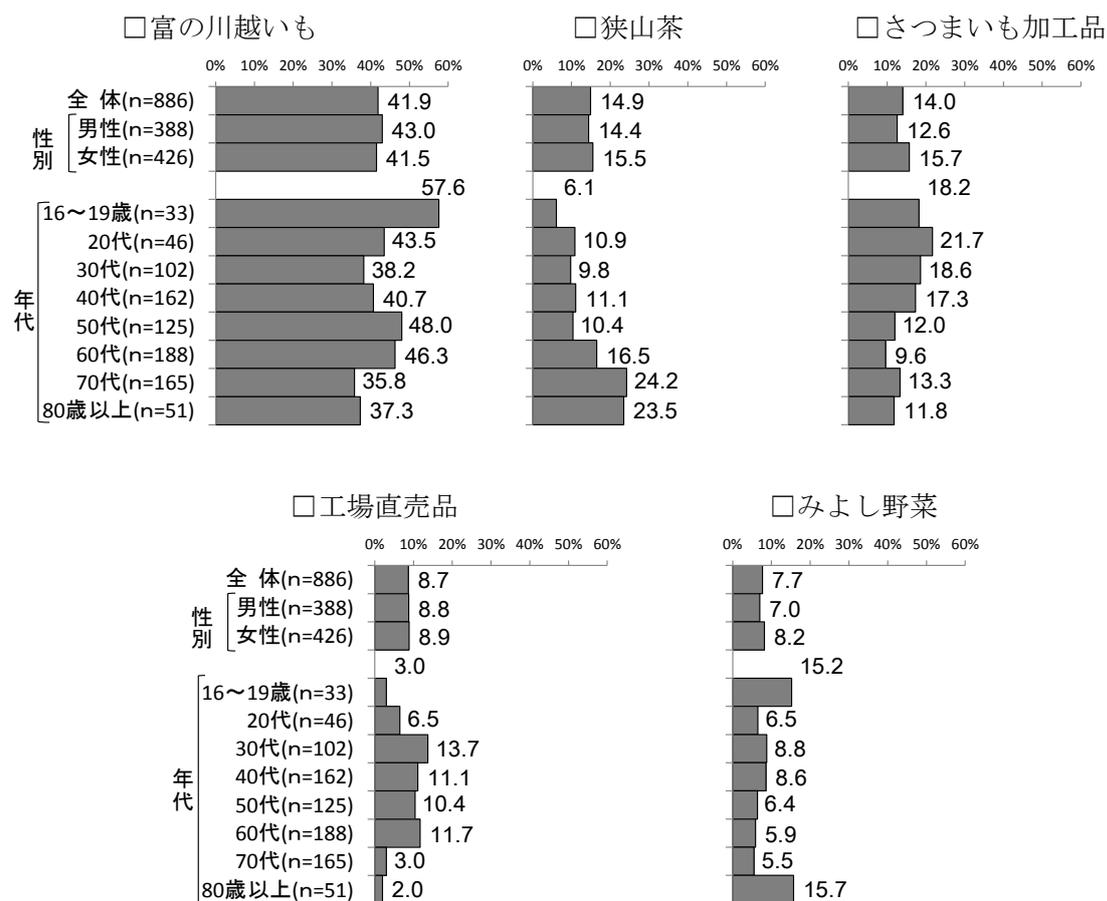
- ・ 三芳町のおみやげとして利用するものでは、「富の川越いも」が41.9%で最も多くなっている。以下、「狭山茶」（14.9%）、「さつまいも加工品」（14.0%）が続いている。

図表 5-8. 三芳町のおみやげとして利用するもの (n=886)



- ・ 性別でみると、上位 5 項目で大きな差はみられない。
- ・ 年代別では、「富の川越いも」は 16～19 歳、50 代、60 代で多く、70 代以上で少ない。「狭山茶」、は年代が高くなるほど多くなっている。「さつまいも加工品」は年代が低いほど多い。

図表 5-9. 性別、年代別 三芳町のおみやげとして利用するもの（上位 5 項目）

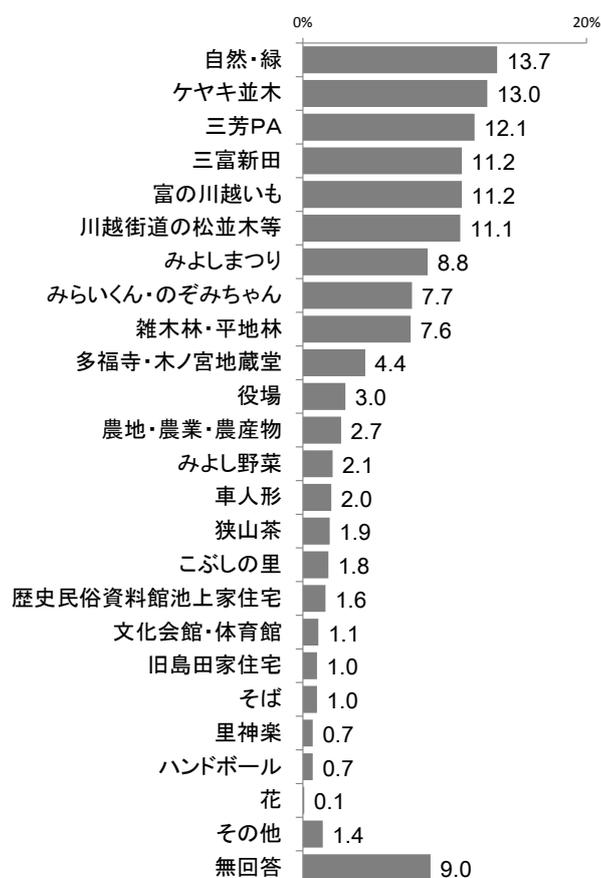


「三芳町の象徴（シンボル）」

■ 「自然・緑」が13.7%で最も多い。

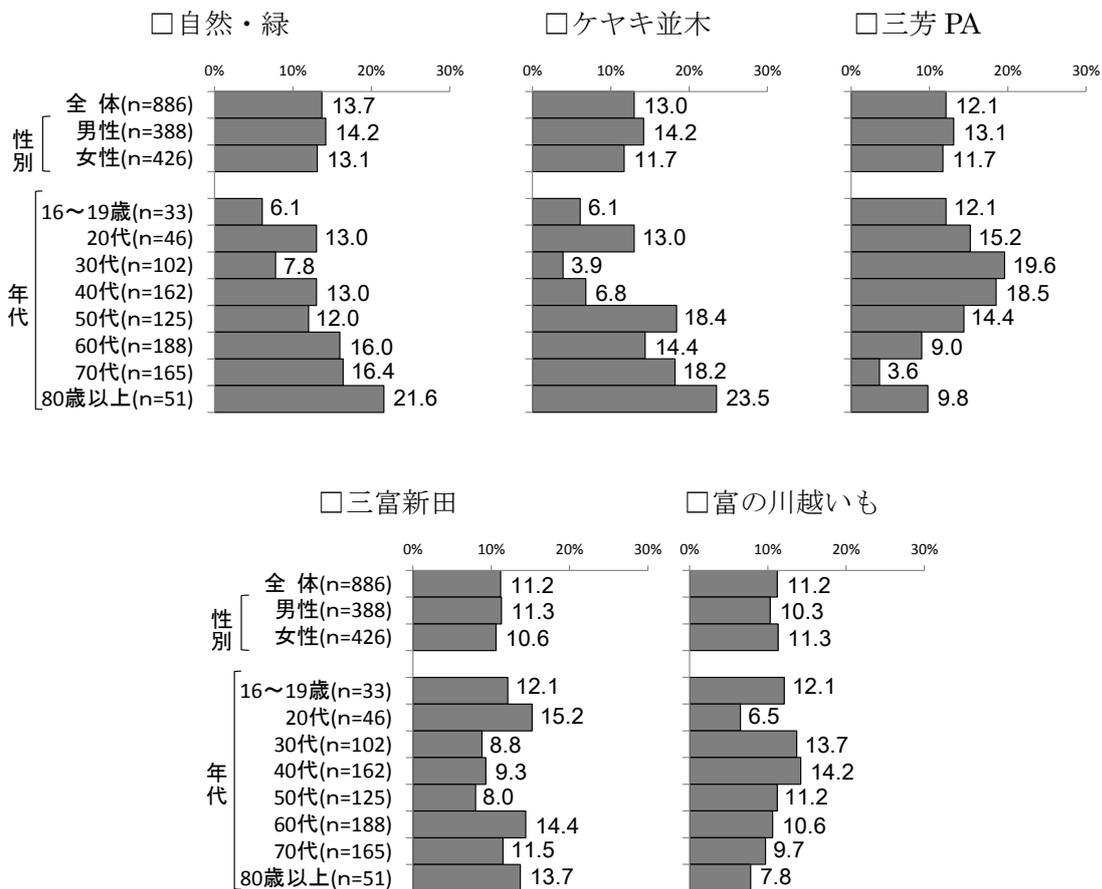
- ・ 三芳町の象徴（シンボル）では、「自然・緑」が13.7%で最も多く、以下、「ケヤキ並木」が13.0%、「三芳PA」が12.1%、「三富新田」と「富の川越いも」が11.2%、「川越街道の松並木等」が11.1%と続いている。

図表 5-10. 三芳町の象徴（シンボル）（n=886）



- ・ 性別でみると、上位 5 項目で大きな差はみられない。
- ・ 年代別では、「自然・緑」、「ケヤキ並木」は年代が高くなるほど多くなる傾向がみられる。「三芳 PA」は 30 代、40 代で多く、これ以上高い年代ほど少なくなっている。

図表 5-11. 性別、年代別 三芳町の象徴（シンボル）（上位 5 項目）

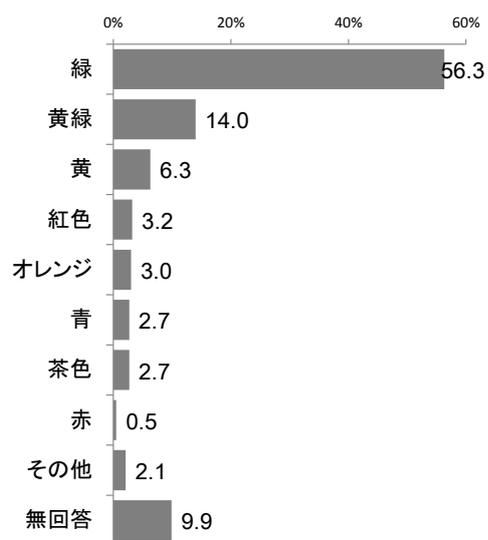


「三芳町の色（シンボルカラー）」

■ 「緑」が56.3%。

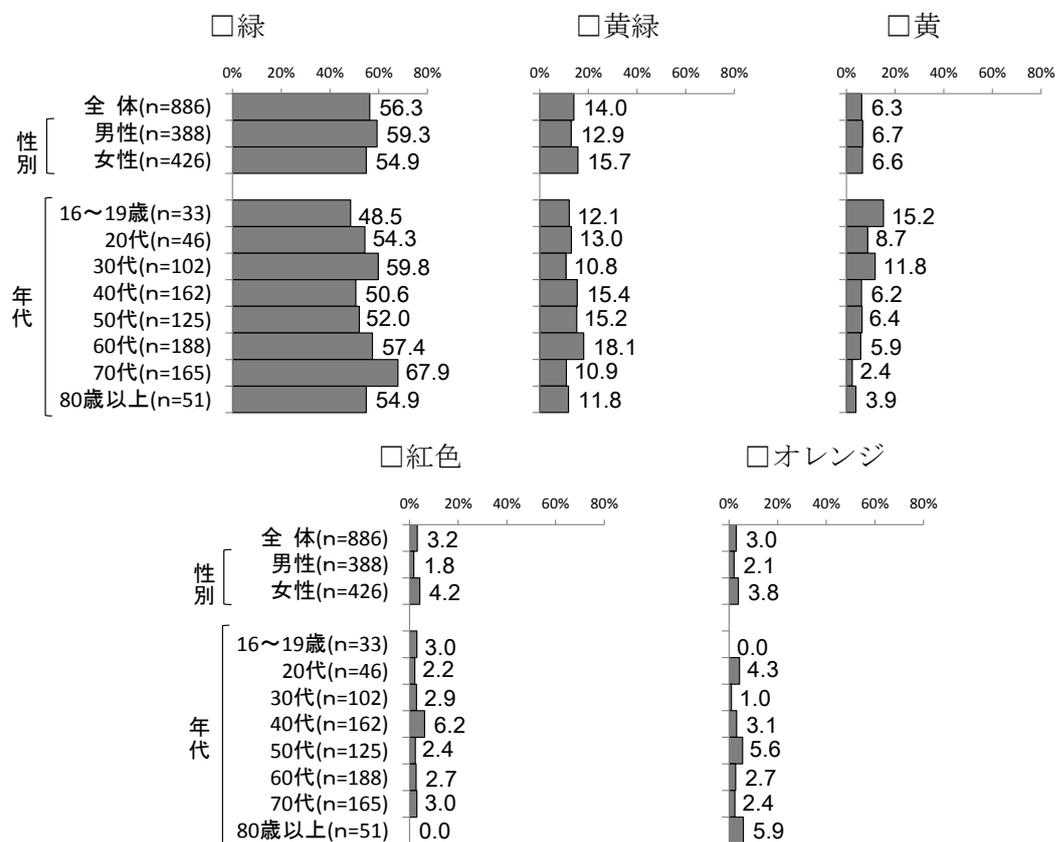
- ・ 三芳町の色（シンボルカラー）では、「緑」が56.3%で他と大きく差をつけて多い。

図表 5-12. 三芳町の色（シンボルカラー）（n=886）



- ・ 性別でみると、上位 5 項目であまり大きな差はみられない。
- ・ 年代別では、「緑」はどの年代も多くなっている。

図表 5-13. 性別、年代別 三芳町の色（シンボルカラー）（上位 5 項目）

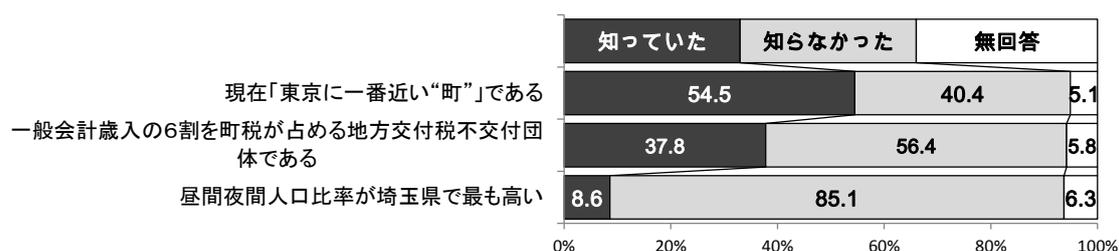


(4) 三芳町の特徴に対する認知度

- 「東京に一番近い“町”である」ということを「知っていた」という人は 54.5%。
- 「一般会計歳入の 6 割を町税が占める地方交付税不交付団体である」ということを「知っていた」という人は 37.8%。
- 「昼間夜間人口比率が埼玉県で最も高い」ということを「知っていた」という人は 8.6%にとどまっている。

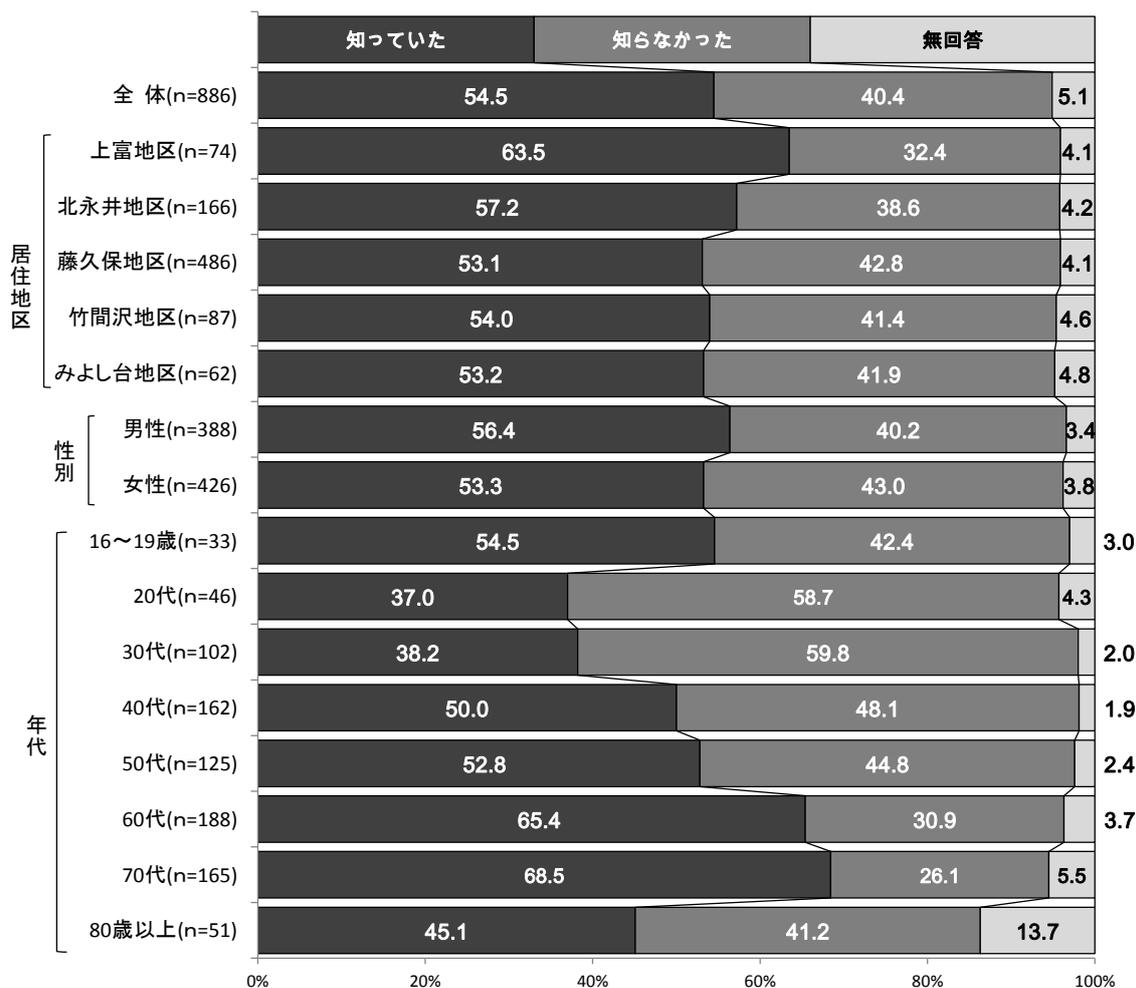
- ・ 「現在東京に一番近い“町”である」ことを「知っていた」という人が 54.4%で過半数を占めている。
- ・ 「一般会計歳入の 6 割を町税が占める地方交付税不交付団体である」ことを「知っていた」という人は 37.8%で「知らなかった」という人は 56.4%となっている。
- ・ 「昼間夜間人口比率が埼玉県で最も高い」ことを「知っていた」という人は 8.6%にとどまり、ほとんどの人が認知していない。

図表 5-14. 三芳町の特徴に対する認知度 (n=886)



- ・ 「東京に一番近い“町”である」ということについて居住地区別で見ると、上富地区で「知っていた」という人が63.5%で多く、藤久保地区は53.1%でやや少ない。
- ・ 性別では、あまり大きな差は見られない。
- ・ 年代別では、「知っていた」という人が16～19歳で多く、20代で最も少ない。30代から70代へと年代が高くなるほど多くなっている。

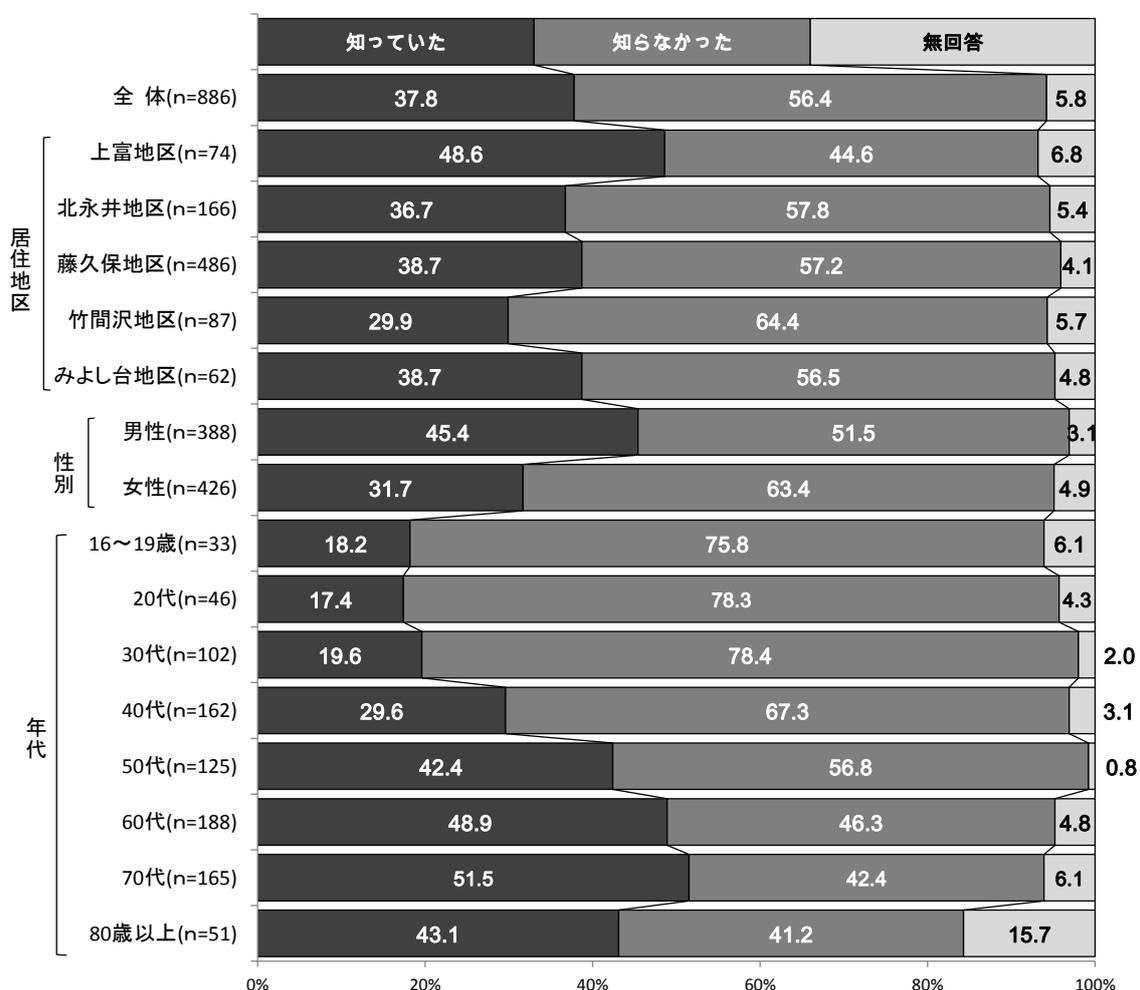
図表 5-15. 居住地区別、性別、年代別 「東京に一番近い“町”」に対する認知度



- ・ 「一般会計歳入の6割を町税が占める地方交付税不交付団体である」ということについて居住地区別で見ると、上富地区で「知っていた」という人が48.6%で多く、竹間沢地区は29.9%で少ない。
- ・ 性別では、「知っていた」という人は男性（45.4%）の方が女性（31.7%）よりも多くなっている。
- ・ 年代別では、「知っていた」という人が16～19歳から70代へと年代が高くなるほど多くなっている。

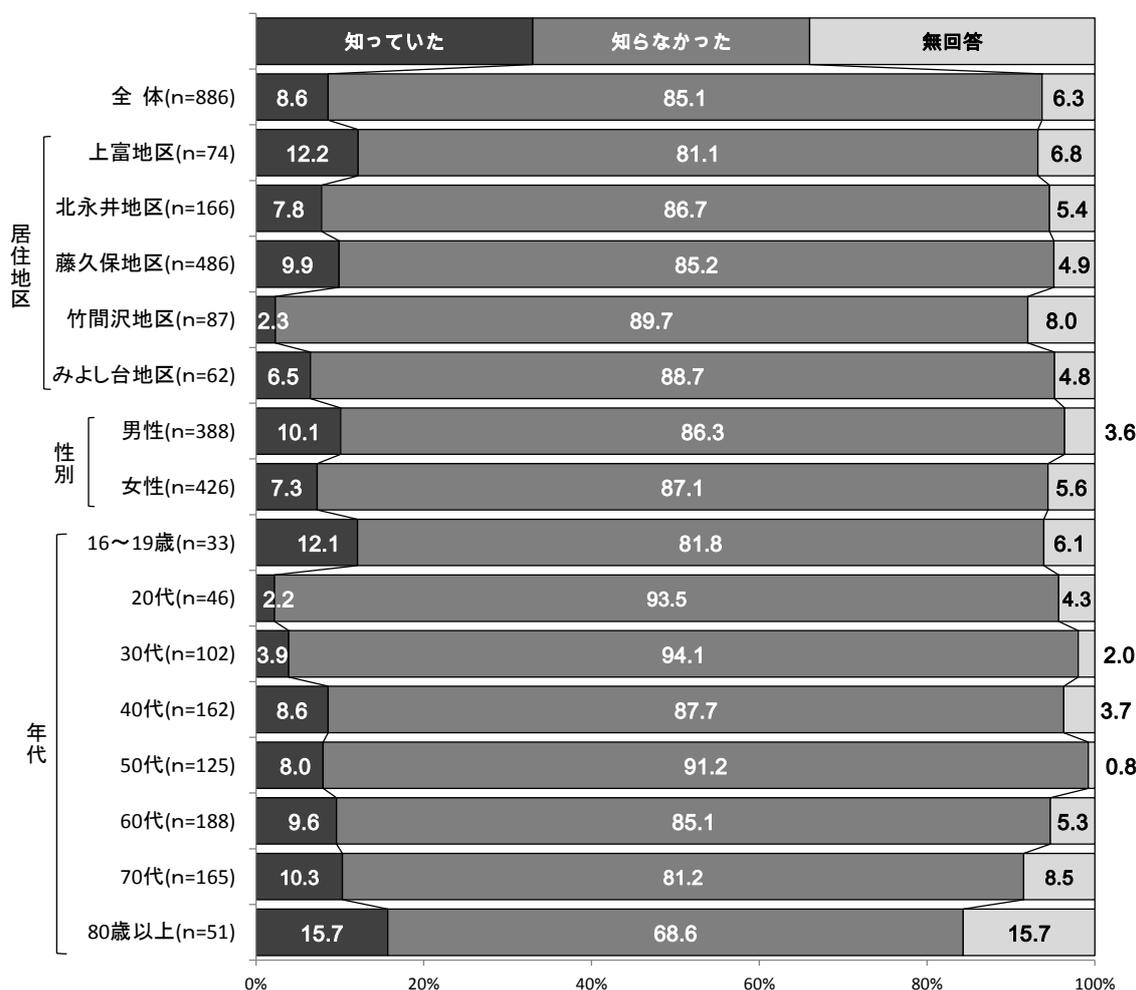
図表 5-16. 居住地区別、性別、年代別

「一般会計歳入の6割を町税が占める地方交付税不交付団体であること」に対する認知度



- ・ 「一般会計歳入の 6 割を町税が占める地方交付税不交付団体である」ということについて居住地区別でみると、いずれの地区も「知らなかった」が 8 割台と多くなっている。
- ・ 性別では、あまり大きな差はみられない。
- ・ 年代別でも、「知っていた」という人はいずれの年代でも少ないが、70 代以上と年代が高くなるほど「知っていた」という人は多くなっている。

図表 5-17. 居住地区別、性別、年代別
「昼間夜間人口比率が埼玉県で最も高いこと」に対する認知度

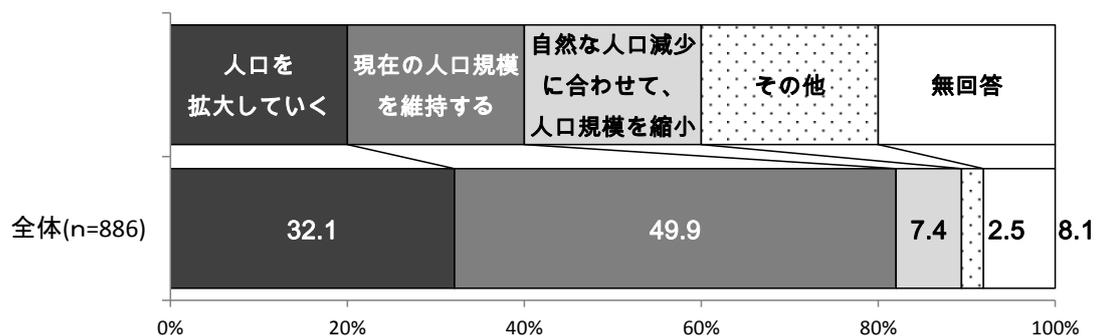


(5) 三芳町の将来の人口規模に対する考え方

■ 「現在の人口規模を維持する」が約半数。

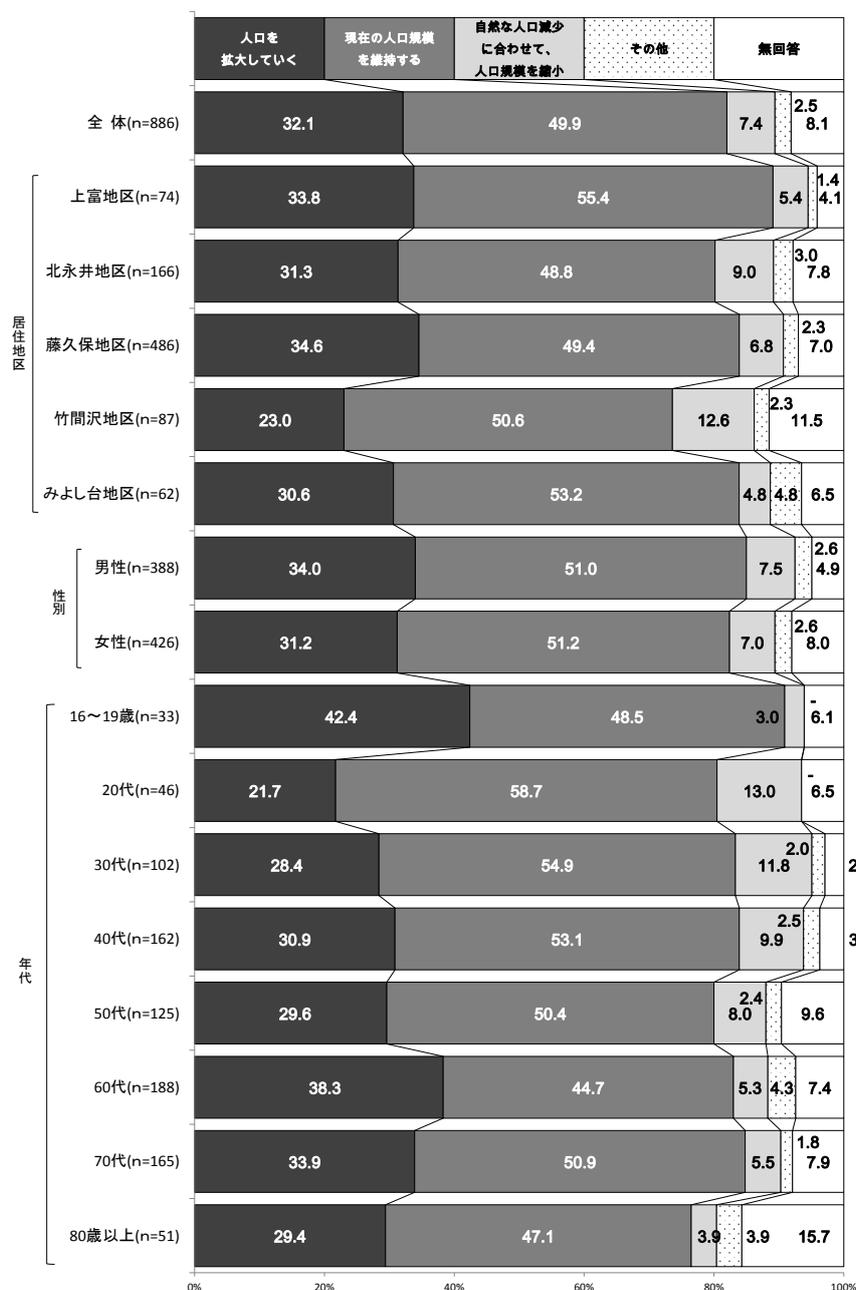
- ・ 三芳町の将来の人口規模に対する考え方では、「現在の人口規模を維持する」が49.9%で最も多く、次いで「人口を拡大していく」が32.1%となっている。

図表 5-18. 三芳町の将来の人口規模に対する考え方



- ・ 居住地区別でみると、「現在の人口規模を維持する」は上富地区（55.4%）で最も多く、北永井地区（48.8%）で少ない。また、「人口を拡大していく」は竹間沢地区（23.0%）が最も少ない。
- ・ 性別では、あまり大きな差はみられない。
- ・ 年代別では、「人口を拡大していく」は16～19歳（43.4%）、60代（38.3%）で多い。その他の年代では「現在の人口規模を維持する」が5割台で多くなっている。

図表 5-19. 居住地区別、性別、年代別 三芳町の将来の人口規模に対する考え方

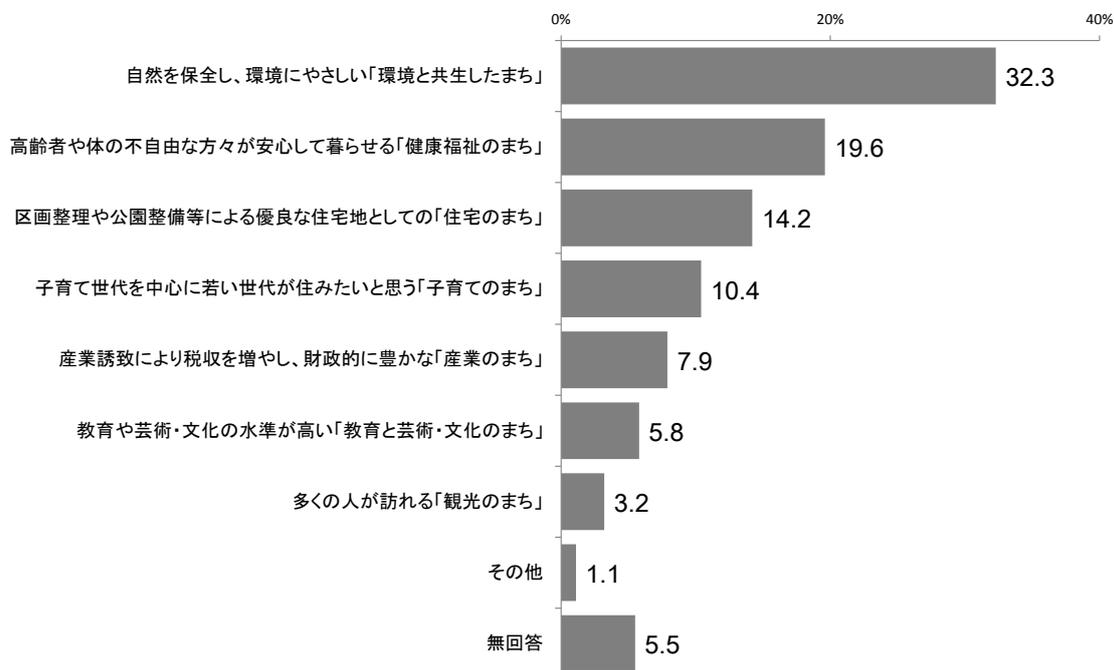


(6) 三芳町のまちづくりの方向性に対する考え方

■ 「自然を保全し、環境にやさしい「環境と共生したまち」が 32.3%で最も多い。

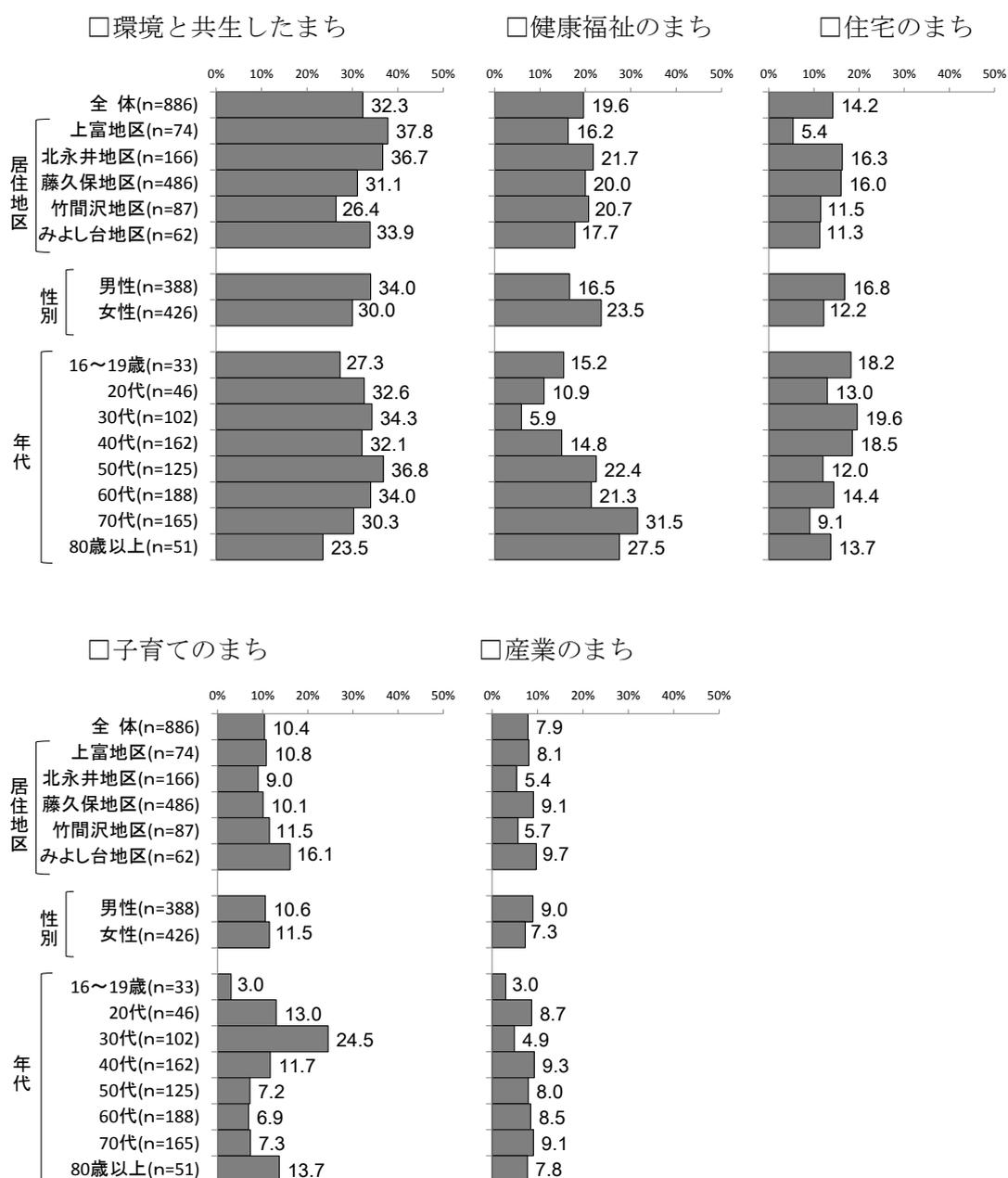
- ・ 三芳町のまちづくりの方向性に対する考え方は、「自然を保全し、環境にやさしい「環境と共生したまち」が 32.3%で最も多い。以下、「高齢者や体の不自由な方々が安心して暮らせる「健康福祉のまち」(19.6%)、「区画整理や公園整備等による優良な住宅地としての「住宅のまち」(14.2%)と続いている。

図表 5-20. 三芳町のまちづくりの方向性に対する考え方



- ・ 居住地区別でみると、「環境と共生したまち」はいずれの居住地区でも多くなっている。
- ・ 性別では、「環境と共生したまち」、「住宅のまち」は男性のほうが多く、「健康福祉のまち」は女性のほうが多い。
- ・ 年代別では、「健康福祉のまち」は年代が高くなるほど多くなっており、「住宅のまち」、「子育てのまち」では年代が低くなるほど多くなっている。

図表 5-21. 居住地区別、性別、年代別
三芳町のまちづくりの方向性に対する考え方（上位 5 項目）

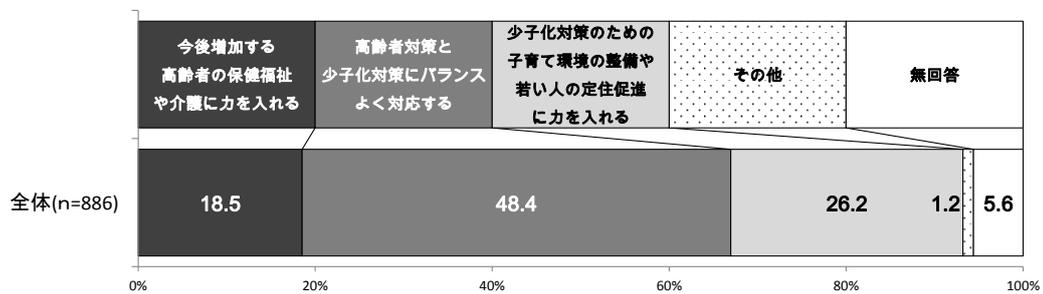


(7) 三芳町の少子高齢化対策に対する考え方

■ 「高齢者対策と少子化対策にバランスよく対応する」が48.4%で最も多い。

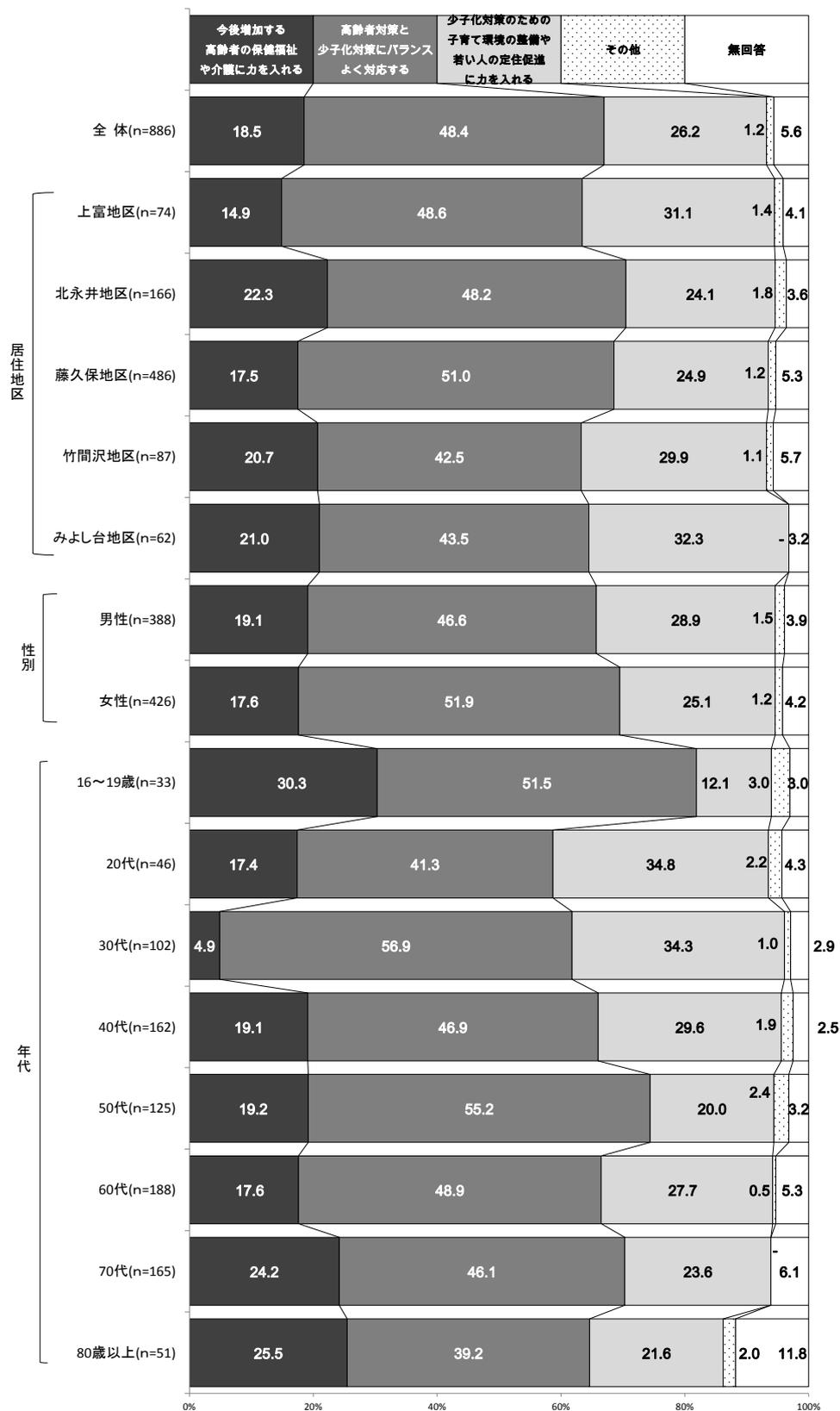
- 三芳町の少子高齢化対策に対する考え方は、「高齢者対策と少子化対策にバランスよく対応する」が48.4%で最も多く、以下、「少子化対策のための子育て環境の整備や若い人の定住促進に力を入れる」が26.2%、「今後増加する高齢者の保健福祉や介護に力を入れる」が18.5%となっている。

図表 5-22. 三芳町の少子高齢化対策に対する考え方



- ・ 居住地区別でみると、あまり大きな差はみられない。
- ・ 性別では、あまり大きな差はみられない。
- ・ 年代別では、「今後増加する高齢者の保健福祉や介護に力を入れる」は 16～19 歳とで最も多く、30 代で少ない。「高齢者対策と少子化対策にバランスよく対応する」では 50 代で最も多くなっている。

図表 5-23. 居住地区別、性別、年代別 三芳町の少子高齢化対策に対する考え方

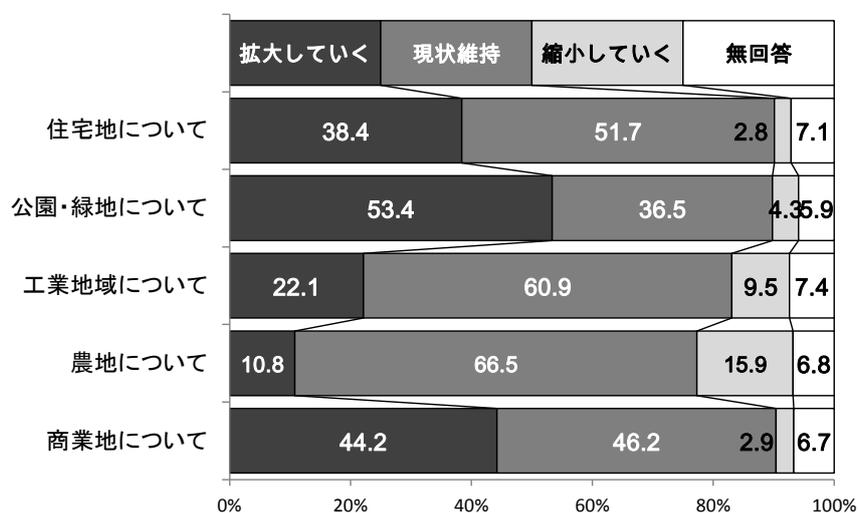


(8) 三芳町の土地利用に対する考え方

- 「農地について」は現状維持が66.5%で最も多い。
- 「公園・緑地について」は拡大していくが53.4%で最も多い。

- ・ 三芳町の土地利用に対する考え方では、「現状維持」は「農地について」(66.5%)が最も多く、以下、「工業地域について」(60.9%)、「住宅地について」(51.7%)と続いている。
- ・ 「拡大していく」では「公園・緑地について」(53.4%)が最も多く、以下、「商業地について」(44.2%)、「住宅地について」(38.4%)となっている。

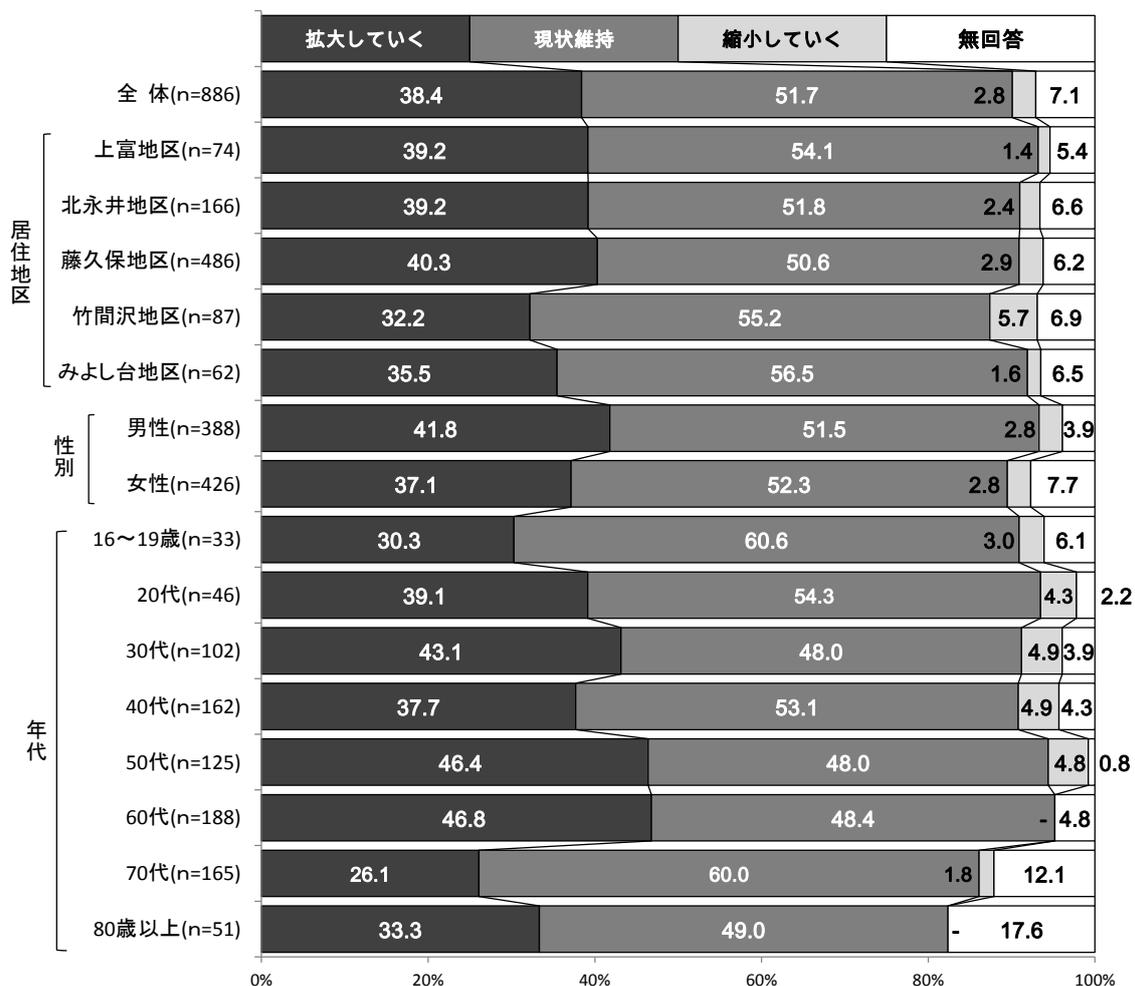
図表 5-24. 三芳町の土地利用に対する考え方 (n=886)



「住宅地について」

- ・ 三芳町の「住宅地について」を居住地区別にみると、いずれの居住地区でも「現状維持」が5割台と多くなっている。
- ・ 性別でみると、「拡大していく」は男性（41.8%）の方が女性（37.1%）よりも多い。
- ・ 年代別でみると、「現状維持」では16～19歳、70代で6割台と多くなっている。「拡大していく」では、50代、60代が5割弱で多くなっている。

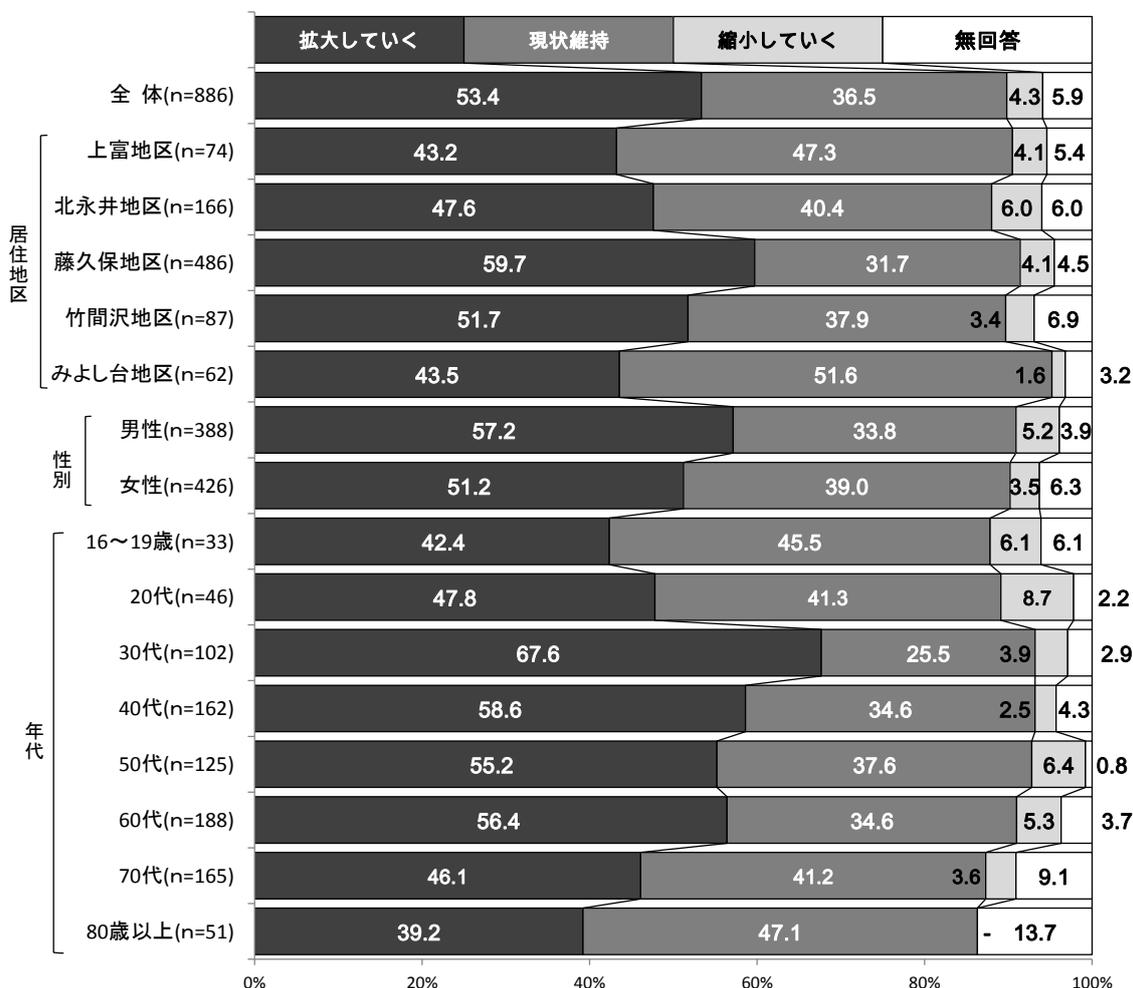
図表 5-25. 居住地区別、性別、年代別 「住宅地について」の考え方



「公園・緑地について」

- ・ 三芳町の「公園・緑地について」を居住地区別にみると、「拡大していく」は北永井地区、藤久保地区、竹間沢地区で「現状維持」よりも多くなっている。
- ・ 性別でみると、「拡大していく」は男性（57.2%）、女性（51.2%）でともに過半数を占めている。
- ・ 年代別でみると、「拡大していく」は30代で6割台と多くなっているが、40代から80歳以上と年代が高くなるにつれ少なくなっている。また20代、16～19歳と年代が低くなるにつれでも少なくなっている。

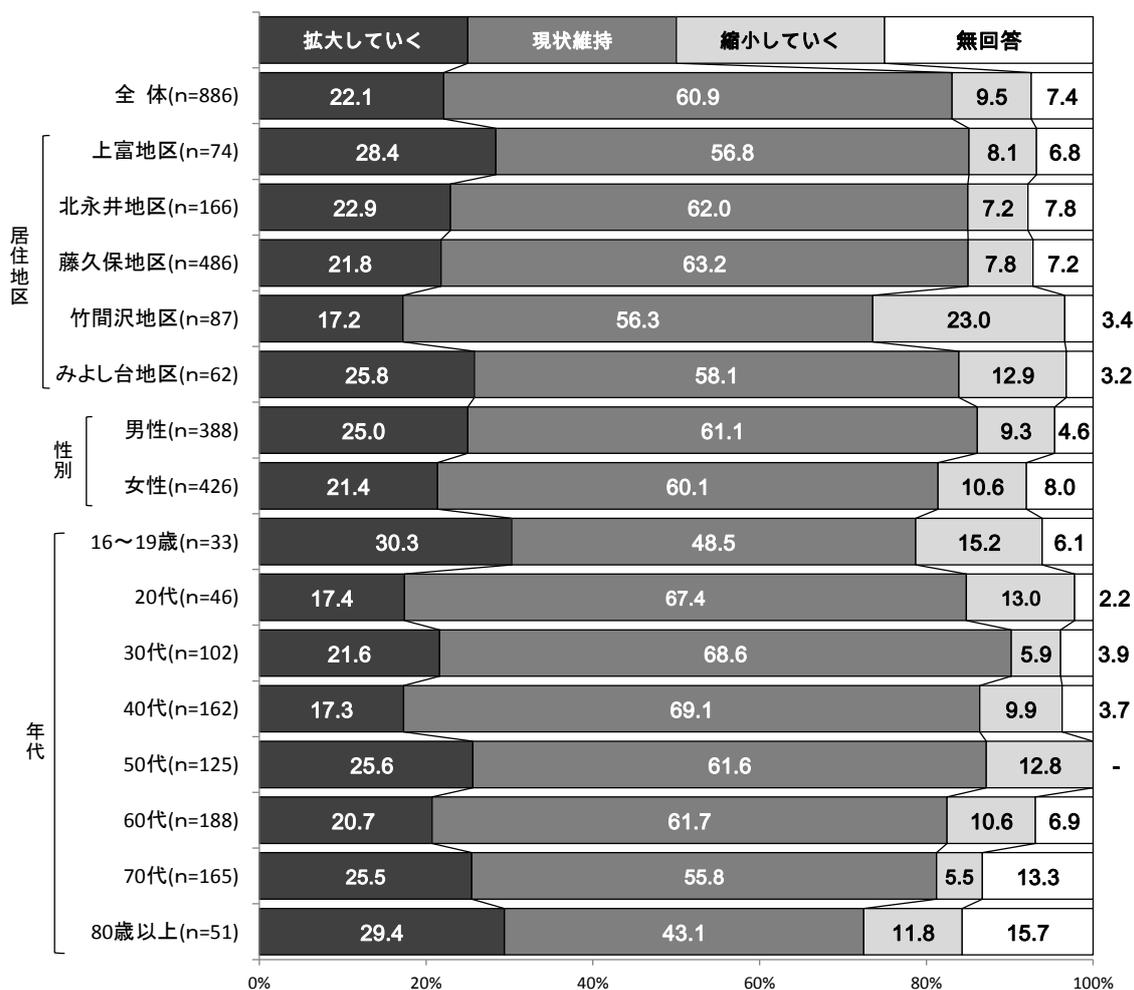
図表 5-26. 居住地区別、性別、年代別 「公園・緑地について」の考え方



「工業地域について」

- ・ 三芳町の「工業地域について」を居住地区別にみると、「現状維持」がいずれの居住地区でも多くなっている。
- ・ 性別でみると、あまり大きな差はみられない。
- ・ 年代別でみると、「拡大していく」では年代が高くなるにつれやや多くなっている傾向はみられるものの、あまり大きな差はみられない。

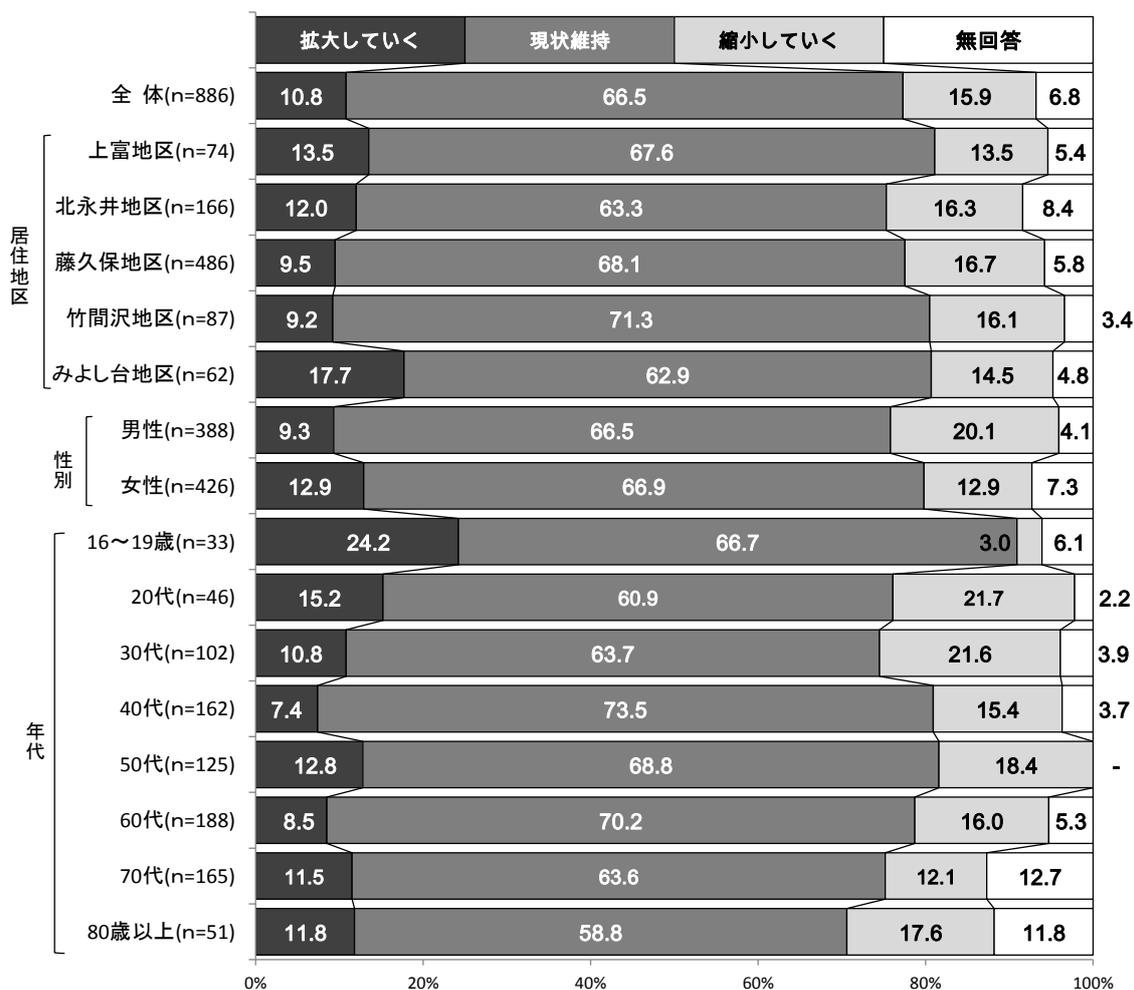
図表 5-27. 居住地区別、性別、年代別 「工業地域について」の考え方



「農地について」

- ・ 三芳町の「農地について」を居住地区別にみると、「現状維持」がいずれの居住地区でも多くなっている。
- ・ 性別でみると、あまり大きな差はみられない。
- ・ 年代別でみると、「拡大していく」では年代が低くなるにつれやや多くなっている傾向はみられるものの、あまり大きな差はみられない。

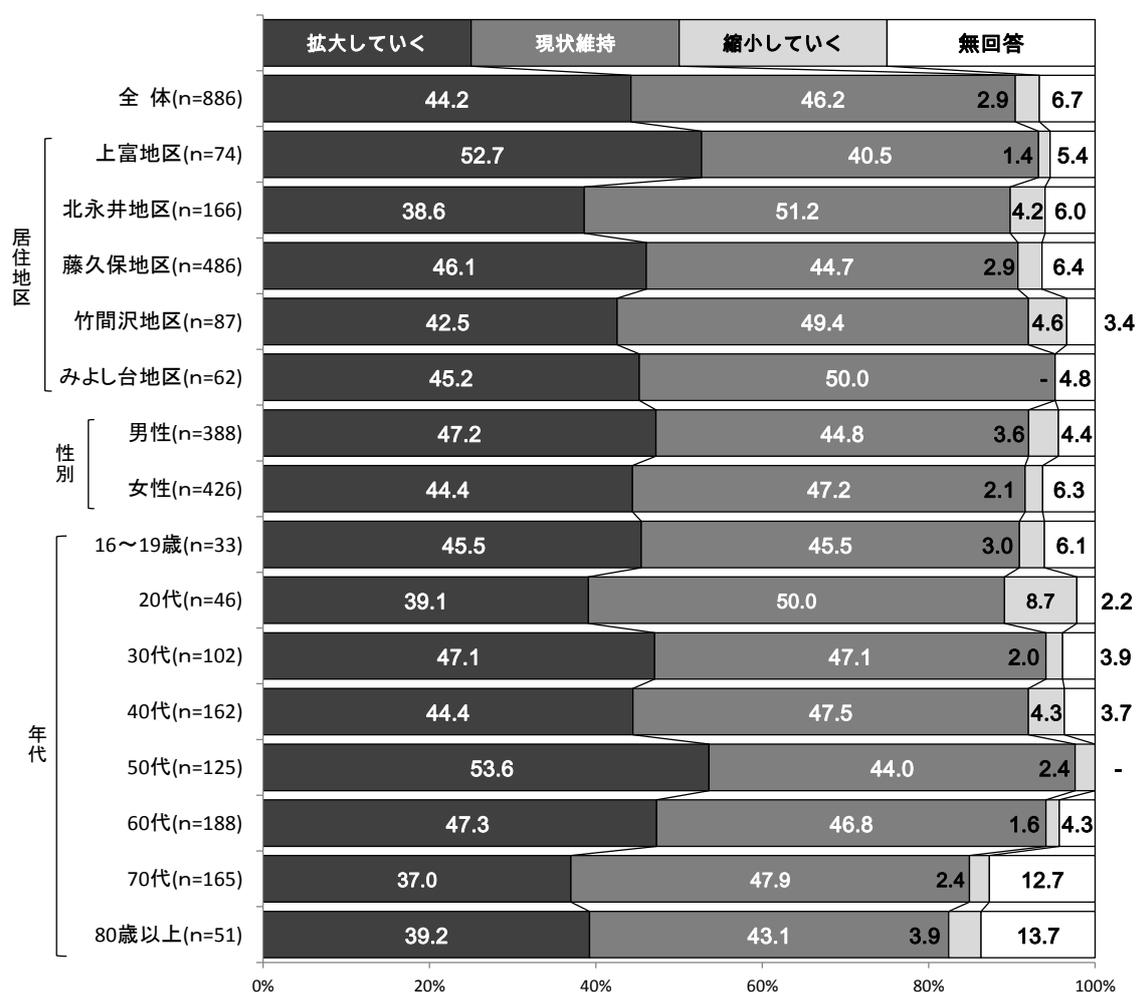
図表 5-28. 居住地区別、性別、年代別 「農地について」の考え方



「商業地について」

- ・ 三芳町の「商業地について」を居住地区別にみると、上富地区、藤久保地区では「拡大していく」の方が「現状維持」よりも多くなっている。
- ・ 性別でみると、男性では「拡大していく」の方が「現状維持」よりも多く、女性では「現状維持」の方が「拡大していく」よりも多くなっている。
- ・ 年代別でみると、16～19歳、30代、50代、60代で「拡大していく」の方が「現状維持」よりも多いもしくは同率となっている。

図表 5-29. 居住地区別、性別、年代別 「商業地について」の考え方

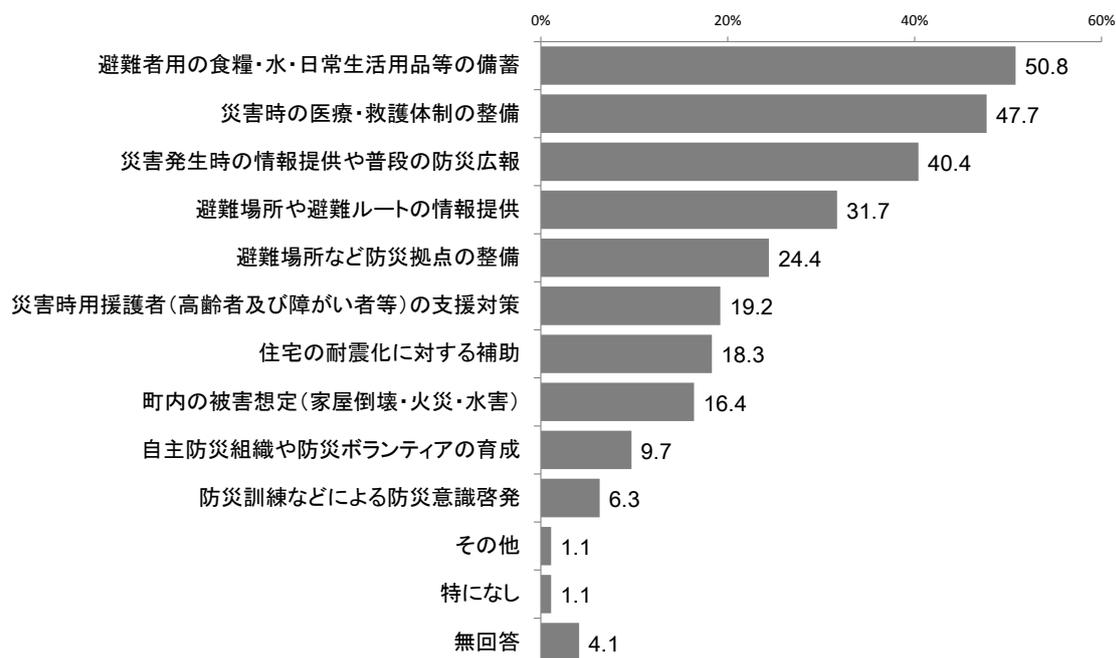


(9) 災害対策について行政に期待すること

■ 「避難者用の食糧・水・日常生活用品等の整備」が50.8%で最も多い。

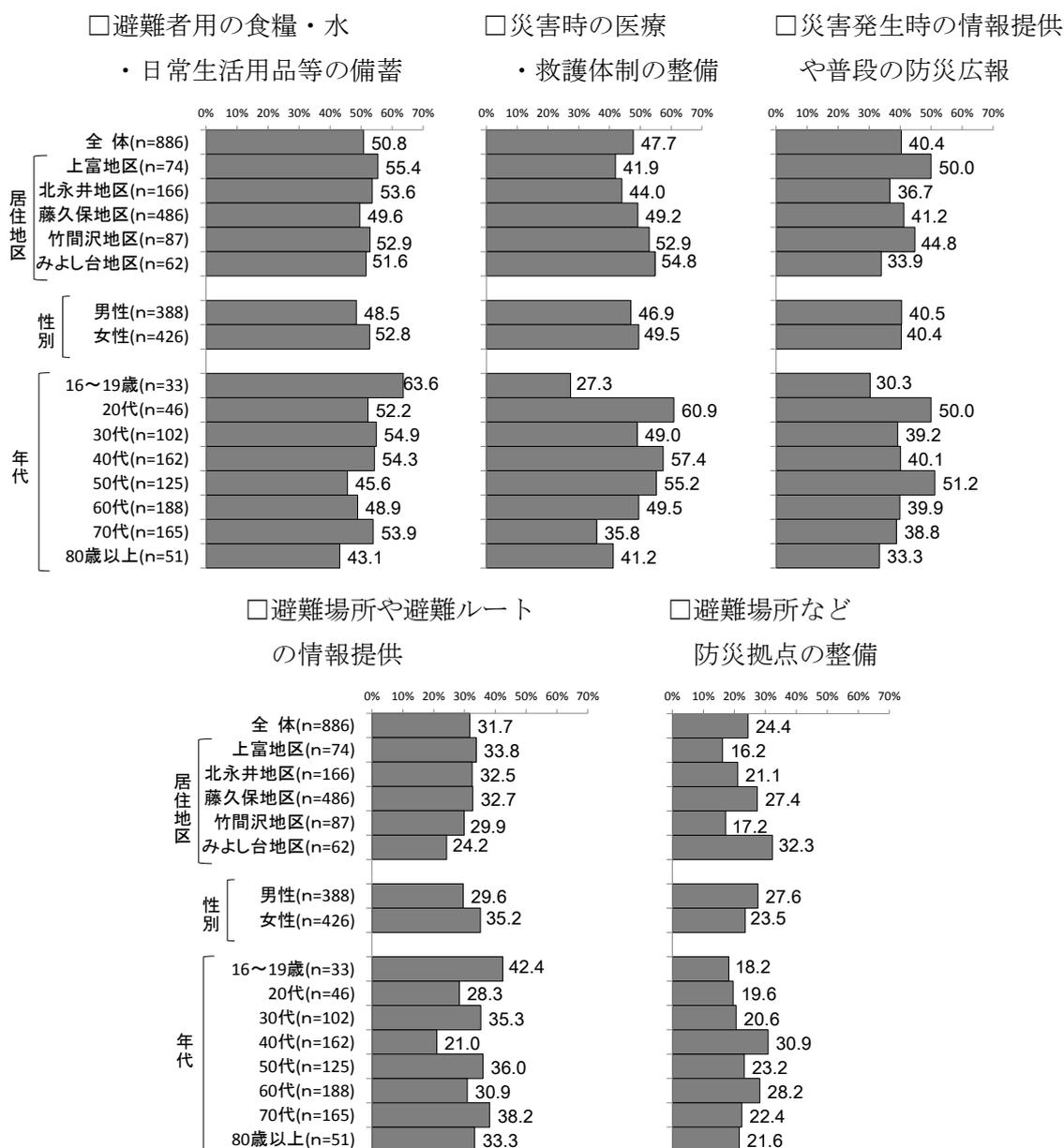
- ・ 災害対策について行政に期待することは、「避難者用の食糧・水・日常生活用品等の備蓄」が50.8%で最も多く、以下、「災害時の医療・救護体制の整備」が47.7%、「災害発生時の情報提供や普段の防災広報」が40.4%と4割台が続いている。

図表 5-30. 災害対策について行政に期待すること (n=886)



- ・ 居住地区別で比較すると、「避難者用の食糧・水・日常生活用品等の整備」はみよし台地区以外の居住地区で多い。みよし台地区では、「災害時の医療・救護体制の整備」が多くなっている。
- ・ 性別では、「避難場所など防災拠点の整備」は男性の方が多くなっている。
- ・ 年代別では、「避難者用の食糧・水・日常生活用品等の備蓄」は16～19歳、30代、70代以上で多く、「災害時の医療・救護体制の整備」は20代、40代から60代が多い。

図表 5-31. 居住地区別、性別、年代別
災害対策について行政に期待すること（上位5項目）



(10) 三芳町の今後の町政全般に対する意見・提案

■ 都市整備に関する意見が多く、そのうち「交通インフラの整備」に関する意見が99件と最も多い。

- ・ 三芳町の今後の町政全般に対する意見・提案では、都市整備に関する意見が多くあげられており、中でも「交通インフラの整備」についての意見が99件あげられている。
- ・ また、行政改革に関する意見では「行政サービスの改善等」(23件)、環境に関する意見では「公園の整備」(21件)などが多くあげられている。

図表5-32. 三芳町の今後の町政全般に対する意見・提案 (n=886)

回答	件数
【環境】	
○公園の整備	21
○子どもが遊べる場所を作ってほしい	12
○ゴミのポイ捨てをなくしたい、回収・処理の改善を求める	4
○ペットに関する環境整備	4
○土埃の対策をしてほしい	3
【都市整備】	
○交通インフラの整備	99
バス路線等の充実	24
道路の拡張・整備	18
歩道の整備	12
交通手段・交通網の整備	9
スマートインター	7
○適切な区画整理	8
○上下水道の整備	3
○情報インフラの整備	2
【安全対策】	
○道が暗い・街灯の設置を求める	13
○自転車の乗車マナー向上	3
【社会福祉】	
○認可保育園・児童館等の整備	5
○高齢者にやさしいまちづくり	5
○高齢者・障がい者への就労支援	3
【産業・商業・農業】	
○商業施設の充実	13
○農業への関心を高めたい	5
【文化・教育】	
○子育てしやすい環境の整備・施策の充実	13
○教育レベルの向上	4
○図書館施設の充実	4
○プールの設置	4

○公民館の設備整備	2
【行政改革】	
○行政サービスの改善等	23
○税金の使い方について	12
○議員・職員の人員適正化、給与体系の見直し	11
○町民の声を吸い上げる機会・場の提供	9
○広報の充実・改善	9
○財源の確保	4
○税制の改革	3
○市町村合併をすべきである	2
【まちのイメージ・アピールポイント】	
○まちのイメージアップ	4
○周辺地域・若者へのアピール	2
○まちのアピールポイントがない	2
○まちのイメージが悪い	2
【コミュニティ】	
○人とのつながりがほしい	6
○自治会の運営	3
【住みやすいまちづくり】	
○住みやすいまちづくり	4

IV. 參考資料

居民意識調查調查票

三芳町住民意識調査

ご協力をお願い

日頃より町政にご理解ご協力をたまわり、ありがとうございます。

三芳町では、平成 18 年度より 10 年間を計画期間とする「第 4 次総合振興計画」を策定し、町の将来像を「みんながつくる みどり いきいき めくもりのまち」と掲げ、総合的かつ計画的なまちづくりを進めてきました。この第 4 次総合振興計画は平成 27 年度をもって期間の満了を迎えるため、28 年度以降の長期的・計画的な視野に立った持続可能な新しいまちづくりの指針となる「第 5 次総合計画」を策定いたします。つきましては、計画策定の基礎資料とするため、三芳町の施策への満足度や地域課題を把握する「三芳町住民意識調査」を実施させていただきます。

この調査は、町内にお住いの 16 歳以上の方、2,000 名を住民基本台帳から無作為に抽出した結果、あなた様にご回答をお願いすることになりました。ご回答はすべて統計的に処理し、他の目的には一切使用いたしませんので、率直にお答えください。

また、この意識調査とは別に、住民の方々に三芳町の未来に向けての課題や施策提案などについて話し合ってもらい「まちづくりワークショップ」も計画しています。参加ご希望の方は、最後の参加希望欄にお名前とご住所等をご記入ください。後日ご案内を送らせていただきます。

ご多忙のところ恐縮ですが、より多くの方々のご意見を反映いたしたく、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

平成 26 年 10 月

三芳町長 林 伊佐雄

ご記入にあたってのお願い

■ 調査の対象者

- 封筒の宛名の方が対象者ですので、ご本人が回答してください。(ご本人の記入が困難な場合は、身の回りの世話をしている方が聞き取りするなどして、できるだけ回答にご協力ください。)

■ ご記入方法

- 選択肢の設問については、該当する番号に○をつけてください。
- 自由回答(記入式)の設問には、あなたの考えを簡単にまとめて記入してください。
- 質問によって回答される方が限られる場合がありますので、ご注意ください。

■ 返送方法と締め切り

- ご記入後、同封の返信用封筒に入れ、10 月 24 日(金)までにお近くの郵便ポストに投函してください。

■ お問い合わせ先

- この調査についてのお問い合わせは、下記へお願いします。

三芳町役場 政策推進室

電話 258-0019 (内線 422・423)

I あなたご自身について

問1. まず回答者ご自身のことについてお聞きします。次の(ア)から(ク)の各項目について、該当する番号に各々1つずつ○をつけてください。

(ア) 居住地区	1 上富地区	2 北永井地区	3 藤久保地区	
	4 竹間沢地区	5 みよし台地区		
(イ) 性別	1 男性	2 女性		
(ウ) 年齢	1 16～19歳	2 20～29歳	3 30～39歳	4 40～49歳
	5 50～59歳	6 60～69歳	7 70～79歳	8 80歳以上
(エ) 職業	1 農業	2 製造業・建設業	3 商業・サービス業	
	4 公務・団体等勤務	5 その他の職業	6 無職(専業主婦・学生含む)	
(オ) 就業地・通学地	1 自宅(自営業・自宅就業など)	2 自宅(無職または専業主婦)		
	3 町内(自宅を除く)	4 県内(三芳町を除く)	5 東京都	
	6 その他			
(カ) 住宅	1 持家(一戸建)	2 持家(共同住宅)	3 借家(社宅等含む)	
(キ) 土地所有	1 土地は所有していない			
	2 自宅用の土地のみ所有している(店舗等兼用含む)			
	3 自宅以外に土地を所有している(農地・林・事業所・倉庫など)			
(ク) 三芳町での居住年数	1 5年未満	2 5～9年	3 10～19年	
	4 20～29年	5 30年以上		

問2. あなたは、三芳町の「第4次総合振興計画(基本構想・基本計画)」をご存知でしたか。次の中から1つだけ選んで、番号に○をつけてください。

- 1 知っているし、見たことがある
- 2 見たことはないが、知っている
- 3 知らない

II まちの住みやすさについて

問3. あなたが三芳町に住むようになったのはどういう理由からですか。次の中から1つだけ選んで、番号に○をつけてください。

- | | |
|------------------|---------------|
| 1 生まれた時から住んでいる | 2 結婚で転入 |
| 3 親や親類が町内に住んでいる | 4 通勤・通学に便利 |
| 5 自然環境が良い | 6 マイホームを求めて |
| 7 職場の寮や社宅等が町内にある | 8 買物等の日常生活に便利 |
| 9 その他() | |

問4. あなたは、現在の三芳町の住みやすさについてどのように感じていますか。次の中から1つだけ選んで、番号に○をつけてください。

- | | | | |
|-----------------|---|---|-------|
| 1 住みやすい | } | → | 問4-①へ |
| 2 どちらかといえば住みやすい | | | |
| 3 どちらかといえば住みにくい | } | → | 問4-②へ |
| 4 住みにくい | | | |

問4-① 前問(問4)で、1または2に回答された方にお聞きします。三芳町が「住みやすい」と感じるのはどのような点でしょうか。次の中からいくつでも選んで、番号に○をつけてください。

- 1 家族や親類、友人などがいる
- 2 近隣の住民や地域の人たちとのつきあいが良好
- 3 生活が便利(交通立地条件や買物、医療、公共施設など)
- 4 住宅(居住)環境が良い
- 5 周辺の自然環境が良い
- 6 余暇や娯楽の場に恵まれている
- 7 長年住み慣れている
- 8 教育環境がよい
- 9 歴史・文化的な環境に恵まれている
- 10 その他()

問4-② 前問(問4)で、3または4に回答された方にお聞きします。三芳町が「住みにくい」と感じるのはどのような点でしょうか。次の中からいくつでも選んで、番号に○をつけてください。

- 1 家族や親類、友人などがいない
- 2 近隣の住民や地域の人たちとのつきあいがうまくいかない
- 3 生活が不便(交通立地条件や買物、医療、公共施設など)
- 4 住宅(居住)環境が悪い
- 5 周辺の自然環境が悪い
- 6 余暇・娯楽施設がない、又は少ない
- 7 教育環境がよくない
- 8 歴史・文化的な環境が失われている
- 9 その他()

問8. あなたは三芳町に愛着を感じていますか。次の中から1つだけ選んで、番号に○をつけてください。

- 1 非常に感じる 2 やや感じる 3 どちらともいえない
4 あまり感じない 5 全く感じない

問9. あなたが、何か困ったことが起きた時に相談する相手はどなたですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- 1 家族 2 親戚 3 ご近所の人 4 民生・児童委員・ヘルパー
5 その他（ ）
6 相談できる人はいない →問10へ

問9-① 前問（問9）で、どなたか相談する相手に○をされた方にうかがいます。その方は、町内に住んでいらっしゃるでしょうか。1つだけ選んで、○をつけてください。

- 1 町内に住んでいる 2 みんな町外に住んでいる

Ⅲ 地域内の様子について

問10. あなたのお住まいの地域では、みんなで協力し合ってよりよい地域をつくっていくような雰囲気や土壌はありますか。次の中から1つだけ選んで、番号に○をつけてください。

- 1 非常にあると思う 2 あると思う 3 どちらともいえない
4 あまりないと思う 5 全くないと思う

問11. あなたは、地域活動や交流に関心がありますか。次の中から1つだけ選んで、番号に○をつけてください。

- 1 非常に関心がある 2 関心がある 3 どちらともいえない
4 あまり関心がない 5 全く関心がない

問12. あなたは、現在の行政区や自治会について、どのように考えていますか。次の中から1つだけ選んで、番号に○をつけてください。

- 1 地域のまとまりや問題解決には欠かせない
2 地域の親睦や相互扶助には欠かせない
3 地域の防災や防犯には欠かせない
4 祭りや地域行事には欠かせない
5 地域に密着した団体としては欠かせない
6 わからない
7 その他（具体的に ）

問13. あなたは、どのような地域活動に参加したいですか。次のうち、あなたの考えに近いものをいくつでも選んで番号に○をつけてください。

- 1 スポーツ・レクリエーション活動
- 2 趣味や学習・文化などのサークル活動
- 3 まちの美化・清掃、緑化・自然保護などの活動
- 4 国際交流や男女共同参画のための活動
- 5 祭りや盆踊りなどの行事
- 6 福祉ボランティアなどの活動
- 7 防犯・防災・交通安全などの地域安全活動
- 8 地場製品のPRやブランドづくりなどの観光活動
- 9 学校支援や子ども会などの児童生徒ための活動
- 10 郷土文化の継承や文化財保護などの活動
- 11 その他（具体的に ）
- 12 特にない

IV 町の現状についての満足度

問14. あなたの住んでいる地域や三芳町の現況についてお聞きします。あなたは、日常生活を送るうえで、次のような施策項目についてどの程度満足していますか。各項目の満足度について、それぞれ1つずつ選んで、番号に○をつけてください。

三芳町における施策項目		満足	ほぼ満足	どちらともいえない	やや不満	不満
環境	1) 景観や街並み	5	4	3	2	1
	2) 自然環境の保全	5	4	3	2	1
	3) 公園や緑地の整備	5	4	3	2	1
	4) ごみの減量化やリサイクルの推進	5	4	3	2	1
	5) ごみ・し尿処理など廃棄物対策	5	4	3	2	1
	6) 大気・水質・騒音などの環境対策	5	4	3	2	1
	7) 再生可能エネルギーの普及促進	5	4	3	2	1
都市整備	8) 土地区画整理など良好で安全な市街地形成	5	4	3	2	1
	9) 身近な生活道路の整備	5	4	3	2	1
	10) 主要道路の整備	5	4	3	2	1
	11) 水の安定供給など上水道の整備	5	4	3	2	1
	12) 下水道の整備	5	4	3	2	1
	13) 雨のときの治水対策	5	4	3	2	1
	14) バスなど公共交通網の整備	5	4	3	2	1
安全対策	15) 消防や防火対策	5	4	3	2	1
	16) 指定避難場所の整備や防災訓練などの防災対策	5	4	3	2	1
	17) 防犯対策	5	4	3	2	1
	18) 歩道や信号機などの交通安全対策	5	4	3	2	1
	19) 放置自転車対策や駐輪場の確保	5	4	3	2	1

三芳町における施策項目		満足	ほぼ満足	どちらとも いえない	やや不満	不満
子育て支援	20) 安心して妊娠・出産・育児ができる環境整備	5	4	3	2	1
	21) 保育施設や保育内容	5	4	3	2	1
	22) 児童館、学童保育施設や制度	5	4	3	2	1
	23) 共働き世帯の子育て支援	5	4	3	2	1
	24) ひとり親家庭や低所得者のための援助	5	4	3	2	1
保健福祉	25) 高齢者や障がい者に対する地域での支えあい	5	4	3	2	1
	26) 高齢者のための施設や制度	5	4	3	2	1
	27) 障がい者のための施設や制度	5	4	3	2	1
	28) 健康保険や年金制度情報提供・相談	5	4	3	2	1
	29) 介護サービスや相談体制	5	4	3	2	1
	30) 日常の保健・医療サービス	5	4	3	2	1
産業経済	31) 救急医療体制	5	4	3	2	1
	32) 地元の農産物の流通や後継者対策など農業の振興	5	4	3	2	1
	33) 新たな産業や地場産業の育成など工業の振興	5	4	3	2	1
	34) 商業・サービス業の振興	5	4	3	2	1
	35) 働く場所の確保や就労支援	5	4	3	2	1
	36) 中小企業支援	5	4	3	2	1
	37) 観光振興・町のPR戦略	5	4	3	2	1
教育・文化	38) 企業の誘致	5	4	3	2	1
	39) 学習活動やサークル活動など生涯学習の促進や支援	5	4	3	2	1
	40) 小・中学校の施設や教育内容	5	4	3	2	1
	41) 子ども会活動の支援や非行防止対策など青少年育成	5	4	3	2	1
	42) 図書館・公民館・文化会館等の学習文化施設やサービス	5	4	3	2	1
	43) 芸術・文化活動の促進や支援	5	4	3	2	1
	44) スポーツ・レクリエーション施設や活動支援	5	4	3	2	1
	45) 文化財の保護や活用	5	4	3	2	1
コミュニティ	46) 地域の祭り・イベント・各種行事の充実	5	4	3	2	1
	47) 男女共同参画や国際交流などの人権・共生施策	5	4	3	2	1
	48) 行政情報の公開や提供	5	4	3	2	1
	49) 町の計画策定や事業の実施等への住民参加	5	4	3	2	1
	50) 住民の主体的なまちづくり活動への支援	5	4	3	2	1

三芳町における施策項目		満足	ほぼ満足	どちらともいえない	やや不満	不満
行 財 政	51) 公共施設（図書館・火葬場等）の相互利用など 周辺市町との広域サービス	5	4	3	2	1
	52) 役場庁舎の施設やサービス	5	4	3	2	1
	53) 出張所の施設やサービス	5	4	3	2	1
	54) 職員の対応やマナー	5	4	3	2	1
	55) 行財政改革（経費節減等）	5	4	3	2	1

V 町政運営について

問15. あなたは町政に関心がありますか。次の中から、1つだけ選んで○をつけてください。

- | | | |
|------------|---|--------------|
| 1 非常に関心がある | } | → 【問 15-①】 へ |
| 2 関心がある | | |
| 3 あまり関心がない | } | → 【問 15-②】 へ |
| 4 全く関心がない | | |

問 15-① 前問（問 15）で、1または2に回答された方にお聞きします。関心がある理由としてあてはまるものをいくつでも選んで、番号に○をつけてください。

- 1 自分の暮らし向きに直接関係があるから
- 2 町政を身近に感じているから
- 3 政治・行政に興味があるから
- 4 町をもっとよくしたいから
- 5 町民としての義務であると思うから
- 6 その他（具体的に ）

問 15-② 前問（問 15）で、3または4に回答された方にお聞きします。関心のない理由としてあてはまるものをいくつでも選んで番号に○をつけてください。

- 1 自分の暮らし向きにあまり関係がないから
- 2 忙しくて町政のことを考える暇がないから
- 3 政治・行政に興味がないから
- 4 今の町政はうまくいっていると思うから
- 5 個人の意見は行政に反映されにくいと思うから
- 6 その他（具体的に ）

問16. あなたは、町政や町の行事などについて、どこから情報を得ていますか。次の中からいくつでも選んで、番号に○をつけてください。

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1 広報みよし | 2 議会だより |
| 3 三芳町ホームページ | 4 三芳町くらしの便利帳 |
| 5 新聞（地方紙、タウン誌を含む） | 6 回覧板や掲示板、自治会を通じて |
| 7 町議会議員を通じて | 8 近所の人や家族・友人などから |
| 9 その他（具体的に | ） |

問17. あなたが、ご自分の意向を町政に伝える場合、どのような方法を選びますか。次の中からいくつでも選んで、番号に○をつけてください。

- 1 窓口で直接話をする
- 2 役場に電話をかける
- 3 「町長への手紙」「町長へのメール」（町政への意見提案制度）を利用する
- 4 担当課にメールをする
- 5 町議会議員を通じて伝える
- 6 区・自治会役員を通じて伝える
- 7 計画や施策に対する意見公募の機会を利用する（パブリックコメントなど）
- 8 審議会等の公募委員に応募する
- 9 その他（具体的に

問18. あなたは、三芳町の行政運営に対して特にどのようなことを望みますか。次の中からいくつでも選んで、番号に○をつけてください。

- 1 地域と行政の連携強化、住民参画や協働の推進
- 2 業務への民間活力の導入（施設の民営化など、企業やNPOによる公共サービス）
- 3 無駄の削減などの行政改革や健全な財政運営
- 4 行政職員の資質向上
- 5 窓口や電話などの対応・サービスの改善
- 6 窓口業務の迅速化・手続きの簡素化
- 7 閉庁日や時間外などの行政サービスの対応
- 8 親しみのもてる役場の環境づくり
- 9 情報公開の推進
- 10 その他（

問19. 三芳町を一層住みやすい町にするためには、今後どのような施策に力を入れるべきだと思いますか。次の中から20項目以内を選んで、番号に〇をつけてください。

【環境】

- 1 景観や街並みの整備 2 自然環境の保全 3 公園や緑地の整備
4 ごみの減量化・リサイクルの推進 5 ごみ・し尿処理などの廃棄物対策
6 大気・水質・騒音などの環境対策 7 再生可能エネルギーの普及促進

【都市整備】

- 8 土地区画整理など良好で安全な市街地形成 9 身近な生活道路の整備
10 主要道路の整備 11 水の安定供給など上水道の整備 12 下水道の整備
13 大雨のときの治水対策 14 バスなど公共交通網の整備

【安全対策】

- 15 消防や防火対策 16 避難所の整備や防災訓練などの防災対策
17 防犯対策 18 歩道や信号機など交通安全対策 19 放置自転車対策や駐輪場の確保

【子育て支援】

- 20 安心して妊娠・出産・育児ができる環境の整備 21 保育施設や保育内容の充実
22 児童館、学童保育施設や制度の充実 23 共働き世帯の子育て支援
24 ひとり親家庭や低所得者のための援助

【保健福祉】

- 25 高齢者や障がい者に対する地域での支えあい 26 高齢者のための施設や制度の充実
27 障がい者のための施設や制度の充実 28 健康保険や年金制度の情報提供・相談
29 介護サービスや相談体制の充実 30 日常の保健・医療サービスの充実
31 救急医療体制の充実

【産業経済】

- 32 地元の農産物の流通など農業の振興 33 地場産業の育成など工業の振興
34 商業・サービス業の振興 35 働く場所の確保や就労支援
36 中小企業支援 37 観光施策・町のPR戦略 38 企業誘致

【教育・文化】

- 39 生涯学習の促進や支援 40 小・中学校の施設や教育内容の充実
41 子ども会活動や非行防止など青少年育成 42 図書館・公民館・文化会館等文化施設の充実
43 芸術・文化活動の促進や支援 44 スポーツ・レクリエーション施設の整備や活動支援
45 文化財の保護や活用

【コミュニティ・行財政】

- 46 地域の祭り・イベント・各種行事の充実 47 男女共同参画・国際交流・人権啓発
48 行政情報の公開や提供 49 町政への住民参加・協働の推進 50 住民主体のまちづくり支援
51 施設相互利用等周辺市町村との広域サービス 52 役場庁舎の施設やサービス
53 出張所の施設やサービス 54 町職員の対応やマナー 55 行財政改革（経費節減等）

【その他】

- 56 その他（具体的に _____ ）

Ⅵ 町の将来イメージ

問20. あなたが考える三芳町のイメージとして、「現在のイメージ」と、将来期待する「これからのイメージ」について、それぞれ次の言葉の中から近いものをいくつでも選んで○をつけてください。

	現在の三芳町のイメージ ↓	これからの三芳町のイメージ ↓
1) 自立した	1	1
2) 魅力のある	2	2
3) 元気な	3	3
4) 安心・安全な	4	4
5) 緑豊かな	5	5
6) ぬくもりのある	6	6
7) 活力ある	7	7
8) 文化的な	8	8
9) 安全な	9	9
10) 支えあいの	10	10
11) 健康的な	11	11
12) 自然環境がよい	12	12
13) 調和のとれた	13	13
14) やさしい	14	14
15) 明るい	15	15
16) 先進的な	16	16
17) 持続的な	17	17
18) 誇らしい	18	18
19) コンパクトな	19	19

問21. あなたの描く三芳町の理想の将来像はどのようなものでしょうか。具体的な将来のイメージを自由にご記入ください。

三芳町の具体的な将来イメージ

問22. 三芳町の郷土の誇りや宝、シンボルなどについて、あなたはどのように思いますか。
 次の(1)から(5)の項目について、代表的なものを1つずつ選んで、○をつけてください。

	回答欄
(1) 三芳町の誇り・宝	1 自然・緑 2 雑木林・平地林 3 ケヤキ並木 4 川越街道の松並木等 5 三富新田 6 循環型農法 7 農地・農業・農産物 8 そば・菜の花畑 9 こぶしの里 10 多福寺・木ノ宮地藏堂 11 歴史民俗資料館池上家住宅 12 旧島田家住宅 13 車人形 14 里神楽 15 みよしまつり 16 その他(具体的に)
(2) 来訪者を案内する場所	1 多福寺・木ノ宮地藏堂 2 三富新田 3 ケヤキ並木 4 こぶしの里 5 そば・菜の花畑 6 歴史民俗資料館池上家住宅 7 旧島田家住宅 8 文化会館・体育館 9 三芳PA 10 みよしまつり 11 その他(具体的に)
(3) 三芳町のおみやげとして利用するもの	1 富の川越いも 2 さつまいも加工品 3 狭山茶 4 狭山茶加工品 5 そば 6 そば加工品 7 みよし野菜 8 みよし野菜加工品 9 工場直売品 10 その他(具体的に)
(4) 三芳町の象徴(シンボル)	1 自然・緑 2 雑木林・平地林 3 ケヤキ並木 4 川越街道の松並木等 5 三富新田 6 こぶしの里 7 役場 8 多福寺・木ノ宮地藏堂 9 歴史民俗資料館池上家住宅 10 旧島田家住宅 11 車人形 12 里神楽 13 みよしまつり 14 農地・農業・農産物 15 みらいくん・のぞみちゃん 16 富の川越いも 17 狭山茶 18 そば 19 みよし野菜 20 文化会館・体育館 21 三芳PA 22 ハンドボール 23 花 24 その他(具体的に)
(5) 三芳町の色(シンボルカラー)	1 黄 2 黄緑 3 緑 4 青 5 茶色 6 紅色 7 赤 8 オレンジ 9 その他(具体的に)

問23. あなたは次のような三芳町の特徴をご存知でしたか。それぞれについてあてはまる番号に○をつけてください。

(1) 三芳町は、現在「東京に一番近い“町”」であるということ	1 知っていた	2 知らなかった
(2) 三芳町は一般会計歳入の6割を町税が占める地方交付税不交付団体であること	1 知っていた	2 知らなかった
(3) 昼間夜間人口比率が埼玉県で最も高いこと	1 知っていた	2 知らなかった

問24. 三芳町の将来の人口規模について、どのようにお考えでしょうか。あなたのお考えに近いものを1つ選んで、○をつけてください。

- 1 人口を拡大していく
- 2 現在の人口規模を維持する
- 3 自然な人口減少に合わせて、人口規模を縮小していく
- 4 その他（ ）

問25. 三芳町のまちづくりの方向性については、どのようにお考えでしょうか。あなたのお考えに近いものを1つ選んで、○をつけてください。

- 1 自然を保全し、環境にやさしい「環境と共生したまち」
- 2 区画整理や公園整備等による優良な住宅地としての「住宅のまち」
- 3 教育や芸術・文化の水準が高い「教育と芸術・文化のまち」
- 4 多くの人を訪れる「観光のまち」
- 5 高齢者や体の不自由な方々が安心して暮らせる「健康福祉のまち」
- 6 子育て世代を中心に若い世代が住みたいと思う「子育てのまち」
- 7 産業誘致により税収を増やし、財政的に豊かな「産業のまち」
- 8 その他（ ）

問26. 三芳町の少子高齢化対策について、どのようにお考えでしょうか。あなたのお考えに近いものを1つ選んで、○をつけてください。

- 1 今後増加する高齢者の保健福祉や介護に力を入れる
- 2 高齢者対策と少子化対策にバランスよく対応する
- 3 少子化対策のための子育て環境の整備や若い人の定住促進に力を入れる
- 4 その他（ ）

問29. 最後に、三芳町の今後の町政全般に対してご意見、ご提案がありましたら、ご記入ください。

- アンケートにご協力くださいますて、誠にありがとうございました。
- 同封の返信用封筒に入れ、封をして10月24日までにお近くの郵便ポストに投函してください。
- 「まちづくりワークショップ」に参加を希望される方は、次のページにお名前とご住所等をご記入ください。

まちづくりワークショップへの参加希望

三芳町では、「第5次総合計画」の策定の基礎資料とするため、この意識調査とは別に、住民の方々に三芳町の未来に向けての課題や施策提案などについて話し合ってください「まちづくりワークショップ」等を計画しています。

参加ご希望の方は、下欄にお名前とご住所等をご記入ください。後日、日程と会場のご案内を送らせていただきます。実施は今年の11月以降を予定しています。いずれのワークショップも開催日は、土日祝日を予定しています。参加者には、薄謝を用意しています。

※日程や地域のバランスなどを考慮して選考させていただきますので、ご希望に沿えないこともございます。あらかじめご容赦ください。

どちらかの番号に○をしてください

1 参加を希望する



参加を希望するワークショップの番号に○をつけて
下欄にお名前、住所等をご記入ください。

両方のワークショップへの参加希望も可能です。

2 参加を希望しない



お名前・住所等の記入は不要です。

1 まちづくりワークショップ

※住民のみなさんの声を計画づくりに反映していくための企画。全4回を予定しています。

2 アンダー39まちづくりワークショップ

※39歳以下の住民を対象とした若い世代による住みやすい町を考える企画。1回を予定。

ふりがな	
お名前	
ご住所	〒
お電話番号 日中通じるもの	
eメールアドレス	@

※ご記入いただきました内容につきましては、「まちづくりワークショップ」「次世代リーダーミーティング」以外の目的には一切使用しません。